

1 月定時総会議題

日時：2015年 1月29日（木） 18時00分

場所：シティプラザホテル 5F 鳳凰の間

第1号議案 2014年度事業報告及び収支決算の件

第1号議案 2014年度事業報告及び収支決算の件

① 2014年度事業報告書

2014年度事業報告書

公益社団法人 白浜・田辺青年会議所
理事長 早稲田 好則

はじめに

昨年度の和歌山ブロック大会主管、本年度近畿地区大会主管、2015年度には創立50周年の大きな節目を迎えます。その2年目を担う本年は、結～広げよう絆の「わ」～を基本理念とし、メンバー一同、人と人、地域と地域を結ぶ懸け橋となり、確かな未来を見据え、青年としての英知と勇気と情熱を持って運動を展開してまいりました。

- ・魅力ある組織、誇りある組織へ
- ・まちづくり事業の実施
- ・近畿地区大会の実施
- ・地域連携型による青少年の健全育成
- ・2015年度設立50周年に向けて

まず冒頭に、2014年度 公益社団法人 白浜・田辺青年会議所の運動に対しまして、深いご理解と多大なるご協力をいただきました地域関係諸団体の皆様方、様々な場面で叱咤激励、アドバイスをいただきました先輩諸兄の皆様方に厚く御礼申し上げます。

ここに本年度の活動展開を総括し、本年度の事業報告とさせていただきます。

～「魅力ある組織、誇りある組織へ～公益法人として

中田委員長率いる総務委員会では、公益に即した活動に責任と自覚を持ち、青年会議所の活動を支える要となる組織運営、財務管理を確実に行っていただきました。

1月の総例会では、本年たくさんの大きな事業を控えている中、その新体制のスタートに際し、メンバー一同が顔を合わせ、より結束を深められる総例会で、メンバーの心が一つとなり素晴らしいスタートを切ることができ、1年間を無事終えることができました。また、7月例会事業では、「BCPについて学ぼう」～地域で永く生き抜くために～と題

し、大山 敬 氏をお招きし、我々の運動の下支えとなっている本業をあらゆるリスクから守り、地域で永く生き抜いていく為の備えについて学ぶ講演会を開催いたしました。経営者である私たちの心のありようを学ぶことができメンバーの成長の一助となりました。そして、和歌山ブロック大会におきまして、昨年のまちづくり事業が最優秀賞に選ばれました。事業の素晴らしさはもとより、総務委員会の入念な準備があったからこそ最優秀賞に結びついたと確信しています。さらに、公益法人としての基本業務もしっかりとこなしていただき、青年会議所のあり方をきちんと認識し財務管理をしっかりと行っていただきました。メンバー一人ひとりが公益法人としての在り方を十分に理解し行動できたと確信しております。

～魅力ある組織、誇りある組織へ～新しい仲間との出会い

田中委員長率いる拡大広報委員会では、新しい仲間を募りながら、さまざまな事業への参加、そして青年会議所の意義や魅力を幅広く発信していただきました。新しい仲間が6名増え、2月に行った例会事業で会員の拡大について学び、この一年間の拡大に対する運動こそが次年度につながり、新しい仲間が電波塔となりさらなる仲間との出会いが待っていると確信しております。また、渉外活動においてたくさんの大会、運動に引率していただき、メンバーの資質向上に大きく貢献していただきました。共に学び共に経験することは、メンバーの友情を育むことはもとよりこの経験こそが我々自身の魅力であり成長であると確信しております。

9月例会では、ニュービジネスプランについて考え、ニュービジネスや既存のビジネスにおける課題や脅威を可視化することにより、具体的な方策を考える良い機会となり、ニュービジネスプランについて考え、ニュービジネスや既存のビジネスにおける課題や脅威を見つめなおすことで、具体的な方策を考える一助となりました。我々は経営者として、ビジネスに大切な心得を教わり今後会社を経営していく上での方策を考える良い機会となりました。

新しい仲間との出会いや、多くの時間をメンバーと共有したことで、一人の青年としての成長の糧となり、さらには自分の得た知識や経験を内外に幅広く発信することにより、JCの魅力を多くの皆様に理解していただけたと確信しております。

～魅力ある組織、誇りある組織へ～学びから確かな成長へ

西原委員長率いるアカデミー委員会では、青年会議所のあり方を見つめ直していただき、青年会議所が地域に必要なとされる組織となるために、自ら考え自発的に行動できる人

材の育成と、青年会議所活動における様々な機会や出会いの大切さを新メンバーに伝えていただきました。

5月合同例会では、(一社)新宮青年会議所との合同例会を行い、本年度は新宮の地でドッジボールを行い、両L・OM混合のチームにて対戦し交流や親睦を図りました。新入会員が企画、打ち合わせを行い他の青年会議所とスポーツを通じて交流を図ったことは新入会員にとって良い刺激となり、自分が所属する青年会議所だけでなく他の青年会議所と交流することは新入会員にとって今後の青年会議所活動に良い刺激になりました。また、両L・OMのメンバー同士が更なる友情を育むことができ、OM間の垣根を越えた交流を図ることができたと確信しております。

11月に行われたアカデミー事業の講演会では、「21世紀を担う子どもを育てる」～心を豊かにする教育とは～と題し、講師先生にアグネス・チャン 氏をお迎えしご講演頂きました。地域の皆様と共に講演会を聞き、共に学び共に考える良い機会となりました。子を育てる親として地域の大人として、考えは同じですし子育てに対する悩みも同じです。この講演会を地域の皆様と共有したことで、講演を聞いた一人ひとりが電波塔となり次世代を担う子どもたちが素晴らしい大人になることを願っております。このアカデミー委員会事業を通じて入会員の素晴らしい成長を見ることができ、西原委員長の背中を見て育ったメンバーが青年会議所を担っていかれると確信しております。

～まちづくり事業の実施～

小山委員長率いるまちづくり委員会では、子どもたちに温かく、心から接し、未来の希望を育てていくために、「紀南Future Kids Project 2014 ～未来を担う子どもたちのために～」と題し事業を開催しました。

私たちの住むこの地域にもたくさんの職業があり、子どもたちは自分たちの住む地域にどれだけの職業があるのか、また、現代社会におけるお金の重要性など教えるとともに、子どもたちが少しでも早い段階で自分の未来に興味を持つことが重要です。まずは見てみる、聞いてみる、そして、実践してみることを念頭に置き、私たちは地域の方々と手を取り合い、この地域の職業を子どもたちに幅広く発信し、次代を担う宝である子どもたちに、体験出来る場を創設し事業を展開していただきました。

今年のまちづくり事業は、田辺東ロータリークラブ様の45周年記念事業と共同開催ということもあり、大きな事業を開催することができました。田辺東ロータリークラブ様との綿密な打ち合わせの中、たくさんの他団体の皆様のご協力と、地域の皆様のご協力により、数多くの職業を子どもたちに体験をさせてあげることができました。一人でも多くの子どもたちに職業を体験させてあげたいという想いが、来場した子どもたちを退屈させることなく多くの職業を体験できたことが、子どもたちの笑顔につながりました。この事業

を通じて子どもたちは、自身の将来に興味を持ち、親の仕事に関心を持ち、親のありがたさや仕事の難しさ、そして何より将来について考えるよい機会となったと確信しております。地域の皆様からの多大なるご協力のもと、地域の未来を担う子どもたちのためになったと確信しております。

8月例会では、委員会の枠を超えたメンバー構成のもと力をあわせカレーという一つの料理を作ることで、メンバー同士の新たな友情を育めたとともに、大きな事業が終わった後で気持ちが緩まないように意見を出し合い、協力する大切さを再認識する良い機会となりました。また、すべての事業、大会等に参加、そして協力を促していただき、一つ一つの事業に多くのメンバーが参加したことは、出席率の向上につながり、さらには今後の活動と個々の成長の飛躍につながったと確信しております。

～近畿地区大会の実施～

本年は公益社団法人白浜・田辺青年会議所が主管で、近畿地区大会を開催いたしました。「人と地域が共鳴する近畿の実現、笑顔と活気が満ち溢れる未来へ」をテーマに、癒しとおもてなしの心で近畿地区すべての皆様をお迎えし、この近畿から、笑顔と活気を全国へ発信できるようまた日本で一番輝いている地区であるために癒しと、おもてなしあふれる大会を開催できるよう誠心誠意全力で取り組んでまいりました。

白浜・田辺の地で近畿地区大会が開催されるのは37年ぶりのことであり、メンバー一人ひとりが志を高く持ち、近畿地区内から集う志高き、意気あふれる青年会議所メンバーが大会を通じて「和」をもって互いに協力しあい、つながりの「輪」を上げ、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させ、近畿地区内のメンバーの皆様とつれもて絆の「わ」を結ぶことができ、かけがえのない友情を育むことができた確信しております。また、近畿各地の「たから」とともに地域のソーシャルストックを活かし、地域住民と手を取り、地域の魅力を近畿内に向け強く発信することができたことは、地域のさらなる発展につながったと確信しております。そして、先輩諸兄が築いてこられた規律ある式典運営を継承し、公益社団法人 白浜・田辺青年会議所らしい記念式典が行えたと確信しております。ご協力いただいた地域の皆様、諸団体の皆様、そして95青年会議所の理事長をはじめとされますメンバーの皆様は心より感謝と御礼を申し上げます。

～新たな挑戦～

池田委員長率いる絆の「わ」式典事業委員会では、地域の魅力を活かし、37年ぶりの近畿地区大会を祝い記念事業を通じて市民が地域の魅力を再認識していただくとともに広

く発信していただきました。「絆で結ぶ地域の宝」～みんなで挑もう世界記録～と題して、地域をあげて我々の青年会議所の歴史の中で、初めてギネスブックに挑戦をいたしました。地域の宝とも言える魅力を内外に発信し、LOM全体で広報活動を行って頂いたおかげで、当公式認定員から世界記録達成の発表をいただいた際には、会場内は大きな歓声と感動に包まれました。この事業を通して、何事にも果敢に挑む大切さを学ぶことができました。本当にできるのかという不安の中、地域住民と青年会議所メンバーが手と手を取り合い、無事ギネス世界記録を達成できたことは、我々の自信となり、強い絆の「わ」を結ぶとともに、地域活性化の一助となったと確信いたします。また、6月例会において、「結」～LOMの絆、ここに結束！～と題して例会を行い、講師に田中 真論 氏をお招きし、近畿地区大会主管立候補に至った経緯や想いについてお話しいただいたことで、当時の想いをメンバー全員が共有することができ、大きな絆の「わ」を結び近畿地区大会、そして、近畿地区大会記念事業に向けて弾みをつけることができました。

～家族との絆～感謝の気持ちを込めて

富士員長率いる絆の「わ」大懇親会委員会では、11月に家族例会を行っていただきました。本年は、例年になく一人ひとりが多忙な年であり、家族への負担も計り知れませんでした。メンバーの家族が交流を図ることはもとより、子どもたちの楽しそうな笑顔を見た時には、我々がおもてなしをするつもりでしたが、逆に心からされました。また、メンバーのご家族に青年会議所の運動をご理解していただける機会となり、メンバーとメンバー家族との絆の「わ」を今以上に強く結び、深める事ができたと確信しております。

～青少年に向けて～

出羽委員長率いる青少年委員会では、「地域の子どもは地域で育てる」いつの時代も地域の宝であり次世代を担う希望である青少年を未来に導いてくために、学校、地域、家庭と協力し様々な業に取り組んでまいりました。

3月例会において、まずは我々自身が歴史の中から先人が受け継いできた美德や道義、価値観を見直し継承し、近現代史を学ぶことから始めました。この国を創ってこられた先人を敬い、家族愛、愛郷心を醸成することで、青年経済人としての自覚と規律に磨きをかけ次世代を担う青少年が自身の将来に夢と希望を抱けるよう、そして社会に対する不安を吹き飛ばし、自身の将来に向かって邁進できるよう語りかけていくJCティーチャーに弾みをつけることができ、青少年が将来にむけての夢や希望を育む一助となりました。また、10月例会においては、日本会議和歌山会長、角 莊三 氏をおむかえし、戦後の教育・

メディア報道の問題点、そして、それらが成した国家的歪み、本来在るべき日本国・国民の主権意識や、先々で直面しかねない国家的リスクと必要な備えについてご講演いただきました。大切なことは、今後どのようにして先祖代々の歴史や文化を伝えていくのか、子どもたちの未来を守り保っていくのか、そして今後の国のあり方を考える機会となりました。

青少年育成事業では、JCサマーキャンプ2014 ～感動と発見の夏休み～と題し、多くの仲間と接し、真剣に議論し、みんなで協力し合い一つのを成し遂げるチームワークを創造し、想像力、発想力、リーダーシップ、思いやりの心を養う事業を行いました。

多くの仲間と出会い2日間をともに行動することでコミュニケーション能力を高めることができました。また、野外活動を通じて、自然の厳しさや恩恵を知り、動植物に対する愛情を培うなど、自然や生命への畏敬の念を育て、自然の大切さを理解する機会となり、自分の力でたくましく「生きる力」を養うことができ、青少年の活力となり、自分の力で未来を切り開く人材へと成長することができたと確信します。

～白浜・田辺JCの日 50周年に向けて～

稲田議長率いる近畿地区大会 50周年準備特別会議では「白浜・田辺JCの日」を開催し、OB会員と現役会員が一堂に会し白浜・田辺青年会議所の創立を祝うとともに、2013年の和歌山ブロック大会主管、本年の近畿地区大会主管を経て、2015年度には創立50周年という大きな節目を迎えるにあたり、全員が50周年を迎えるという意識の共有を図るために行いました。大きな大会を終え、50周年に向けて会員の資質向上、意識の共有ができ、足並みをそろえることができました。

50周年を迎えるにあたり、先輩諸兄が築き上げてこられた伝統や精神を引き継ぎ、今までご理解、ご協力賜りました各関係諸団体の皆様をはじめ、支えて下さった多くの皆様に感謝し、50周年を迎えましょう。

～結びに～

結～広げよう絆の「わ」～を基本理念に掲げ、英知と勇氣と情熱を持ち、和をもって輪を創造し、輪をもって未来へ羽ばたき、すべてを結ぶ懸け橋となれるよう取り組んでまいりました。何事にも果敢に挑み続けてきた2014年、地域と、そして、多くのメンバーと強い絆で結ばれ「わ」を育むことができた1年でした。失敗を恐れることなく斬新な発想で数々の事業を展開してきたことは、地域にとって、我々メンバーにとってかけがえのない1年となったことはいくともありません。目で見たもの、肌で感じたもの、自分で取

組んだことはすべて真実であり、その機会は偶然ではなく必然であります。今後も機会を大切に何事にも率先して行動し、参画していきましょう。

中期ビジョン5か年計画から始まり、私たちは新しき一步を踏みだし、輝かしい未来の希望を育み、心ひとつに足並みをそろえ、そして本年、結「わ」をもって全員で取り組んできました。2015年は公益社団法人 白浜・田辺青年会議所創立50周年を迎えます。中田理事長の掲げるCelebrate～価値ある組織へ、今も昔も、これからも～を基本理念に掲げ、素晴らしい伝統を築いてこられました先輩諸兄をはじめ、今までご支援ご協力いただきましたすべての皆様とともにお祝いし、今も昔もこれからも変わらない伝統を継承しつつ、「現在と戦い、未来を創造するには、往々にして過去が最も有効な武器なのである。（ジュリアン・グリーン）」という言葉があるように、個々の経験を活かすことで、確かな未来を創造し「明るい豊かな社会の実現」に向けて、価値ある組織への更なる進化を目指し、運動を展開してまいります。地域になくてはならない青年組織の団体として、更なる進化を遂げ、明るい未来が描かれると信じております。

本年、多大なるご協力とご理解をいただきましたすべての皆様に心よりの感謝を申し上げますとともに、2015年度も変わらぬご厚情、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、2014年度の事業報告とさせていただきます。

和をもって輪を創造し

輪をもって未来へ羽ばたこう

「結」すべてを結ぶ懸け

②各委員会事業報告書

- 1) [総務委員会](#)
- 2) [アカデミー委員会](#)
- 3) [拡大広報委員会](#)
- 4) [青少年委員会](#)
- 5) [絆の「わ」式典・事業委員会](#)
- 6) [絆の「わ」大懇親会委員会](#)
- 7) [まちづくり委員会](#)
- 8) [地区大会実行委員会](#)

③出向者事業報告書

・近畿地区協議会

- 1) [近畿地区協議会 副会長](#)
- 2) [意気あふれる人財育成委員会](#)
- 3) [持続可能な近畿確立委員会](#)
- 4) [地区大会運営委員会](#)

・和歌山ブロック協議会

- 1) [総務褒賞委員会](#)
- 2) [会員交流委員会](#)
- 3) [リーダー育成委員会](#)
- 4) [まちづくり委員会](#)
- 5) [ひとづくり委員会](#)
- 6) [会員拡大委員会](#)
- 7) [財務運営会議](#)
- 8) [運営グループセクレタリー](#)

④総会報告、例会報告、理事会報告

2014年度 定時総会報告書

定時総会

日時：2014年1月23日（木） 18時00分

場所：シティプラザホテル 5F 鳳凰の間

審議事項

第1号議案	公益社団法人白浜・田辺青年会議所定款変更の件	承認
第2号議案	公益社団法人白浜・田辺青年会議所諸規定変更の件	承認
第3号議案	2013年度事業報告及び収支決算の件	承認
第4号議案	理事、監事及び顧問選任の件	承認

2014年度例会報告

1月例会

日 時 平成26年 1月23日(木) 18時00分
場 所 シティプラザホテル 5F 鳳凰の間

2月例会

日 時 平成26年 2月20日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3F 大会議室
タイトル 広げよう拡大の「わ」～拡大について考えよう～
講 師 松田 三郎 君(2011年度魅力発信委員長)
澤村 公道 君(2012年度拡大交流委員長)

3月例会

日 時 平成26年 3月20日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3F 大会議室
タイトル 近現代史から学ぼう ～この日本(くに)のあゆみ～

4月例会

日 時 平成26年 4月17日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3F 大会議室
タイトル 「紀南Future Kids Project 2014
～未来を担う子どもたちのために～」事業説明会

5月例会(新宮JCとの合同例会)

日 時 平成26年 5月24日(土) 18時00分
場 所 新宮市 佐野体育館
タイトル 「広げよう絆の「わ」、輝く明日のために～5月合同ドッジボール例会」

6月例会

日 時 平成26年 6月19日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3F 大会議室
タイトル 「結」～LOMの絆、ここに結束!～
講 師 田中 真論氏

7月例会

日 時 平成26年 7月17日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3F 大会議室
タイトル 「BCPについて学ぼう」～地域で永く生き抜くために～
講 師 大山 敬氏

8月例会

日 時 平成26年 8月21日(木) 19時00分
場 所 みなべ町生涯学習センター 1F大会議室/2F調理実習室
タイトル 絆スパイス注入!
～みんなで作ろう!つれもて食べよう!「結」カレー～

9月例会

日 時 平成26年 9月18日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3階 大会議室
タイトル 「ニュービジネスプランについて考えよう」～ネクストイノベーション～
講 師 山田 晃司 氏

10月例会

日 時 平成26年10月16日(木) 19時00分
場 所 田辺商工会議所 3階 大会議室
タイトル 「戦後総点検」～この日本(くに)のあり方～
講 師 角 莊三 氏
アーティスト 山口 采希 氏

11月例会

日 時 平成26年11月16日(日) 11時00分
会 場 西山浄土宗 新福寺、向かいの河原
タイトル ～みんなでいこら つれもて結ぼう 家族の「わ」～

12月例会

日 時 平成26年12月11日(木) 18時00分
場 所 ホテル シーモア 6Fサンコースト/4F第2宴会場

第1回理事予定者会議

日時：2013年 8月28日(水) 19時00分～21時27分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|--------------------------|----|
| 1) 2014年度組織図(案)承認の件 | 承認 |
| 2) 2014年度委員会職務分掌(案)承認の件 | 承認 |
| 3) 2014年度正副委員長他役員(案)承認の件 | 承認 |
| 4) 2014年度委員会委員配属(案)承認の件 | 承認 |
| 5) 紀州口熊野マラソン後援依頼(案)承認の件 | 承認 |

第2回理事予定者会議

日時：2014年 9月18日(水) 19時08分～23時52分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|---|------|
| 1) 2014年度組織図修正(案)承認の件 | 承認 |
| 2) 2014年度正副委員長他役員修正(案)承認の件 | 承認 |
| 3) 2014年度委員会委員配属修正(案)承認の件 | 承認 |
| 4) 2014年度新入会員選考委員会正副委員長及び委員任命(案)承認の件 | 承認 |
| 5) 2014年度近畿地区大会、50周年準備特別会議議長及び委員任命及び職務分掌(案)承認の件 | 承認 |
| 6) 2014年度地区大会実行委員会正副委員長及び委員任命(案)承認の件 | 取り下げ |
| 7) 2014年度総例会日及び理事会日(案)承認の件 | 取り下げ |

第3回理事予定者会議

日時：2013年10月16日(水) 20時04分～23時40分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|--------------------------------------|----|
| 1) 2014年度地区大会実行委員会正副委員長及び委員任命(案)承認の件 | 承認 |
| 2) 2014年度総例会日及び理事会日(案)承認の件 | 承認 |
| 3) 2014年度各委員会例会事業担当(案)承認の件 | 承認 |

第4回理事予定者会議

場所：テンコウライフ会議室

審議議題

- | | |
|------------------------------|----|
| 1) 2014年度出向者(案)承認の件 | 承認 |
| 2) 2014年度内規(案)承認の件 | 承認 |
| 3) 2014年度委員会事業計画(案)承認の件 | 承認 |
| 総務 アカデミー 拡大広報 青少年 絆の「わ」式典・事業 | |
| 絆の「わ」大懇親会 まちづくり 各委員会 | |

第5回理事予定者会議

日時：2013年12月11日(水) 19時04分～00時35分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|----------------------------------|----|
| 1) 2014年度内規(案)承認の件 | 承認 |
| 2) 2014年度一般会計・基金会計収支当初予算書(案)承認の件 | 承認 |
| 3) 公益目的事業計画書(案)承認の件 | 承認 |
| アカデミー 青少年 絆の「わ」式典・事業 まちづくり 各委員会 | |
| 4) 1月例会(案)承認の件 | 承認 |
| 5) 2014年度出向者委員会配属(案)承認の件 | 承認 |

第6回理事予定者会議

日時：2014年 1月 9日(木) 19時05分～00時44分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|----------------------------|----|
| 1) 仮会員入会者適否(案)承認の件 | 承認 |
| 2) 特別会員入会(案)承認の件 | 承認 |
| 3) 2月例会(案)承認の件 | 承認 |
| 4) 青少年育成事業計画書・予算(案)承認の件 | 承認 |
| 5) 2014年度出向者委員会追加配属(案)承認の件 | 承認 |

第1回理事会

日時：2014年 1月23日(木) 18時44分～19時01分
場所：シティプラザホテル 5F 鳳凰の間

審議議題

- | | |
|------------------------------------|----|
| 1) 理事長、副理事長及び専務理事選任（案）承認の件 | 承認 |
| 2) 第6回理事予定者会議審議可決議案一括承認の件 | 承認 |
| 3) 2013年度一般会計・基金会計収支当初予算書修正（案）承認の件 | 承認 |

第2回理事会

日時：2014年 2月13日(木) 19時04分～10時58分
場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|---|----|
| 1) 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会及び
総務企画専門委員会委員就任（案）承認の件 | 承認 |
| 2) 出向者追加（案）承認の件 | 承認 |
| 3) 和歌山ブロック大会全員登録（案）承認の件 | 承認 |
| 4) 1月例会事業計画書・補正予算（案）承認の件 | 承認 |
| 5) 1月例会事業報告書・決算（案）承認の件 | 承認 |
| 6) 3月例会（案）承認の件 | 承認 |
| 7) まちづくり事業計画書・予算（案）承認の件 | 承認 |

第3回理事会

日時：2014年 3月13日(木) 19時02分～22時48分
場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|------------------------------------|------|
| 1) 第18回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム後援（案）承認の件 | 承認 |
| 2) 4月例会（案）承認の件 | 承認 |
| 3) まちづくり事業計画書・修正予算（案）承認の件 | 承認 |
| 4) まちづくり委員会事業計画書・予算（案）承認の件 | 取り下げ |

第4回理事会

日時：2014年 4月10日(木) 19時03分～23時30分
場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|------------------------------|----|
| 1) 休会者（案）承認の件 | 承認 |
| 2) 田辺・弁慶映画祭実行委員会委員就任（案）承認の件 | 承認 |
| 3) 第28回弁慶まつり実行委員会委員就任（案）承認の件 | 承認 |
| 4) 5月例会日程変更（案）承認の件 | 承認 |
| 5) 2月例会事業報告書・決算（案）承認の件 | 承認 |
| 6) まちづくり事業計画書・修正予算（案）承認の件 | 承認 |
| 7) まちづくり委員会事業計画書・予算（案）承認の件 | 承認 |
| 8) 仮入会者適否（案）承認の件 | 承認 |
| 9) 新入会員正式入会適否並びに委員会配属（案）承認の件 | 承認 |
| 10) 5月例会（案）承認の件 | 承認 |

第5回理事会

日時：2014年 5月 8日(木) 19時07分～23時02分
場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- | | |
|---|----|
| 1) 近畿地区大会白浜田辺大会全員登録（案）承認の件 | 承認 |
| 2) 第3回「福島っ子、和歌山のびのび体験」事業協賛（案）承認の件 | 承認 |
| 3) ひきこもり支援啓発講演会事業後援（案）承認の件 | 承認 |
| 4) 平成26年度親支援プログラム「おやじプロジェクト会議」
委員就任（案）承認の件 | 承認 |
| 5) 3月例会事業計画書・補正予算（案）承認の件 | 承認 |
| 6) 3月例会事業報告書・決算（案）承認の件 | 承認 |
| 7) 6月例会（案）承認の件 | 承認 |
| 8) 近畿地区大会記念事業計画書・予算(案)承認の件 | 承認 |

第6回理事会

日時：2014年 6月12日(木) 19時02分～00時00分
再開：2014年 7月 1日(火) 19時10分～20時18分
場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

1) 休会者（案）承認の件	承認
2) 田辺市価値創造プロジェクト検討委員会委員出向（案）の件	承認
3) 第8回田辺・弁慶映画祭後援（案）承認の件	承認
4) 4月例会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
5) 5月例会事業計画書・補正予算（案）承認の件	承認
6) 5月例会事業報告書・決算（案）承認の件	取り下げ
7) 7月例会（案）承認の件	承認
8) 近畿地区大会記念事業計画書・修正予算（案）承認の件	承認
9) 絆の「わ」大懇親会委員会事業計画書・予算（案）承認の件	承認
10) 青少年育成事業計画書・予算（案）の件	承認

第7回理事会

日時：2014年 7月11日(金) 19時30分～22時48分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

1) 仮入会者適否（案）承認の件	承認
2) 新入会員正式入会適否並びに委員会配属（案）承認の件	承認
3) 5月例会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
4) 8月例会事業計画書・予算（案）承認の件	承認
5) 「白浜・田辺JCの日」式典・懇親会（案）承認の件	承認
6) 出向者追加（案）承認の件	承認

第8回理事会

日時：2014年 8月 7日(木) 19時06分～23時40分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

1) 理事会日程変更（案）承認の件	承認
2) 9月例会（案）承認の件	承認
3) まちづくり事業計画書・補正予算（案）承認の件	承認

第9回理事会

日時：2014年 9月12日(金) 19時15分～23時18分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

1) 退会者（案）承認の件	承認
2) 理事会日程変更（案）承認の件	承認
3) 平成26年度 田辺国際交流協会主催「国際理解講演会」 後援依頼(案)承認の件	承認
4) 6月例会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
5) 7月例会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
6) まちづくり事業報告書・決算（案）承認の件	承認
7) 10月例会（案）承認の件	承認
8) 「白浜・田辺JCの日」式典・懇親会事業報告書・決算（案）承認の件	承認

第10回理事会

日時：2014年10月 8日(水) 19時02分～22時53分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

1) 新入会員正式入会適否並びに委員会配属（案）承認の件	承認
2) 8月例会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
3) 11月例会日程変更（案）承認の件	承認
4) 11月例会（案）承認の件	承認
5) 近畿地区大会記念事業計画書・補正予算（案）承認の件	承認
6) 近畿地区大会記念事業報告書・決算（案）承認の件	承認
7) アカデミー委員会事業計画書・予算（案）承認の件	承認
8) 仮入会者適否（案）承認の件	承認

第11回理事会

日時：2014年11月13日(木) 19時00分～20時40分

場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

1) 退会者（案）承認の件	承認
2) 9月例会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
3) 12月例会（案）承認の件	承認

4) 青少年育成事業計画書・補正予算（案）承認の件	承認
5) 青少年育成事業報告書・決算（案）承認の件	承認
6) 絆の「わ」大懇親会委員会事業報告書・決算（案）承認の件	承認
7) まちづくり事業修正決算（案）承認の件	承認
8) 11月臨時総会議題（案）承認の件	承認
9) 公益社団法人 白浜・田辺青年会議所定款変更（案）承認の件	承認

第12回理事会

日時：2014年12月18日(木) 19時00分～
場所：田辺商工会議所 3階 特別会議室

審議議題

- 1) 退会者（案）承認の件
- 2) 10月例会事業計画書・補正予算（案）承認の件
- 3) 10月例会事業報告書・決算（案）承認の件
- 4) 11月例会事業報告書・決算（案）承認の件
- 5) 12月例会事業報告書・決算（案）承認の件
- 6) アカデミー委員会事業報告書・決算（案）承認の件
- 7) 青少年育成事業計画書・補正予算（案）承認の件
- 8) 青少年育成事業報告書・決算（案）承認の件
- 9) まちづくり委員会事業報告書・決算（案）承認の件
- 10) 2014年度事業報告及び予想決算（案）承認の件
- 11) 2014年度LOM内褒賞（案）承認の件
- 12) 理事長、副理事長及び専務理事選任（案）承認の件
- 13) 監事選任（案）承認の件
- 14) 理事予定者会議審議可決議案一括承認の件

⑥加盟団体一覧表、出向者一覧表

団体加盟一覧（賛助会員、特別会員、会員等）

2014年12月31日現在

・北方領土県民会議	
・田辺市暴力追放協議会	理事
・南方熊楠顕彰会	理事
・高速自動車道紀南延長促進協議会	常任委員
・(社)和歌山県青少年育成協会	正会員
・弁慶まつり推進団体協議会	
・円月太鼓保存会	顧問
・白浜・田辺ITビジネスモデル地区構想推進協議会	委員
・南紀白浜空港空の日記念事業実行委員会	委員
・田辺市市民活動センター	登録

出向者一覧

2014年12月31日現在

・FM TANABE 株式会社番組審議会	委員	小山 敦士	13/10/ 1～14/12/31
・田辺市ひきこもり検討委員会	委員	林 真吾	13/ 4/ 1～15/ 3/31
・紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会 田辺市実行委員会	委員	小山 敦士	
・平成26年度親支援プログラム「おやじプロジェクト会議」	委員	中田 隆晶	
・田辺市価値創造プロジェクト検討委員会	委員	中 裕文	

2014年度 委員会事業報告書

総務委員会

委員長	中田 隆晶
副委員長	松田 悠
委員数	5名
予算額	35,275円
決算額	34,365円

■ 事業報告

2014年度総務委員会は公益法人としての厳正で確実な組織運営と財務管理はもちろん、例会の準備、設営を通じて他の委員会との連携を深め、絆で結ばれた強固な組織の実現を目指して取り組んでまいりました。

1月の総例会は田辺シティプラザホテルにおいて開催しました。本年私達白浜・田辺青年会議所は例年同様の各種事業に加え、近畿地区大会の主管や田辺東ローターリークラブ様との共催となるまちづくり事業など、メンバー全員の力を結集しなければ為し得ない大きな事業を抱えておりました。その新体制のスタートに際し、メンバー一同が顔を合わせ、より結束を深める場として懇親会事業を設えました。近畿地区協議会からは竹本運営専務をはじめ三名のご来賓にお越しいただき、地区大会成功に向けた激励のお言葉を頂戴し、メンバーの心が一つに結ばれ、本年度の良いスタートが切れたと確信しております。7月例会事業では、大山 敬氏をお招きし、我々のJC運動の支えとなっている本業をあらゆるリスクから守り、地域で永くいき抜いていく為の備えについて学ぶ講演会を開催いたしました。軽妙な語り口から出る内容はテクニカルな話だけに終わらず、企業経営者としての心のありようまで学ぶことが出来、メンバー各位にとって心の成長にも寄与出来るものになったと確信しております。

また、公益法人としての基本業務でもある県担当部署への申請や報告手続きを委員会メンバーの協力を仰ぎながら滞り無く無事に完了することが出来ました。他にもブロック褒賞に2013年度まちづくり事業を申請し、事業の素晴らしさをありのまま伝えるべく、入念な準備の下、プレゼンテーションをして参りました。結果、最優秀賞をいただくことが出来ましたが、当時の副委員長として、プレゼン担当者として携われたことを誇りに思います。

総務委員会はメンバー数も少なく、予定者の段階で1名の退会者を出してしまうなど、不安なスタートを切りましたが、経験豊富で意欲が高い素晴らしいメンバーに支えられ、任期を全うすることが出来ました。また澤村担当は専務理事という立場で理事長の補佐から事務局の統括という例年の担当業務に加え、本委員会の担当まで受け持たれて日々多忙な中、丁寧な助言と激励を頂き、委員会運営を進めていく中で大きな励みになりました。本当に感謝いたしております。この1年間の委員長という経験を通じて多くのメンバーとこれまで以上の関わり合いを持ち、助け合いを積み重ねていく中で、JCという組織の魅力と奥深さを身を持って体感できた一年間だったと思います。このようなかけがえのない経験の場を与えて下さり本当にありがとうございました。

■ 例会事業

- ・事業名 「1月例会事業」
- ・タイトル 結 ～広げよう絆の「わ」～
- ・実施日時 2014年1月23日（木曜日） 20時30分～21時39分
- ・実施場所 紀伊田辺シティプラザホテル 5F 鳳凰の間
住 所：田辺市東山一丁目5番32号
TEL：0739-24-0400
- ・司 会 井上 周磨 君
- ・事業参加者 正会員56名、仮会員2名 出席率78.8%
- ・参加費 5,500円
- ・結果報告 本例会事業では新たな組織体制となったメンバーが集い、語り合い更に友情を深めることを目的に開催しました。大きな困難に立ち向かうには互いに助け合い、励まし合う心が必要です。今年も大小様々な事業をいくつも迎えることになりましたが、近畿地区協議会からお越しいただいたご来賓の方々との意見交換や会場にいる全員でのシュプレヒコールを通じて、メンバーが一致団結してやっていくことの大切さを感じていただくと共に、より一層絆を深めていただくことができたと確信しております。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 例会で割愛した各委員長による基本方針朗読を懇親会にて行う予定でしたが、やはりアルコールの入った場では、しっかり聴いていただく雰囲気作りが出来ず、結果途中断念せざるを得なくなりました。例会セレモニーまたは、乾杯前や乾杯直後などアルコールの深まっていないタイミングも検討すべきでした。

■ 例会事業

- ・事業名 「7月例会事業」
- ・タイトル 「BCPについて学ぼう」～地域で永く生き抜くために～
- ・実施日時 2014年7月17日（木） 20時05分～21時10分
- ・実施場所 田辺商工会議所3F 大会議室
- ・講師 大山 敬 氏
- ・司会 井上 周磨 君
- ・事業対象者 正会員、仮会員
- ・事業参加者 正会員53名、仮会員2名 出席率73.6%

- ・結果報告 県下で企業防衛セミナーなどを数多くこなされている大山 敬 氏を講師としてお招きし、組織がいつ直面してもおかしくないリスクと必要な備えについてお話しいただきました。講師の豊富な経験や深い見識に基づいた貴重なお話にユーモアを交え、メンバーの皆様到最后まで興味深く聴いていただける内容になっていたと思います。

我々が地域のために活動していく為の土台である本業を守り永く生き抜くために、様々なリスクに備えておくことの大切さを学ぶとともに、増えつつある労働災害の訴訟事例など具体例を基にした講演を通じ、企業を取り巻く環境の変化と、そういった事態を未然に防ぐための経営者としてのありようを学ぶことができたと確信いたします。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等
 1. 講師との打ち合わせを何度も重ねて準備してきた結果、講師の魅力的な人間性が発揮され、笑いも交えた中にも今後の本業経営に活かしていただける講演となり、メンバーの皆様にとって有益な事業になったと考えております。
 2. 前日投票に多くの参加をいただくなど、メンバー皆様の協力もあり投票が想定よりスムーズに進行し、講演開始時間が予定より早まることになってしまいました。進行状況に応じて3分間スピーチの人数を増減するなどの打ち合わせをアカデミー委員会と行っておくべきでした。
 3. 講師手持ちの新聞記事資料とメンバー配布したものとページ順が一部異なっており、話す内容と資料が合致しない箇所がありました。大きな違和感は無かったが、資料作成時に再度確認すべきでした。

2014年度 委員会事業費決算書

総務委員会

(単位：円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
1月例会	16,275	16,275	
7月例会	19,000	18,090	
合 計	35,275	34,365	

予算額合計 35,275円

決算額合計 34,365円

■ 委員会開催記録

		開催日	内容
(予定者)	第01回委員会	平成25年9月4日	1) 2014年度理事長所信について 2) 2014年度組織図について 3) 2014年度委員会職務分掌について 4) 2014年度正副委員長他役員について 5) 2014年度委員会委員配属について 6) 2014年度委員会事業計画(案)の件について
	第02回委員会	平成25年9月13日	1) 例会担当月(案)の件について 2) 2014年委員会事業計画(案)の件について
	第03回委員会	平成25年9月27日	1) 2014年度委員会事業計画(案)の件について 2) 2014年度各委員会例会事業担当月(案)の件について
	第04回委員会	平成25年10月25日	1) 2014年度委員会事業計画(案)の件について 2) 1月度定期総会(案)の件について
	第05回委員会	平成25年11月19日	1) 2014年度委員会事業計画(案)の件について 2) 1月度定期総会(案)の件について 3) 2014年度内規(案)の件について
	第06回委員会	平成25年11月28日	1) 1月度定期総会(案)の件について 2) 内規変更(案)の件について
	第07回委員会	平成26年1月7日	1) 1月総会準備について 2) 3月例会式次第(案)の件について
	第01回委員会	平成26年1月30日	1) 1月定期総会について 2) 1月例会事業計画書・補正予算(案)承認の件について 3) 1月例会事業報告書・決算(案)承認の件について
	第02回委員会	平成26年3月3日	1) 7月例会事業(案)の件について 2) 5月例会式次第について 3) 公益申請について
	第03回委員会	平成26年4月1日	1) 7月例会事業について 2) 6月例会式次第について
	第04回委員会	平成26年4月14日	1) 7月例会事業について
	第05回委員会	平成26年5月28日	1) 7月例会について 2) 8月例会式次第について

第06回委員会	平成26年6月27日	1) 7月例会事業について 2) 8月例会式次第について 3) 9月例会式次第について
第07回委員会	平成26年7月16日	1) 7月例会について 2) 9月例会式次第について
第08回委員会	平成26年8月28日	1) 7月例会事業報告・決算について 2) 11月例会式次第について
第09回委員会	平成26年9月25日	1) 12月例会準備について 2) 11月例会式次第について
第10回委員会	平成26年10月24日	1) 12月例会準備について 2) 12月例会式次第について
第11回委員会	平成26年11月20日	1) 12月例会準備について 2) 委員会事業報告書について 3) LOM内褒賞について 4) 事務局大掃除について
第12回委員会	平成26年 月 日	1)

2014年度 委員会事業報告書

アカデミー委員会

委員長 西原 隆裕
副委員長 植田 一徳
委員数 12名
予算額 1,519,582円
決算額 1,446,725円

■ 事業報告

本年度アカデミー委員会では、将来の白浜・田辺青年会議所を見据え、組織基盤の構築と我々青年会議所が地域に必要とされる組織となるために、次代を担うリーダーとして常に意識し、自ら考え自発的に行動できる人材の育成と、青年会議所活動における様々な機会や出会いの大切さを新メンバーに伝えていくことが最重要と考え、委員会運営に取り組んでまいりました。

まず5月合同例会では、(一社)新宮青年会議所との合同例会を行い、本年度は新宮の地で行いました。本年はドッジボールを行い、両LOM混合のチームにて対戦し、LOM間の垣根を越えた交流や親睦を深められたものと考えております。両LOM混合チームにしたことで、会員同士の新たな出会いや、個々での情報交換や意見交換が活発に行われ、新人メンバーには会員同士の親睦や今後JC活動を行うための新しい刺激となり、有意義な一日となったものと考えます。

またアカデミー委員会事業では、「21世紀を担う子どもを育てる」～心を豊かにする教育とは～と題し、講師先生にアグネス・チャン氏をお迎えしご講演頂きました。我々が住むこの地域の将来を地域住民の方々と共に考え、共に学ぶことを目的とし、子どもたちの教育がどれほど重要かを認識させられる講演でした。そして参加いただきました一般聴講者の皆様には、未来を担う子どもたちに対し、家庭内だけでなく、地域社会全体で子どもたちを育て支援していくための重要な切欠をつくることができたものと考えています。また委員会内において、新人メンバーを主体に事業の組み立てから実践、最終達成するまでのプロセスを、委員会メンバー全員で協力、体験をし、メンバー同士同じ時間を共有していく中で絆や友情が育まれたものと確信しています。

12月例会では、ご卒業されるメンバーの方々への感謝と労いの意を表す場として、12月例会を開催いたしました。今までのJC活動を振り返り、現役メンバーとご卒業されるメンバーと共に、今までの労をねぎらい、今後の活動につなげられる懇親を十分に深めていただけたものと考えております。また新人メンバーが中心となり、精一杯想いを込めて作り上げた演出ができ、誠実かつ心から送り出す場をご提供できたものと考えます。

最後に、私に委員長という機会を与えて頂き、また新しいメンバーやたくさんの人たちとの出会いに感謝いたします。そして、この一年間私を支えていただいた植田副委員長には、私と委員会メンバーからの板ばさみの中、気苦労もかけ大変だったかと思います。そんな中最後までお付き合いいただき本当に感謝しています。小山副理事長には、私の事業への想いを最後まで温かく見守って頂きバックアップをしてくださいました。深く感謝するとともに、委員会メンバーにも多くのご協力を得て一年間をやり抜くことができました。今までご協力、ご指導頂きました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容
(予定者)	第01回委員会	2014年度委員会事業計画(案)の件
	第02回委員会	2014年度委員会事業計画(案)の件
	第03回委員会	2014年度委員会事業計画(案)の件
	第04回委員会	2014年度委員会事業計画(案)の件 公益目的事業計画書(案)の件
	第05回委員会	公益目的事業計画書(案)の件
	第06回委員会	3分間スピーチについて
第01回委員会	平成26年01月05日	5月例会事業計画書・予算(案)の件
第02回委員会	平成26年03月04日	5月例会事業計画書・予算(案)の件
第03回委員会	平成26年03月31日	5月例会事業計画書・予算(案)の件
第04回委員会	平成26年04月28日	5月例会事業計画書・予算(案)の件
第05回委員会	平成26年06月03日	5月例会事業報告書・決算(案)の件
第06回委員会	平成26年06月27日	5月例会事業報告書・決算(案)の件
第07回委員会	平成26年07月29日	11月アカデミー委員会事業計画書・予算(案)の件
第08回委員会	平成26年08月26日	11月アカデミー委員会事業計画書・予算(案)の件
第09回委員会	平成26年09月26日	11月アカデミー委員会事業計画書・予算(案)の件 12月例会事業計画書・予算(案)の件
第10回委員会	平成26年10月24日	11月アカデミー委員会事業計画書・予算(案)の件 12月例会事業計画書・予算(案)の件
第11回委員会	平成26年11月18日	11月アカデミー委員会事業計画書・予算(案)の件 12月例会事業計画書・予算(案)の件
第12回委員会	平成26年11月25日	11月アカデミー委員会事業計画書・予算(案)の件 12月例会事業計画書・予算(案)の件
第13回委員会	平成26年12月02日	12月例会事業計画書・予算(案)の件の件 11月アカデミー委員会事業報告書・決算(案)の件
第14回委員会	平成26年12月09日	12月例会事業計画書・予算(案)の件 11月アカデミー委員会事業報告書・決算(案)の件 最優秀新人会員・優秀会員の件
第15回委員会	平成26年12月15日	11月アカデミー委員会事業報告書・決算(案)の件 12月例会事業報告書・決算(案)の件

■ 例会事業

- ・事業名 5月合同例会事業
- ・タイトル 「広げよう絆の「わ」、輝く明日のために～5月合同ドッジボール例会」
- ・実施日時 2014年5月24日（土） 18時27分～19時47分
- ・実施場所 新宮市佐野1501 佐野体育館
- ・事業参加者 正会員、仮会員、一般社団法人新宮青年会議所メンバー
- ・参加人数 正会員31名、仮会員0名、正会員（新宮）16名、仮会員（新宮）0名

- ・事業目的 我々、公益社団法人白浜・田辺青年会議所は、「明るい豊かな社会の実現」を目指し、この地域にとって必要とされる組織となるために日々努力をし、活動しています。今後、この地域に貢献し、青年会議所活動の更なる活性化を図るためには、当LOMだけでなく、近隣LOMとの連携や協力体制を十分に強め、LOM間の垣根を超えた同志との交流や親睦を深めることが、今後のLOMの活性化につながるものの一つと考えます。
そこで、例年行われております一般社団法人新宮青年会議所との合同例会を開催し、両LOM間の更なる交流や友情を育み、様々な情報の交換や共有をすることで、今後のJC活動に活かしていくことを目的とします。

- ・事業内容 両LOMメンバーにて混合チームをつくりドッジボールを行います。2ブロック（コート2面）に分かれて総当たり戦で順位を争い、最後に両LOMから選出した精鋭10名でトロフィーを懸けて対抗戦を行います。

- ・結果報告 例年行われている一般社団法人新宮青年会議所との合同例会を、本年度は新宮の地で行いました。本年はドッジボールを行い、両LOM混合のチームにて対戦し、LOM間の垣根を越えた交流や親睦を深められたものと考えております。また例会事業終了後、懇親会を開催し、一般社団法人新宮青年会議所メンバーから地区大会経験LOMとしてのアドバイスをいただき、今後の活動を行っていく上での様々な情報の交換、共有ができました。
本例会事業を通して、当LOM内の会員同士だけでなく、両LOM間の更なる交流や友情を育むことができ、今後の活動や会員同士の協力体制を十分に強めるための一助になったものと確信いたします。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等
 - 4. 例会事業中、試合がないチームのメンバーが体育館外にでて、休憩するなどの姿が見られ、試合開始にもかかわらずメンバーが揃わないなどの状況がおきました。タイムスケジュールの説明はしていましたが、もっと徹底して伝えるべきでした。
 - 5. 最終、タイムスケジュール通り事業を進めることができましたが、試合5分、休憩3分は少しハードだったのかと感じました。試合、休憩とも5分ほどあれば十

- 分だと感じました。
- 6. 軽傷用の救急箱を準備しておらず、準備しておくべきでした。
- 7. 当初バスを2台準備しておりましたが、計画通りのメンバー数を動員できず、1台減らすこととなり、委員会メンバーでの動員活動をもっと徹底するべきでした。
- 8. 今後、電話等の呼びかけだけでなく、新入会員自らが各委員会を回り、PRを行えば効果的な動員が見込まれたのではないかと思います。

- ・事業名 12月例会事業
- ・実施日時 2014年12月11日（木） 20時00分～21時47分
- ・実施場所 ホテル シーモア 4F第2宴会場
所在地 西牟婁郡白浜町1821
TEL 0739-43-1000
- ・司会 植田 一徳 君
- ・事業対象者 正会員、仮会員
- ・参加人数 正会員67名、仮会員1名 出席率 89.3%

- ・結果報告 本事業では、本年度ご卒業されるメンバーの方々への感謝と労いの意を表す場として、12月例会を開催いたしました。現役メンバーとご卒業されるメンバーと共に、JC活動を振り返り、今までの経験談や懇親を十分に深めていただけたものと考えております。
アトラクションでは、新人メンバーが中心となり、精一杯想いを込めて作り上げた演出ができ、誠実かつ心から送り出す場をご提供できたものと確信いたします。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 最後のアトラクションの際、照明が暗くなり、配布していた歌詞がみえないという不備がありました。すぐに照明を戻していただきましたが、当日の最終打合せが不十分でした。
2. 本年度は席順を決めておりませんでした。挨拶のマイク渡しなどのことを考えると三役、監事の座席は最低決めておくべきだと感じました。

■ 委員会事業

- ・事業名 アカデミー委員会事業
- ・タイトル 「21世紀を担う子どもを育てる」～心を豊かにする教育とは～
- ・実施日時 2014年11月28日（金） 19時00分～21時00分
- ・実施場所 紀南文化会館 小ホール
- ・講師 アグネス・チャン 氏
- ・司会 小倉 輝久 君
- ・事業参加者 正会員、仮会員、一般聴講者
- ・告知方法 チラシ、新聞広告、ホームページ、フェイスブック、メンバーによる声掛け
- ・参加人数 正会員44名、仮会員1名、一般聴講者264名 出席率 58.6%

- ・事業目的 現在、家庭や地域の教育力の低下が指摘されている中、家庭における教育はすべて家庭の責任に委ねられていると考えます。しかし地域の将来を見据えた時、家庭だけでなく、この地域社会全体で、子どもたちが物事を判断する基準や価値観を伝えていかなければなりません。その中で様々な経験や体験の場を与え、子どもたち自身に判断基準をつけさせることで、将来への大きな希望や夢を抱かせ、子どもたちの持っているすばらしい能力をいかに伸ばしてやるのが重要だと考えます。そして子どもを育てる親として、または地域としての各々の役割を認識し、地域の未来を見据えた行動ができると考えます。

そこで、本事業では地域住民の方々と共に、未来を担う子どもたちを育てていくための必要な知識や見識を高め、学ぶことで、地域社会の健全な未来の発展につなげることを目的とします。

- ・事業内容 芸能活動のみでなく、日本ユニセフ協会大使として、またボランティア活動、文化人として世界を舞台に幅広く活躍しているアグネス・チャン氏をお招きし、家庭教育、地域教育の現状と、子どもたちに対しての人間性や社会性を養える環境構築に向けた内容のご講演を頂きます。

- ・結果報告 本事業では、アグネス・チャン氏を講師としてお迎えし、自身の活動や実体験をもとに、子どもの心を豊かにする教育についてご講演いただきました。自分自身を良く知り、自分に誇りを持てる子どもに育てることの重要性を強調されていました。親と子どもの意識改革、または子どもを尊重し、褒めて育てるというような考えを家庭内からだけでなく、その子どもたちを取り巻く地域も積極的に支援し、育てていくことで子どもたちの人間性や社会性を養える環境につながることを学びました。

本事業を通じて、この地域に住む子どもたちの親と、その地域住民の方々に新たな学びや気づきを得る機会となり、地域社会の未来の発展につなげるための一助になったと確信しています。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 事業参加者が目標定員数に達しませんでした。また昨年の改善点を引き継ぎ、チラシ枚数を増やすなどの対策を講じましたが、結果が出ずメディアに掲載する時期や回数をもっと増やす必要があると感じました。
2. LOM内広報において、委員会メンバーにて各委員会へのPR活動を行いました。メンバーからの申込受付者数がかなり少ない現状がありました。LOMメンバーに周知徹底を行うとともに、事前連絡をした上で、PR時のその場で申込者のヒヤリングや、受付表を回収するなどの対策を講じるべきでした。
3. 受付について事前受付、当日受付と分けて対応しましたが、案内役として別に担当をつけることでもっとスムーズに受付対応、会場誘導が可能だと感じました。
4. 講師降壇後、控え室への誘導の際、脇の通路にて一般の方が講師先生へのサインを申し出たため、控え室への誘導のタイミングがずれ、一般聴講者との退場と重なり、講師先生にはご迷惑をおかけしました。通路側のドアをクローズにし、スムーズに誘導するべきでした。

2014年度 委員会事業費決算書

アカデミー委員会

(単位: 円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
5月合同例会	97,582	97,582	
アカデミー委員会事業	1,222,000	1,157,143	
12月例会事業	200,000	192,000	
合 計	1,519,582	1,446,725	

予算額合計 1,519,582 円

決算額合計 1,446,725 円

2014年度 委員会事業報告書

拡大広報委員会

委員長	田中 孝成
副委員長	宇津 大貴
副委員長	野久保 嘉徳
委員数	10名
予算額	36,000円
決算額	33,908円

■ 事業報告

本年度拡大広報委員会では、大きくは会員数の拡大、広報活動、渉外活動の3つの役割を担いました。

会員数の拡大においては、同じ志を持った仲間を募るため、多くのメンバーやOB会員の協力のもと、苦戦を強いられましたが、何とか6名の新しい仲間が入会する運びとなりました。今後の課題として、今年は私の力不足ではありますが、今後はもっとLOM全体が拡大に關しての危機感を持って取り組む必要があり、その手段や方法はともかくとして、拡大委員長任せではなく、各委員会も職務分掌にもあるように、ある一定の目標を掲げて行う必要があると嘆願します。

広報活動においては、委員会メンバーが各事業に参加し、私たちの行った運動や活動の内容をJCニュース、また本年度から取り入れたフェイスブックを通じて、JCメンバーはもとより、一般の幅広い世代までにも、情報発信することができました。一人でも多くの方にこのJCの魅力や意義を伝えることができたと感じております。

渉外活動においては、京都会議、口熊野マラソン、会頭訪問、ブロック大会、サマーコンファレンス、全国大会等の引率を行いました、皆様のご協力のお陰で、難なく無事に終えることができました。

例会事業として2月と9月の例会事業を担当し、まず2月例会事業では拡大について考え、過去に会員拡大の委員長を務められた松田三郎君、澤村公道君から会員拡大活動の意義や手法について、実体験を交えてお話していただきました。また、ロールプレイング、ワークショップを通じて、会員拡大の新たな方法や情報の共有化ができ、メンバー一人ひとりの拡大意識の向上と今後の更なる組織の発展につながったものと確信いたしました。

9月例会事業では講師をお招きし、ニュービジネスプランについて考え、ニュービジネスや既存のビジネスにおける課題や脅威を可視化することにより、具体的な方策を考えることができ、改めてビジネスというものを言葉にし、論理的に分析できた機会であったと思います。この地域での経済・社会構造の変化に柔軟に対応していくための一助となったと確信しました。

こうして一年間委員会の長として、その重責を担えるか当初は不安もありましたが、小山副理事長、宇津副委員長、野久保副委員長を始めとする委員会メンバーの協力のおかげで、この一年間無事に委員会運営を行うことができました。委員長として至らぬ点が多々ありましたが、一年間お付き合いくださいまして心より厚く御礼申し上げます。

以上で委員会報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

■ 委員会開催記録		
	開催日	内容
(予定者)	第01委員会	2013年9月4日 理事長所信、組織図、委員会職務分掌、正副委員長他役員、委員会委員配属、委員会事業計画(案)
	第02委員会	2013年9月13日 委員会事業計画(案)、例会事業担当月の件
	第03委員会	2013年9月27日 委員会事業計画(案)、例会事業担当月の件
	第04委員会	2013年10月29日 委員会事業計画(案)
	第05委員会	2013年11月15日 委員会事業計画(案)、2月例会事業計画(案)
	第06委員会	2013年11月28日 2月例会事業計画(案)、会員拡大について
	第07委員会	2013年12月27日 2月例会事業計画(案)、京都会議について
	第01回委員会	2014年2月10日 2月例会事業計画(案)、会員拡大について
	第02回委員会	2014年2月18日 2月例会事業について
	第03回委員会	2014年3月4日 2月例会事業報告書・決算(案)
	第04回委員会	2014年4月2日 2月例会事業報告書・決算(案)
	第05回委員会	2014年4月22日 会員拡大について
	第06回委員会	2014年6月3日 会員拡大について
	第07回委員会	2014年6月27日 9月例会事業計画(案)
	第08回委員会	2014年7月25日 9月例会事業計画(案)
	第09回委員会	2014年8月26日 9月例会事業計画(案)
	第10回委員会	2014年10月6日 会員拡大について、広報について、第63回全国大会松山大会について、J C U n i v e r s i t y 和歌山について 暴力追放決起集会及び街頭啓発パレードについて
	第11回委員会	2014年11月4日 9月例会事業報告書・決算(案)
	第12回委員会	2014年11月21日 委員会事業報告書について
	第13回委員会	2014年12月15日 J C ニュース封入作業

■例会事業	
・事業名	「2月例会事業」
・タイトル	「広げよう拡大の「わ」～拡大について考えよう～」
・実施日時	2014年2月20日(木) 19時40分～21時40分
・実施場所	田辺商工会議所3階 大会議室
・講師	松田 三郎 君(2011年度魅力発信委員長) 澤村 公道 君(2012年度拡大交流委員長)
・司会	宇津 大貴 君
・事業参加者	正会員48名、仮会員2名 67.6%
・事業目的	全国的に会員数の減少が危惧される中、(公社)白浜・田辺青年会議所も例外ではなく、会員数が減少しつつあります。現役メンバーを見ても、35歳以上の会員が大半を占め、このまま会員の増加が見込めなければ、5年後には会員数が現在の半分以上となってしまいます。 こうした中、わたしたちJ C が掲げる「明るい豊かな社会」を実現していくためには、会員数の減少を防ぎ、地域の為に活動できるJ A Y C E E を一人でも増やしていくことが重要だと考えます。 そこで、本事業において会員拡大の意義や手法を再考し、メンバー一人ひとりの拡大意識の向上とともに今後の更なる組織の発展につなげるための一助とします。
・事業内容	現役メンバー内で、過去に会員拡大の委員長を務められた松田三郎君、澤村公道君を講師としてお迎えし、会員拡大についての意義や手法、そしてアプローチからクロージングまでの一連の流れについて実体験を交えてお話していただきます。 続いて、現実にかかる場面を想定したロールプレイングを行って適切に対応できるよう学習していただき、次に各グループに分かれてブレインストーミング形式で会員拡大についての話法や手法、そして見込みメンバーを話し合って発表いただきます。 最後に、近年の拡大状況等のことを踏まえて担当副理事長より総括をしていただきます。
・結果報告	現役メンバーで過去に会員拡大の委員長を務められた松田三郎君、澤村公道君から会員拡大活動の意義や手法について、実体験を交えてお話していただき、色々なケースを想定した柔軟な会員拡大活動が必須であると実感しました。 続いて、現実にかかる場面を想定したロールプレイングを行い、J C 歴の長いメンバーの安定した勧誘方法、そして3年未満メンバーからは、新しい手法や切り口を発見することができ、会員拡大能力の向上につながりました。 最後に、各グループに分かれてブレインストーミング形式でのワークショ

ップを行い、会員拡大についての話法や手法、そして見込みメンバーを話し合って発表いただき、会員拡大の新たな方法や情報の共有化ができ、リストアップされた見込みメンバーへすぐにでも実践していこうと決意いたしました。

本例会事業を経て、メンバー一人ひとりの拡大意識の向上と今後の更なる組織の発展につながったものと確信いたしました。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. ロールプレイングを挨拶から始めたことで、クロージングまでに時間がかかり、全体の予定していた時間を10分ほど越えてしまいました。挨拶を省略した状態から始めるべきでした。
2. ロールプレイングの方法が分かっていない方もいましたので、スムーズに進められるよう配布したロールプレイングの説明資料をよく見てもらうための工夫をするべきでした。
3. ロールプレイングの入口と出口だけを決め、あとはフリートークをしましたので、JCのことをどれだけ上手に説明できたとしても、最後のクロージングの難しさや会話の構成が重要だと感じていただけたと思います。
ただ、そういった柔軟な対応力も必要ですが、誰でもできるマニュアル化したロールプレイングも必要だと感じました。
4. ワークショップにおいて、ロールプレイングが長引いた関係で、お題を考える時間を短縮せざるを得ませんでした。
結果、綿密にシミュレーションを行い、現実的に必要な時間配分を検討するべきだと感じました。
5. 出席率向上のため、欠席予定者にはすべて連絡をしましたが、各委員会回りをを行い、再度強く出席の協力を呼びかけるなどの対応が必要でした。

■例会事業

・事業名	「9月例会事業」
・タイトル	「ニュービジネスプランについて考えよう」～ネクストイノベーション～
・実施日時	2014年9月18日（木） 19時40分～21時10分
・実施場所	田辺商工会議所3F 大会議室
・講師	山田 晃司 氏
・コンプライアンス	確認済み
・司会	野久保 嘉徳 君
・事業対象者	正会員、仮会員
・事業参加者	正会員50名、仮会員2名 出席率69.4%

・事業目的 近年日本は、経済の再生とデフレ克服を政権の最優先課題に掲げ、財政政策、金融政策、成長戦略である「三本の矢」を中心とした大胆な政策を打ち出しました。そのうち、財政政策と金融政策については、国会および政府で速やかに決定、実行に移し、一定の成果を上げています。しかしながら、民間投資を喚起し、個人消費を復活させようとする成長戦略については、今年4月の消費税の引き上げもあり、まさに正念場であります。

そこで、本例会事業では、成長戦略の大きな柱の一つである「イノベーション」と「ベンチャーの加速」に取り組むためのニュービジネスプランの立て方を学び、我々JCメンバーがこの地域での経済・社会構造の変化に対応していくための一助とします。

・事業内容 関西地区の中堅中小企業経営コンサルティング、経営戦略業務などを数多くこなされている山田 晃司 氏を講師としてお招きします。
まずは、根本である「ニュービジネスプランとは何か」について学び、次にその条件やアイデアをどう出すかなど、論理的に分析していきます。
そして、策定ポイントや経営リスクマネジメントを学んでいただきます。

・結果報告 関西地区の中堅中小企業経営コンサルティング、経営戦略業務などを数多くこなされている 山田 晃司 氏を講師としてお招きし、ニュービジネスプランの立て方についてご講演いただきました。

ニュービジネスだけに特化した内容ではなく、既存のビジネスにおける課題や脅威を可視化することにより、具体的な方策を考えることができ、改めてビジネスというものを言葉にし、論理的に分析できた機会であったと思います。

本例会事業により、我々JCメンバーがこの地域での経済・社会構造の変化に柔軟に対応していくための一助となったと確信いたします。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

-
1. お題の「ビジネス展開の全体像」を考える時間がなくなっていました。
講師とのシミュレーションをもっと入念に行い、講演時間を長くする必要がありました。
 2. 例会時に使用するゴングの用意を失念しました。
総務委員会と連携し、入念な設営確認をするべきでした。
 3. 講師からの事前資料とメンバー配布したものとページ数が一部異なっており、話す内容と資料が合致しない箇所がありました。
資料作成時に入念な確認をするべきでした。

2014年度 委員会事業費決算書

拡大広報委員会

(単位：円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
2月例会事業	17,000	15,818	
9月例会事業	19,000	18,090	
合 計	36,000	33,908	

予算額合計 36,000円

決算額合計 33,908円

2014年度 青少年委員会事業報告書

青少年委員会

委員長	出羽 正典
副委員長	有本 和貴
	浪花 光紀
委員数	8 名
予算額	889,388円
決算額	889,388円

■ 事業報告

未来を担う青少年は「地域の宝」です。しかし近年、核家族化及び都市化の進行、情報機器の発達により青少年を取り巻く環境は大きく様変わりし、地域とのつながりの希薄化、コミュニケーション不足、自然体験や友達との豊かな遊びの減少など、育つ環境が我々の時代と大きく変化しています。

これから社会に出ていく青少年にとって青年期における人や地域とのつながりから学べる公共心や愛郷心の醸成、自然体験や集団活動を通じて得られる想像力・発想力・リーダーシップ・思いやりの心などが大変重要になると考え、当委員会では、自分の力で未来を切り開くことのできる青少年を育成し、未来を担う「地域の宝」がさらに輝きを放てるような取り組みを実施しました。

3月例会事業では、戦後、奇跡的な経済成長を果たし、豊かさを享受した一方で、戦後生まれの私たちは、この国がどういった歴史を辿り、先人がどのような想いで、今日の礎を築いてきたのかといった事実を知らない現状がありました。過去を否定し、原因の追究すら封印する現在の歴史教育では、国や地域への愛着はもちろんのこと、自信や誇りを育むことなど到底出来ません。戦争を肯定するつもりも、歴史を改竄するつもりもありません。ただ、歴史の中から先人が受け継いできた美徳や道義、価値観を見直し継承していくことは、青年会議所に属する一員としての責務ではないかと考え、本事業では、近現代史を学んでいただき、歴史的背景を振り返り、この国を創ってこられた先人を敬い、家族愛、愛郷心を醸成すること、また、日本人としての視点から、次代を担う子どもたちに、確かな歴史観を伝えることができる知識を習得していただきました。

また、10月例会事業では、日本会議和歌山会長、角莊三氏をお迎えし、戦後の教育・メディア報道の問題点、また、それらが成した国家的歪み、及び、本来在るべき日本国・国民の主権意識や、先々で直面しかねない国家的リスクと必要な備えについてご講演いただきました。

講演を通じ、我が国の戦後の教育・メディア報道が反日化した原因が、とどのつまりはGHQの占領政策に帰着すること、加えて、それによって愛国心や国家観が破壊され、元来の日本人の道徳心が失われつつあったことを確認していただく機会になったと考えます。

また、シンガーソングライターの山口采希氏に「大切な宝物」～教育勅語を曲に～を歌っていただいたことで、その内容や意味を再確認し、教育勅語をより身近に感じていただき、更に、「空

と海の向こう」を歌っていただいたことで、日本国・国民に対する重大な主権・人権侵害である北朝鮮による拉致問題についても改めて関心を強めていただく機会になったと考えます。

私たち日本人には、素晴らしいこの日本を、先祖代々の歴史や文化を、子供達の未来を守り保つ義務があります。本事業を通じ、確たる愛国心を以ってそれらを守り抜き、確たる国家観を以ってそれらを保ち、元来の日本人の品位と美徳を再度体系化し次代へ繋げていくことの重要性について再認識していただく機会になったと確信します。

青少年育成事業では、LOMエリア内の小学校4年生から6年生の計46名を対象に、JCサマーキャンプ2014～感動と発見の夏休み～と題し、生きる力を醸成するため、自然環境の中で様々な体験プログラムを取り入れたキャンプを実施しました。

班単位に分かれてプログラムを実施することにより、新たな集団生活の中で、規律や責任感、協調性を学ぶことが出来ました。また、大自然の中で、日常生活では体験することが出来ない、鮎つかみ取り体験やスイカ割り等のプログラムを実施したことで、自然環境の中で感じ取る楽しさと学びを醸成することが出来ました。

参加者のアンケートに以下のような記述がありました。「今回参加して、自然のありがたさ、親への感謝を学びました」「他の人と協力する大切さを学びました」これらは、我々の事業目的に合致するとともに、我々が大切にしたい視点を参加者が受け止めてくれたと考えられます。

特に、青少年にとっての野外活動は、自然の厳しさや恩恵を知り、動植物に対する愛情を培うなど、自然や生命への畏敬の念を育て、それらの大切さを理解させる機会を与える大変重要な活動であり、自然の中での組織的な活動は、きまりや規律を守ること、協力することの大切さや、自ら実践し創造する態度を学ぶなど、体験活動を通じた学習の機会を提供するものとして、青少年の育成にとって極めて有効であるということ再認識することが出来ました。

この2日間の事業で、日常生活では得ることの出来ない体験を通じ、楽しさ、苦しさに気づき、自分の力でたくましく「生きる力」を養う一助となったと確信します。

JCTティーチャーでは、地域の宝である青少年の生まれ育った地域に対する愛郷心の醸成、及び地域の発展に寄与できる人材育成の一助となることを目的として実施しました。

そこで、まず学校側の担当者への告知を行い、次に学校からの依頼に応え、その後アンケートのまとめを実施いたしました。尚、依頼を頂いた際はLOMエリア内の教育現場の実態に対応する為、学校側の担当者と事前打ち合わせを行い、その結果を講師選定や講義内容へ反映させました。

LOMメンバーの実体験に基づく貴重な講義に対して真摯に耳を傾ける子どもたちの姿、及びその後のアンケートの記載内容を拝察し、地域に対する愛郷心の醸成等の一助となったと、確信しました。

結びに、日本は敗戦によって教育にも精神的な支柱を失い、子どもをどのような大人に育むべきかという教育理念よりも、そのプロセスや方法論ばかり議論されるようになりました。そして、子どもたちには、立身出世という現実的な理想を追い求めることを美徳として教えてきたのです。しかも最近では、その立身出世の意味合いが社会的なリーダーになることよりも経済的勝者、すなわち金持ちになることを指すようになってしまったように思います。

教育で最も大切なことは、正確な知識を学ばせることはもとより、日本人が培ってきた道徳的価値観を教えることと、自律した個人としての健全な自主性を育むことです。地域のことを想い、社会に貢献できる人になって、皆から尊敬されることが何よりも価値のあることであり、そのた

めにはしっかり勉強せねばならないという学ぶ意義を子どもたちに教えていかなければなりません。

そのような背景から、本年度当委員会では、子どもたちに学ぶ意義を伝え、愛郷心、公共心を醸成できる社会的リーダーを育成する事業を実施出来たことを確信いたします。

■ 委員会開催記録

		開催日	内容
(予定者)	第1回委員会	平成25年9月4日	2014年度理事長所信について、2014年度組織図について、2014年度委員会及び特別会議職務分掌について
	第2回委員会	平成25年9月9日	2014年度委員会事業計画（案）について
	第3回委員会	平成25年9月27日	2014年度委員会事業計画（案）について
	第4回委員会	平成25年10月21日	2014年度委員会事業計画（案）について 公益目的事業計画書（案）について、 JCティーチャー（案）について
	第5回委員会	平成25年11月26日	2014年度3月例会事業（案）について、 JCティーチャー（案）について
	第6回委員会	平成25年12月18日	2014年度3月例会事業（案）について、 JCティーチャー（案）について
第1回委員会		平成26年1月24日	2014年度3月例会事業（案）について、 青少年育成事業（案）について
第2回委員会		平成26年2月25日	2014年度3月例会事業（案）について、 青少年育成事業（案）について
第3回委員会		平成26年3月18日	2014年度3月例会事業（案）について、 青少年育成事業（案）について
第4回委員会		平成26年4月22日	2014年度3月例会事業報告書・決算（案）について、 青少年育成事業（案）について
第5回委員会		平成26年5月21日	青少年育成事業（案）について
第6回委員会		平成26年6月18日	青少年育成事業（案）について
第7回委員会		平成26年6月24日	青少年育成事業（案）について
第8回委員会		平成26年6月25日	青少年育成事業（案）について
第9回委員会		平成26年7月24日	青少年育成事業（案）について
第10回委員会		平成26年8月12日	青少年育成事業（案）について 2014年度10月例会事業（案）について
第11回委員会		平成26年8月22日	青少年育成事業（案）について 2014年度10月例会事業（案）について
第12回委員会		平成26年9月25日	青少年育成事業報告書・決算（案）について 2014年度10月例会事業（案）について
第13回委員会		平成26年10月14日	青少年育成事業報告書・決算（案）について 2014年度10月例会事業（案）について
第14回委員会		平成26年11月11日	2014年度10月例会事業報告書・決算（案）について

第15回委員会	平成26年12月 2日	JCTティーチャー青少年育成事業報告書・決算(案)について、2014年度委員会事業報告書(案)について
---------	-------------	---

■ 委員会事業

- ・事業名 青少年育成事業
- ・タイトル 「JCTティーチャー」 ～こころのプロジェクト～
- ・実施日時 2014年1月～10月末
- ・実施場所 衣笠中学校、江住中学校、高雄中学校、上富田中学校、上芳養中学校、新庄中学校、大塔中学校、田辺中学校、東陽中学校、中芳養中学校、神島高校、田辺工業高校（3回）
- ・事業実施者 LOMメンバー
- ・事業対象者 衣笠中学校(2年生78名)、江住中学校(全学年17名)、高雄中学校(全学年354名)、上富田中学校(2年生119名)、上芳養中学校(2年生25名)、新庄中学校(2年生52名)、大塔中学校(2年生26名)、田辺中学校(2年生78名)、東陽中学校(2年生109名)、中芳養中学校(2年生26名)、神島高校(1年生120名)、田辺工業高校(1年生40名)、田辺工業高校(2年生40名)、田辺工業高校(3年生38名)
- ・告知方法 各教育委員会と各学校への連絡
- ・事業目的 未来を担う青少年は「地域の宝」です。その宝がさらに輝きを増せるよう、私たちは学校と連携し、地域の先輩として教壇にたち、これまでに得てきた知識や経験、仕事の見地から、子どもたちの心に語りかけます。また、「地域の宝」である彼らが、自分の地域に自信と誇り、愛着を持てるような愛郷心を伝えながら、自身の将来を自分の力で切り開くヒントを見出し、10年、20年後に地域の発展に寄与できる人材となれる一助としていただくことを目的とします。
- ・事業内容 学生を対象に、当メンバー一人ひとりが講師となり、事業目的に即した内容のお話をさせていただきます。
- ・結果報告 本事業は、地域の宝である青少年の愛郷心の醸成、及び地域の発展に寄与できる人材育成の一助となることを目的としております。
そこで、まず学校側の担当者への告知を行い、次に学校からの依頼に応え、その後アンケートのまとめを実施いたしました。尚、依頼を頂いた際はLOMエリア内の教育現場の実態に対応する為、学校側の担当者と事前打ち合わせを行い、その結果を講師選定や講義内容へ反映しました。
LOMメンバーの実体験に基づく貴重な講義に対して真摯に耳を傾ける子どもたちの姿、及びその後のアンケートの記載内容を拝見し、地域に対する愛郷心の醸成等の一助となったと、確信いたしました。
- ・今後、事業を継続していく上での改善点等
 1. 学校側担当者への告知を行いました。が、依頼がなかった学校もございました。依頼するか否かは学校側の事情が絡みますので、告知の際に学校側の事情を把握することにより努めるべきでした。
 2. 過年度のJCTティーチャーの実施及び本年の告知の成果と思われませんが、依頼から打ち合わせまでの流れがスムーズでしたので、次年度においてもフ

ローに関する引継ぎを綿密にされると良いかと存じます。

3. 講師に対し手引きを準備することで、講師との打ち合わせがスムーズでした。しかし、学校側の要望については口頭で伝えたため、講師に伝わりきらなかったこともございました。そこで、明確に講師に伝える為にも、資料として準備するべきでした。

4. 事業の際は日中の貴重な時間をいただくこととなりますので、講師となるメンバーが、参加に足踏みされるケースもあるかもしれませんが、社会貢献の良い機会であることの周知に加え、学校側のニーズを丁寧に説明する等して、快く講師を引き受けていただける土壌を醸成に努めて下さい。

5. 前年度の事業報告書にも記載がありました通り、学校訪問は事業等のJCに関する良いPRの場でもあったと思います。次年度以降も学校訪問されると良いかと存じます。

6. 当初郵送する予定でございましたが、学校側とのコミュニケーションの充実の観点より直接学校側に持参しました。その結果、支出の変更となりました。予算編成時に郵送するのか否かについて議論をし、持参するとの判断をするべきでした。

・事業名	「青少年育成事業」
・タイトル	J Cサマーキャンプ2014 ～感動と発見の夏休み～
・実施日時	2014年8月12日(火) 事前オリエンテーション 2014年8月24日(日)～25日(月) 事業実施日
・実施場所	森林公園丹生ヤマセミの郷 田辺市龍神村丹生ノ川275-2 電話番号0739-78-2616
・事業実施者	LOMメンバー
・告知方法	各小学校へのチラシの配布、HP、紀伊民報への記事掲載での告知
・事業参加者	正会員 25名 仮会員 0名 出席率34.7% 一般参加者(LOMエリア内の小学4、5、6年生 46名)
・事業目的	都市化に伴う自然や遊び場の減少により、子どもたちは、我々の子ども時代に比べ、外で大勢の友達と遊びたくても遊べない環境に置かれ、野外活動から得られる学びや、楽しさが少なくなっているように感じます。 そこで本事業では、野外活動を実施し、新たな集団生活の中で、規律や責任感、協調性などを学ぶこと、また、自然の中で日常生活では得ることの出来ない、体験を通じて、苦しさや楽しさに気づき、自分の力でたくましく「生きる力」を養っていただく一助とすることを目的とします。
・事業内容	違った小学校の生徒が集い、班単位に分かれて行動します。生きる力を醸成するため、自然環境の中で感じ取る楽しさと学び、集団生活体験を通じて得る楽しさと学びを、キャンプ(川遊び、キャンプファイア、星空観測等)という手法を通じて実施します。
・結果報告	本事業では、LOMエリア内の小学校4年生から6年生の計46名を対象に、JCサマーキャンプ2014 ～感動と発見の夏休み～と題し、生きる力を醸

成するため、自然環境の中で様々な体験プログラムを取り入れたキャンプを実施しました。

班単位に分かれてプログラムを実施することにより、新たな集団生活の中で、規律や責任感、協調性を学ぶことが出来ました。また、大自然の中で、日常生活では体験することが出来ない、鮎つかみ取り体験やスイカ割り等のプログラムを実施したことで、自然環境の中で感じ取る楽しさと学びを醸成することができました。

参加者のアンケートに以下のような記述がありました。「今回参加して、自然のありがたさ、親への感謝を学びました」「他の人と協力する大切さを学びました」これらは、我々の事業目的に合致するとともに、我々が大切にしたい視点を参加者が受け止めてくれたと考えられます。

特に、青少年にとっての野外活動は、自然の厳しさや恩恵を知り、動植物に対する愛情を培うなど、自然や生命への畏敬の念を育て、自然の大切さを理解させる機会を与える大変重要な活動であり、それらの中での組織的な活動は、きまりや規律を守ること、協力することの大切さや、自ら実践し創造する態度を学ぶなど、体験活動を通じた学習の機会を提供するものとして、青少年の育成にとって極めて有効であるということを再認識することが出来ました。

この2日間の事業で、日常生活では得ることの出来ない体験を通じ、楽しさ、苦しさに気づき、自分の力でたくましく「生きる力」を養う一助となったと確信します。

・今後事業を継続していく上での改善点等

1. 参加者募集の際に、選考方法を先着順としていましたが、2時間で参加人数がいっぱいになったため、先着順に不公平感がり、抽選にしてもよかったかと考えます。
2. 今回の事業については、委員会内での議論において、土日祝日の参加者は少ないとの見解に至り、日曜日・月曜日の開催でした。もう少しリサーチを徹底し、広報期間を早め、幅広く広報をすることにより、夏休み期間においても土日祝日での参加者を募ることが出来るのではないかと考えます。
3. 事前オリエンテーションにおいて、受付が大変混雑するという事態に陥りました。当初、委員会メンバーで十分対応出来ると考えていましたが、もう少しシミュレーションを徹底すべきでした。
4. 準備物が非常に多かったために、シミュレーション不足により、当日足りないものがありました。シミュレーションを徹底すべきでした。

5. 移動距離が長く、道が悪かったため、車酔いする子どもが何人か出ました。事前オリエンテーションでは説明しましたが、当日再度徹底するとともに、酔い止めを用意すべきでした。

6. 班行動で班長に負担がかかりすぎたので、もう少し他の参加者に役割を増やし分担すべきでした。

7. 現地への乗り合わせ等、事前連絡が行き渡らず、参加するLOMメンバーが当日困惑したため、集合場所、時間等を周知徹底すべきでした。
8. スイカ割り体験で、スイカを割る棒がすぐに折れてしまいました。折れることを想定し、複数本用意すべきでした。
9. 時間の関係上、主催者主導でのプログラムを凝縮しすぎました。もう少し、子どもたちで考える、自分たちで創れるプログラムを考えるべきでした。
10. 修了証に子どもたちの写真を入れるつもりでしたが、共済会からの届いた賞状が色つきでカラーの写真がマッチしませんでした。事前に賞状のサンプルを確認しておくべきでした。
11. キャンプファイアの時間帯に雨足がきつくなり、急遽、キャンプファイアを断念する結果となりました。雨天を凌ぐ場として、体育館があったため、レクリエーションを交えながら、将来の夢を語る場を設定すればよかったと思います。いずれにしても、念入りの雨天時の対策をたてる必要がありました。
12. 子どもたちの中で記憶に残る事業にする方法として、事業の思い出を反復させる機会を増やすことが重要であると事後研修会で学びました。反復して記録する方法の一つとして、撮影した写真を編集（新聞等にする）し、学校等に配布するなどの手段も有効かと考えます。
13. 当初計画の40名を超えて、50名の受付となってしまいました。計画や受付のシミュレーションを徹底し、急な増員に対応すべきでした。

■ 例会事業

- ・事業名 3月例会事業
- ・タイトル 近現代史から学ぼう ～この日本のあゆみ～
- ・実施日時 2014年3月20日（木） 19時40分～21時00分
- ・実施場所 田辺商工会議所3階 大会議室
- ・司会 有本 和貴 君
- ・事業参加者 正会員48名、仮会員2名 出席率67.6%
- ・事業目的 現在、日本が抱える近隣諸国との多くの問題について、どれほどの国民が、これらの歴史的背景を踏まえて理解しているのでしょうか。戦後、奇跡的な経済成長を果たし、豊かさを享受した一方で、戦後生まれの私たちは、この国がどういった歴史を辿り、先人がどのような想いで、今日の礎を築いてきたのかといった事実を知らない現状があります。
- 過去を否定し、原因の追究すら封印する現在の歴史教育では、国や地域への愛着はもちろんのこと、自信や誇りを育むことなど到底出来ません。戦争を肯定するつもりも、歴史を改竄するつもりもありません。ただ、歴史の中から先人が受け継いできた美德や道義、価値観を見直し継承していくことは、青年会議所に属する一員としての責務ではないかと考えます。
- 本例会事業では、近現代史を学んでいただき、歴史的背景を振り返ることで、この国を創ってこられた先人を敬い、家族愛、愛郷心を醸成すること、また、日本人としての視点から、次代を担う子どもたちに、確かな歴史観を伝えることができる知識を習得してもらうことを目的とします。

- ・事業内容 メンバーによる近現代史への問題提起の寸劇を行い、DVD、パワーポイントで近現代史を学びます。特に、東京裁判史観、靖国問題を取り上げ、歴史観を伝えるための知識を習得します。
- ・結果報告 かつて学校で習った近現代史、或いは、今尚一部を除くメディアが一方向的に発する近現代史観とは違った側面から見たそれを数多の客観的資料と若干の主観に基づく講義からメンバーの皆様に清聴いただき、一人ひとりの新たな気付き、又は学びに繋がったのではないかと拝察いたします。
- 本例会事業を経て、メンバー一人ひとりが「先生にそう教わったから」、「新聞にそう書いてあったから」、「テレビ・ラジオでそう言っていたから」、ではなく、今一度、ご自身の頭で我が国の近現代史について考え、次代を担う子どもたちに、確かな歴史観を伝えることができる知識を得る機会となったと確信いたします。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. DVD上映と照明の調光の連携に不備があったので入念なりハーサルが必要と感じました。
2. DVD鑑賞の時間を削り、メンバーと対話形式のパワーポイント説明ができれば、戦後の歴史について、皆がどの様に感じているか具体的に解り、より有意義な例会事業になったのではないかと感じました。
3. 戦後について考え、戦後の歴史観を次代に伝える必要性をメンバーに解っていただく機会となりましたが、もう少し説明したい部分を時間上、割愛する場面もあったため、より綿密な内容のシミュレーションが必要でした。

- ・事業名 「10月例会事業」
- ・タイトル 「戦後総点検」～この日本のあり方～
- ・実施日時 2014年10月16日（木） 19時50分～21時00分
- ・実施場所 田辺商工会議所3F 大会議室
- ・講師 角 莊三 氏
- ・アーティスト 山口 采希 氏
- ・コンプライアンス 確認済み
- ・司会 芝田 利文 君
- ・事業参加者 正会員 50名 仮会員 1名 出席率 65.7%
- ・事業目的 戦後、我が国は奇跡的な経済成長を果たし、豊かさを享受した一方で、現在を生きる我々は、この国がどういった歴史を辿り、先人がどのような想いで今日の礎を築いてきたか、また、それらを踏まえた上で、この先、日本及びその国民は如何に在るべきか、といったことを思考することから分断されてきた感否めません。
- 国家の将来を見据えたときに、本来、次代を担う「人」を育てる教育にその重きがあるべきで、国の将来は「人」で決まると言っても過言ではありません。
- しかし、戦後の我が国は、一部の国々が様々な場面で吹聴する要確認事項を数多と含む反日史観の徘徊と、それを助長するかの教育・メディア報道の影響を受け、自身が生まれ育った日本及びその至宝を毀損するかの風潮が目立つ世

情にあります。

そこで本例会事業では、その風潮や、教育・メディア報道による植え付けが意図する本質を英邁に見抜き、今一度、武士道の精神に立ち還り、元来、古より存在してきた日本人の品位と美德を再度体系化すべく、我が国の"戦後"を総点検し、これから在るべきこの日本の姿を思考し、次代へ繋げていただくきっかけとなることを目的とします。

・事業内容 元田辺市教育長、現日本会議 和歌山会長 角 莊三氏をお迎えし、戦後の教育・メディア報道の問題点、また、それらが成した国家的歪み、及び、本来在るべき日本国・国民の主権意識や、先々で直面しかねない国家的リスクと必要な備えについてご講演いただきます。また、シンガーソングライターとしてご活躍されている山口 采希氏に歌っていただく「大切な宝物」～教育勅語を曲に～を拝聴することで、我々がこの日本を、この日本の至宝を、この日本の歴史を、この日本の文化を、この日本の未来をどのようにして護り抜き、次代を担う「人」にそれらをどのように伝えていくのかを学んでいただきます。

・結果報告 本事業では、日本会議和歌山会長、角莊三氏をお迎えし、戦後の教育・メディア報道の問題点、また、それらが成した国家的歪み、及び、本来在るべき日本国・国民の主権意識や、先々で直面しかねない国家的リスクと必要な備えについてご講演いただきました。

講演を通じ、我が国の戦後の教育・メディア報道が反日化した原因が、とどのつまりはGHQの占領政策に帰着すること、加えて、それによって愛国心や国家観が破壊され、元来の日本人の道德心が失われつつあったことを確認していただく機会になったと考えます。

また、シンガーソングライターの山口采希氏に「大切な宝物」～教育勅語を曲に～を歌っていただいたことで、その内容や意味を再確認し、教育勅語をより身近に感じていただき、更に、「空と海の向こう」を歌っていただいたことで、日本国・国民に対する重大な主権・人権侵害である北朝鮮による拉致問題についても改めて関心を強めていただく機会になったと考えます。

私たち日本人には、素晴らしいこの日本を、先祖代々の歴史や文化を、子どもたちの未来を守り保つ義務があります。本事業を通じ、確たる愛国心を以ってそれらを守り抜き、確たる国家観を以ってそれらを保ち、元来の日本人の品位と美德を再度体系化し次代へ繋げていくことの重要性について再認識していただく機会になったと確信します。

・今後事業を継続していく上での改善点等

1. 講師、アーティストと、複数のゲストがいらしたのでそれぞれの机に名札を用意しておくべきでした。

2. “戦後”というスケールの大きな内容を短時間で点検するにあたり、時代的に話が前後することもあったので、重点的に講演いただく内容をもっと絞り込んでおくべきでした。また、質疑応答の時間を取り、メンバーの分かり難かったポイントを補足説明

していただく機会を設けるべきでした。

3. 通常の講師例会に加え、ミニライブを行えたことで本例会の目的をメンバーに分かり易く伝えることが出来ました。

2014年度 委員会事業費決算書

青少年委員会

(単位：円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
3月例会事業	15,818	15,818	
10月例会事業	59,684	59,684	
JCTティーチャー	1,680	1,680	
青少年育成事業	812,206	812,206	
合 計	889,388	889,388	

予算額合計 889,388 円

決算額合計 889,388 円

2014年度 委員会事業報告書

絆の「わ」式典・事業委員会

委員長 池田 朗
副委員長 岡本 慎太郎
委員数 10名
予算額 1,759,608円
決算額 1,759,070円

■ 事業報告

本年度絆の「わ」式典・事業委員会では、当青年会議所が近畿地区大会を主管し、近畿地区大会白浜田辺大会を実施しました。特別会員や地域の人々のご支援、ご協力のもと、この地域ならではの事業を行うとともに、近畿各地の方々を当青年会議所らしくお迎えし、地域の魅力を内外に広く発信し、感動を生む大会式典の実施に向け、委員会運営に取り組みました。

6月例会事業では、「結」～LOMの絆、ここに結束！～と題し、直前に迫った近畿地区大会並びに近畿地区大会記念事業に向けて、LOMメンバーが大きな絆の「わ」を結び、更なる一体感を作り出し、近畿地区大会並びに記念事業への想いを結束させることを目的に実施いたしました。講師に田中 真論 氏をお招きし、近畿地区大会主管立候補に至った経緯や想いについてお話しいただいたことにより、LOMメンバーの近畿地区大会への意識がより高まりました。その後、青春の居酒屋で「近畿地区大会決起酒場」を行い、講師を交えながらメンバー同士が高い意識を持って、想いを語り合い、委員会メンバーによる手作りの近畿地区大会並びに近畿地区大会記念事業にちなんだアトラクションを行い、事業への更なる理解を深めることができました。メンバー同士が膝と膝をつきあわせ、語り合うという普段とは違った例会スタイルを取り入れたことにより、メンバー同士が大きな絆の「わ」を作りだし、LOM全体が一つになったと確信いたしました。

近畿地区大会記念事業では、「絆で結ぶ地域の宝」～みんなで挑もう世界記録～と題し、当地域の特産である紀州梅酒・梅ジュースを使ったギネス世界記録に挑戦するという事業を近畿地区大会と当日に開催しました。近畿地区大会には、近畿各地より多くの青年会議所メンバーが当地を訪れることから、この地域の宝とも言える魅力を内外に発信し、笑顔と活気に満ちあふれる未来を創造する絶好の機会だと考え、予定者段階より企画準備に取り組んでまいりました。事業を計画していく中で、限られた予算内では、事業実施が困難であると判断し、趣旨に賛同して頂ける協賛企業を募り、多くの協賛金を得ることできたおかげで、事業を実施することができました。また委員会メンバーのみならず、LOM全体で広報活動を行っていただいたおかげで、当日は888人という多くの参加者が訪れ、世界記録へ挑戦しました。途中、参加者の入場に時間がかかり、挑戦時間が遅くなる等のハプニングもありましたが、成功者が866人となり、公式認定員から世界記録達成の発表を頂いた際には、会場内は大きな歓声と感動に包まれました。この事業を通して地域住民と青年会議所メンバーが手と手を取り合い、無事ギネス世界記録を達成するこ

とで、地域活性化の一助となったと確信いたしました。

近畿地区大会白浜田辺大会では、人と地域が共鳴する近畿の実現 ～笑顔と活気が満ちあふれる未来へ～をテーマに、みんなでいこら！つれもて結ぼう！絆の「わ」をスローガンに掲げ、近畿地区内94LOMのメンバーが一堂に会する大きな事業での大会式典を担当しました。この地域の魅力を広く内外に発信できる場であるとともに、当青年会議所が培ってきた伝統や精神、規律ある大会式典の運営をしっかりと行えるよう取り組んでまいりました。主管である我々と主催である近畿地区協議会の皆さんと切磋琢磨しながら、大会式典を構築していく中で、今まで経験したことのない設営準備にとまどいながらも、大会に携わるメンバーが大きく成長していく様を感じることができました。また京都会議から始まった近畿地区大会白浜田辺大会のPR活動において、多くのLOMメンバーにも参加していただき、近畿各地様々な場所でPRを行い、近畿地区大会を迎えました。大会式典では、当地を代表する世界遺産「百間ぐら」からの眺望をバックパネルにあしらったほか、弁慶伝説保存会の皆さんのご協力のもと、弁慶伝説の演劇を披露していただき、白浜・田辺地域の魅力が詰まった大会式典を実施することができました。また、大きな混乱もなく、無事に大会を終えることができたことで、次年度開催される草津大会へのバトンをつなげたと感じています。

近畿地区大会という大きな事業を担う委員会とあって、委員長という役職を拝命した当初より、不安ばかりが先行しておりましたが、山本担当副理事長をはじめ岡本副委員長や委員会メンバーの多大なるご協力が支えとなり、無事に職務を全うできたと実感しております。心より御礼申し上げます。また委員長として至らぬ点が多々あり、連日連夜のJC活動で多くの時間を共にしてメンバーですが、この1年を振り返った時に、長いJC生活の中でも深く印象が残る事業を行うことができたのではないかと考えております。

最後になりましたが、当委員会事業にご協力頂きましたLOMメンバー始め、多くの一般企業の皆さまに改めて御礼申し上げ、委員会報告とさせていただきます。皆さま一年間、本当にありがとうございました。

■ 委員会開催記録

		開催日	内容
（予定者）	第01回	2013年9月4日	2014年度委員会事業計画（案）の件
	第02回	2013年9月9日	2014年度委員会事業計画（案）の件 2014年度委員会例会事業担当月（案）の件
	第03回	2013年9月27日	2014年度委員会事業計画（案）の件 2014年度委員会例会事業担当月（案）の件
	第04回	2013年11月5日	2014年度委員会事業計画（案）の件 公益目的事業計画書（案）の件
	第05回	2013年11月28日	公益目的事業計画書（案）の件
	第06回	2013年12月16日	近畿地区大会白浜田辺大会 開催理念について 近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」予算書について
第01回		2014年2月3日	近畿地区大会白浜田辺大会について 近畿地区大会記念事業（案）について
第02回		2014年2月17日	近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」開催計画並びに予算（案）の件 近畿地区大会記念事業（案）について
第03回		2014年2月26日	近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」開催計画並びに予算（案）の件 近畿地区大会記念事業（案）について
第04回		2014年3月17日	近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」開催計画並びに予算（案）の件 近畿地区大会記念事業（案）について
第05回		2014年3月31日	近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」開催計画並びに予算（案）の件 近畿地区大会記念事業（案）について 6月例会事業計画書・予算（案）について
第06回		2014年4月18日	近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」開催計画並びに予算（案）の件 近畿地区大会記念事業（案）について 6月例会事業計画書・予算（案）について
第07回		2014年5月19日	近畿地区大会白浜田辺大会について 近畿地区大会記念事業計画書・修正予算（案）について
第08回		2014年6月3日	近畿地区大会記念事業計画書・修正予算（案）について 近畿地区大会記念事業広報活動について

第09回	2014年6月19日	近畿地区大会記念事業について 近畿地区大会白浜田辺大会について 6月例会について
第10回	2014年6月30日	近畿地区大会記念事業の運営及び準備物について 近畿地区大会白浜田辺大会の運営及び準備物について
第11回	2014年7月29日	6月例会事業報告書・決算（案）の件 近畿地区大会各委員会意見集約について
第12回	2014年9月1日	6月例会事業報告書・決算（案）の件 近畿地区大会記念事業報告書・決算（案）の件
第13回	2014年9月29日	近畿地区大会記念事業報告書・決算（案）の件
第14回	2014年11月5日	2014年度絆の「わ」式典・事業委員会事業報告書（案）の件
第15回	2014年12月1日	2014年度絆の「わ」式典・事業委員会事業報告書（案）の件

■ 例会事業

- ・事業名 「6月例会事業」
- ・タイトル 「結」～LOMの絆、ここに結束！～
- ・実施日時 2014年6月19日（木）19時40分～21時24分
- ・実施場所 田辺商工会議所3F 大会議室
- ・講師 田中 真論 氏
- ・司会 中田 真寛 君
- ・事業参加者 正会員・仮会員・オブザーバー
- ・参加人数 正会員58名、仮会員1名
- ・事業目的 本年度、公益社団法人白浜・田辺青年会議所が主管となり、7月5日・6日に近畿地区大会を執り行うとともに、地域の新たな魅力を創造する記念事業を実施します。

我々は、この日を笑顔と活気が満ちあふれる未来を創造していく絶好の機会ととらえ、近畿地区大会並びに記念事業の実施に向けて一丸となって取り組んでいくことが必要だと考えます。

本例会事業では、現役メンバー同士が手と手を取り合い、大きな絆の「わ」を結び、LOMに更なる一体感を作り、今以上に近畿地区大会並びに記念事業に向けての想いを結束させることを目的とします。

- ・事業内容 近畿地区大会まで残り16日となった今、近畿地区大会主管立候補を決断した当時の理事長である田中 真論 氏をお招きし、主管立候補に至ったプロセスや想い、近畿地区大会を実施することにより、もたらす未来等についてお話いただきます。

その後、近畿地区大会並びに記念事業に向けたメッセージの書かれたコップに注がれた梅酒・梅ジュースを手に、全員で輪になり、記念事業と同様の方法で乾杯し、大きな絆の「わ」を創造します。また、決起の意味を込めた青春の居酒屋『近畿地区大会決起酒場』を行い、近畿地区大会や記念事業に関するアトラクション等を通じて、LOMの絆を結束していただきます。

- ・結果報告 本例会事業では、直前に迫った近畿地区大会並びに記念事業に向けて、LOMメンバーが大きな絆の「わ」を結び、更なる一体感を作り出し、近畿地区大会並びに記念事業への想いを結束させることを目的に実施いたしました。

まずは、田中 真論 氏による講演を行い、近畿地区大会主管立候補に至った経緯や想いについてお話いただくことにより、LOMメンバーの意識が高まったと感じました。その後青春の居酒屋「近畿地区大会決起酒場」を行い、講師を交えながらメンバー同士が高い意識を持って、想いを語り合いながら、近畿地区大会並びに記念事業にちなんだアトラクションを行うことができました。

今回の例会事業により、近畿地区大会並びに記念事業への理解を深めるとと

もに、想いを結束させる一助となったと確信いたします。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等
 1. アトラクションの時間が想定よりも長くなってしまい、予定していたアトラクションを全て時間内に行うことが出来ませんでした。時間に余裕をもったタイムスケジュールを構築するべきでした。
 2. 青春の居酒屋を開催するにあたり、メンバー用の座布団を用意しておりましたが、食べ物の置き場所がなかったので、食べ物を置いておける低いテーブルを設置するなどの工夫が必要でした。
 3. 用意していた飲料用の氷が、ブロックで届いてしまい、直前で氷割り作業が発生してしまったことによって、講師講演中に会場内にその音が聞こえてしまいました。今回の様に手作りで例会を行う場合は、より入念な準備や確認が必要でした。
 4. 通常、例会の受付場所は会場外に設営していますが、担当の委員会メンバーには講師の話が聞こえにくかった。また、遅参し会場に入らないメンバーも見受けられたので、例会の受付は会場内で行うべきでした。

■ 近畿地区大会記念事業

- ・事業名 「近畿地区大会記念事業」
- ・タイトル 「絆で結ぶ地域の宝」 ～みんなで挑もう世界記録～
- ・実施日時 2014年7月5日（土） 14時30分～17時00分
- ・実施場所 カップーク
- ・司会 山下 博美 氏
- ・事業参加者 正会員・一般参加者
- ・参加人数 正会員34名、一般参加者888名
- ・協力団体 一般ボランティア20名
- ・事業目的 本年度、我々公益社団法人白浜・田辺青年会議所が主管となり開催する近畿地区大会は、近畿各地より多くの青年会議所メンバーが当地を訪れることから、この地域の宝とも言える魅力を内外に発信し、笑顔と活気に満ちあふれる未来を創造する絶好の機会だと考えます。

そこで、近畿地区大会を通して、地域住民と青年会議所メンバーが手と手を取り合い、新たな地域の魅力を創造し、強い絆の「わ」を結び、人と地域が共鳴することで、地域活性化の一助となることを目的とします。
- ・事業内容 地域の宝のひとつである「紀州梅酒及び梅ジュース」を用いて、ペアになった二人が手をクロスさせながら同時に乾杯を行う人数において、現在802人というギネスワールドレコードに、ギネス認定員立会のもと記録更新に挑み、各種メディアを通して、参加者全員で地域の魅力を発信します。
- ・結果報告 本事業は、我々公益社団法人白浜・田辺青年会議所が主管となり開催する近

畿地区大会を、この地域の宝ともいえる魅力を内外に発信し、笑顔と活気に満ちあふれる未来を創造する絶好の機会だと考え、地域住民と青年会議所メンバーが手と手を取り合い、新たな地域の魅力を創造し、地域活性化の一助となることを目的に実施いたしました。

当日は、一般参加者888人という多くの来場者が訪れ、紀州梅酒及び梅ジュースを使った世界記録への挑戦に挑みました。途中、挑戦エリアへの入場に時間がかかり、挑戦時間が遅くなってしまいましたが、成功者が866人となり、公式認定員から世界記録達成の発表を頂いた際には、会場内は大きな歓声と感動に包まれました。

今回の事業により、参加いただいた方々はもとより、地域全体において、この地域の宝を使い「ギネス世界記録」という新たな魅力を創造できたことによって、地域活性化の一助となったと確信いたします。

- ・後援 和歌山県・田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町・公益社団法人和歌山県観光連盟・田辺観光協会・みなべ観光協会・白浜観光協会・上富田町観光協会・日置川観光協会・すさみ町観光協会・公益社団法人龍神観光協会・中辺路町観光協会・熊野本宮観光協会・大塔観光協会・一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー
- ・協賛 中田食品株式会社・株式会社濱田・株式会社石神邑・株式会社岡畑農園・株式会社ウメカ食品・株式会社タチバナ・株式会社プラス・有限会社銀ちろ・株式会社南紀白浜富田の水・コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社・紀州田辺うめ振興協議会（順不同）
- ・今後、事業を継続していく上での改善点等
 1. 近畿地区大会と同時開催するという事で、運営スタッフの役割を細かく決めていたが、準備段階から事業中に関しても、予測なしに発生する事案等に対して、絶対的なスタッフ数が足りませんでした。スタッフ数に余裕が無い場合は、外部団体への協力も考慮するべきでした。
 2. 会場内の音響について、事前にテストを行い、また当日もテストを行い、設営に問題が無いことを確認していました。しかし、多くの参加者が一つの会場に密集したことにより、用意していた音響設備ではステージから遠い位置におられた参加者にアナウンスを届けることができませんでした。特に屋外の会場の場合、専門業者に確認するなど、配慮が必要でした。
 3. 挑戦エリア内に設置していた、フリードリンク（水）サーバが1箇所しかなく、参加者全員に告知することが出来ませんでした。各ブロックにドリンクサーバを設置するなど、配慮するべきでした。
 4. 挑戦時間が想定より長くなってしまったことにより、記録達成後は開始が迫ったから

いち会場へ向かう参加者が多くいたため、用意していたアンケート及び認定書販売ブースへは向かう方が少なくなっていました。そのため、認定書の販売が想定数よりも少なく、またアンケートへ記入して頂く方がいないという結果になりました。事業終了後の参加者の動線について、たからいち会場との位置関係を踏まえ考慮するべきでした。

5. 事業内容に対して、事業予算が不足しておりましたので、外部団体より協賛を募り、多くの協賛金をいただくことができました。協賛金額設定を高めにする事で、趣旨目的に賛同頂ける企業が集まったことにより、協賛企業側も大きな満足を得る結果となりました。

・今後、ギネス世界記録へ挑戦する際の注意点等

1. ギネスワールドレコーズジャパンとの交渉は基本無料で行うことが可能ですが、実際の挑戦に対しての細かなルール等については、申請料を前払いすることで対応部署及び担当者が決定され、打ち合わせが可能となります。よって、事業の組立時には、詳細な条件等が不明な状態で事業を構築していくことになりますので、審議可決後、改めて事業内容を見直す必要性が考えられます。修正議案を作成する場合も踏まえ、余裕を持った上程スケジュールを構築することが必要です。

2014年度 委員会事業費決算書

絆の「わ」式典・事業委員会

(単位: 円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
6 月 例 会 事 業	21,000	20,462	
近畿地区大会記念事業	1,738,608	1,738,608	
合 計	1,759,608	1,759,070	

予算額合計 1,759,608 円

決算額合計 1,759,070 円

2014年度 委員会事業報告書

絆の「わ」大懇親会委員会

委員長	富士 利郎
副委員長	花田 英吾
副委員長	石黒裕次郎
委員数	11名
予算額	330,000 円
決算額	320,278 円

メンバーの皆さまには全ての面で協力いただきました。事業の大きさと、プレッシャーに何度も押し潰されそうになりましたが、皆さんの支えのお陰で最後までやり遂げることができました。また、早稲田理事長を筆頭に、LOMメンバーの皆さまには、お仕事、ご家庭、そしてJCにおいてもそれぞれの担いがある中、近畿地区大会を成功に導くために当日のご協力だけでなく、近畿各地へのPR行脚、地区大会への登録をお願いしましたが、日頃のJC運動の中で強く結ばれた絆の「わ」の力を発揮し、乗り越えることができました。LOMメンバーのご協力がなければ、大会を成功に導くことはできなかったと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、いつも陰で支えてくれていた花田、石黒両副委員長、連日連夜お付き合いいただいた山本担当副理事長、本当にありがとうございました。皆さんに感謝申し上げ、事業報告とさせていただきます。

■ 事業報告

本年度、絆の「わ」大懇親会委員会は、37年ぶりに当青年会議所が主管として執り行われる、近畿地区大会白浜田辺大会の大懇親会「近畿フェスタたからいち」の開催を第一の目標とし、委員会名でもあるように、会員相互及び会員家族間の絆の「わ」を更に強く結びつけるため事業や例会を通じ活動してまいりました。

近畿地区大会白浜田辺大会では、近畿地区協議会、地区大会運営委員会との協働で、大会テーマである「人と地域が共鳴する近畿の実現 ～笑顔と活気が満ちあふれる未来へ～」の達成を目指し、最高のおもてなしの気持ちと、癒しの心をもって、近畿中のJAYCEEや、地域の皆さまを田辺市扇ヶ浜海水浴場周辺にお迎えいたしました。近畿各地の「うまいもん」が集まった飲食ブース、チェンソーカービングに燈籠のイルミネーション、ダンスボーカルユニットのDAPUMPによるアーティストライブ、お笑い芸人たちによるステージ等、過去に経験したことのない大規模な事業となりました。委員会メンバー、LOMメンバー、ご家族、先輩諸兄、そしてご協力いただいた全ての皆さまのご協力のおかげで、地域の魅力とともに、人と人、人と地域、地域と地域、全てを結ぶ懸け橋となれるような近畿地区大会大懇親会を開催することができました。

絆の「わ」大懇親会委員会事業として、「近畿フェスタたからいち」において、地域の魅力を発信する事業を実施いたしました。それぞれに魅力が詰まった8つの地域の「たから」を出展し、来場いただいた皆さまに対しその「たから」を堪能し、当地域の魅力を感じていただいたことで、地域の魅力を内外に向け強く発信することができました。

11月例会事業では、～みんなでいこら つれもて結ぼう 家族の「わ」～と題し、会場をみなべ町の西山浄土宗新福寺に設え、メンバーだけでなくご家族の皆さまもお迎えし、家族例会を実施いたしました。子ども向けのアトラクションや飲食のふるまいをし、メンバーと家族が懇親を深めることで、日頃の青年会議所運動へのご理解、ご協力に感謝し、来るべき50周年に向け、絆の「わ」を今以上に強く結び、深める事ができた例会事業になりました。

2月より地区大会の議案書の作成が本格化してから、7月の大会当日までの約半年間、委員会

■ 委員会開催記録

		開催日	内容
(予定者)	第1回委員会	平成25年 9月 4日	2014年度理事長所信について、2014年度組織図について、2014年度委員会職務分掌について、2014年度正副委員長他役員について、2014年度委員会委員配属について、2014年度委員会事業計画(案)の件、例会担当月(案)の件
	第2回委員会	平成25年 9月 9日	2014年度委員会事業計画(案)の件、担当例会事業の件
	第3回委員会	平成25年9月 20日	2014年度委員会事業計画(案)の件、2014年度各委員会例会事業担当月(案)の件、開催地、開催場所について
	第4回委員会	平成25年10月21日	2014年度委員会事業計画(案)の件
	第5回委員会	平成25年11月25日	理念・スローガン・大懇親会について
	第6回委員会	平成25年12月16日	開催地、開催場所について、理念・スローガン・大懇親会について
第1回委員会		平成26年 2月 3日	地区大会エンタメについて、宿泊先リスト、飲食店リストの作成について、委員会内役割分担について
第2回委員会		平成26年 2月27日	地区大会議案書作成について
第3回委員会		平成26年 3月22日	近畿地区大会白浜田辺大会「たからいち」開催計画並びに予算(案)について
第4回委員会		平成26年 4月16日	近畿地区大会白浜田辺大会「たからいち」開催計画並びに予算(案)について
第5回委員会		平成26年 4月30日	近畿地区大会白浜田辺大会「たからいち」開催計画並びに予算(案)について、絆の「わ」大懇親会委員会事業計画書・予算(案)について
第6回委員会		平成26年 5月20日	近畿地区大会白浜田辺大会「たからいち」開催計画並びに予算(案)について
第7回委員会		平成26年 6月 2日	近畿地区大会白浜田辺大会「たからいち」開催計画並びに予算(案)について、絆の「わ」大懇親会委員会事業計画書・予算(案)について
第8回委員会		平成26年 7月 7日	近畿地区大会白浜田辺大会のあとかたづけについて
第9回委員会		平成26年 7月28日	絆の「わ」大懇親会委員会事業報告書・決算(案)について、近畿地区大会各委員会意見集約について

第10回委員会	平成26年 9月 3日	11月例会事業について、絆の「わ」大懇親会委員会事業報告書・決算(案)について
第11回委員会	平成26年 9月24日	11月例会事業について、絆の「わ」大懇親会委員会事業報告書・決算(案)について
第12回委員会	平成26年10月23日	11月例会事業について、絆の「わ」大懇親会委員会事業報告書・決算(案)について
第13回委員会	平成26年11月27日	11月例会報告書・決算(案)について、2014年度絆の「わ」大懇親会委員会委員会報告書(案)について、LOM内褒章について

■ 委員会事業

- ・事業名 絆の「わ」大懇親会委員会事業
- ・タイトル 広めよう地域の「たから」 ～紀南の魅力発信プロジェクト～
- ・実施日時 2014年7月5日（土） 17時00分～19時30分
- ・実施場所 扇ヶ浜交流広場 和歌山県田辺市扇ヶ浜1764-5
- ・事業実施者 LOMメンバー、白浜町商工会、上富田町商工会、ふたば福祉会
- ・事業対象者 2014年度近畿地区大会白浜田辺大会近畿フェスタ「たからいち」参加者
- ・告知方法 近畿地区大会白浜田辺大会ポスター・チラシ、WEBサイト、新聞、ラジオ等各種媒体での告知

- ・事業目的 近畿地区94LOMの中でも、最大級の活動エリアを持つLOMは、エリア面積だけでなく数多くの地域の「たから」を持つ近畿有数のソーシャルストックの宝庫でもあります。しかしその魅力を十分に地域内外へと発信できているとは言えません。近畿各地よりたくさんの方が当地を訪れる近畿地区大会は、我々の暮らす地域の「たから」を内外に向けて力強く発信できる素晴らしい機会であると考えます。

そこで本事業では、地域内だけでなく近畿各地から訪れた皆さまに、会場内に集まった地域の「たから」を十分に堪能していただくために、2014年度近畿地区大会白浜田辺大会近畿フェスタ「たからいち」に紀南地域の「たから」ブースを出展し、それらを内外に向けて力強く発信することを目的とします。

- ・事業内容 LOMエリア内で輝く地域の「たから」を発掘し、2014年度近畿地区大会白浜田辺大会近畿フェスタ「たからいち」にブースを出展します。当地の誇るソーシャルストックの魅力を感じ、力強く内外に向けて発信するために、出品された「たから」の数々を会場に来場された皆さまに堪能していただきます。

- ・結果報告 2014年度近畿地区大会白浜田辺大会近畿フェスタ「たからいち」に来場された皆さまに向け、当地域の魅力を発信するために、地域ブースとして8つの「たから」を出展いたしました。それぞれに地域の魅力が詰まった特色ある「たから」であり、出展品は「たからいち」開催時間内に全て完売いたしました。

この事業で出展した地域の「たから」を、ご来場いただいた皆さまに堪能していただき、それにより当地域の魅力を感じてもらい、それらの「たから」とともに地域の魅力を内外に向け強く発信することができたと確信いたします。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 梅餃子を焼くのに時間がかかり、たくさんのお客様にお待ちいただくことになってしまいました。もう少し事前のシミュレーションが必要でした。
2. ブースの出展位置がギリギリまで確定せず、当日の連絡となってしまいました。もっと事前に主催側と綿密な打ち合わせをおこなっておくべきでした。
3. 地域の魅力や「たから」を内外に向けて発信という目的を、さらに高いレベルで達成するために、地域ブース同士固まって出展したほうが良かったと感じました。
4. 出展品によっては、たからいち開始直後に無くなるものもあり、もう少し出品数を増やしておくべきでした。
5. いくつかの出展品が、打ち合わせ不足もあり直前になって変更となってしまいました。協力業者の方々ともっと綿密な打ち合わせを行っておくべきでした。
6. 出展した地域の「たから」の魅力をさらに知っていただくために、目立つポップや、商品説明の看板を設置しておくべきでした。

■ 例会事業

- ・事業名 11月例会事業
- ・タイトル ～みんなでいこら つれもて結ぼう 家族の「わ」～
- ・実施日時 2014年11月16日（日）11時40分～13時45分
- ・実施場所 西山浄土宗 新福寺、向かいの河原
所在地：日高郡みなべ町山内848
TEL：0739-72-2146

- ・司会 佐藤 生空 君
- ・事業対象者 正会員、仮会員、会員家族、同伴者
- ・事業参加者 正会員43名、仮会員0名 出席率57.3%
同伴者56名（子ども36名）

- ・事業目的 まちづくり事業、近畿地区大会等、本年度も数多くの事業が実施されました。そのような中で、私たちが日々青年会議所運動に邁進することができているのは、家族や周りの方々の支えがあるからに他なりません。しかし、それらの運動の中で、直接的に家族の皆様へ感謝をする機会がほとんどないのが現状です。本例会事業では、日頃の青年会議所運動へのご理解、ご協力に感謝し、来るべき50周年に向け、メンバーとメンバー家族との絆の「わ」を今以上に強く結び、深める事を目的とします。

・事業内容 メンバー、メンバーのご家族と、歓談・メンバーによるふるまい・アトラクション等を通じ、日頃の青年会議所運動への理解に対するお礼とともに、普段接する機会が少ないメンバー家族同士の交流を深めていただきます。

・結果報告 みなべ町山内、西山浄土宗新福寺及び向かいの河原において～みんなでいこら つれもて結ぼう 家族の「わ」～と題し、メンバー、ご家族の皆さまを迎え、11月例会事業を開催いたしました。

本例会事業では、まず新福寺副住職であり、メンバーの原田顧問からお説教をいただき、その後、お経唱和や焼香体験を行いました。そして、原見直前理事長による鐘つきを合図に会場を向かいの河原に移し、メンバーによるふるまいや、射的や宝探し等の子ども向けアトラクション、最後にはお菓子まきを実施しました。例年以上に数多くの事業が実施された本年度への協力の感謝と共に、メンバー、家族間の交流を図ることができた事業となりました。

本例会事業を実施したことで、ご家族の皆さまに対し、日頃の青年会議所運動へのご理解をいただきました。それにより、来るべき50周年に向け、メンバーとメンバー家族との絆の「わ」を今以上に強く結び、深める一助になったと確信いたします。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 小さいお子さま向けの休憩場所とふるまい会場が離れていたため、室内で休みたい場合の移動が大変でした。距離のことも考え、車での移動、幕を張ったテントを用意する等の対策が必要でした。
2. アトラクション用のプレゼントを当日持参される方がほとんどだったため、振り分けに苦労いたしました。委員会訪問時の説明や案内を徹底し、事前にプレゼントを収集しておいたほうが当日の運営がスムーズでした。
3. 鐘つき、アトラクション、お菓子まき、記念撮影等、それぞれ実施時間の五分前に子どもたちを集めるアナウンスを行いましたが、思うように集合してくれず、予定時間より遅れて開始となりました。小さな子どもを誘導するには、もっと時間配分に余裕を持たせるべきでした。

2014年度 委員会事業費決算書

絆の「わ」大懇親会委員会

(単位:円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
絆の「わ」大懇親会 委員会事業	280,000	272,230	
11月例会事業	50,000	48,048	
合 計	330,000	320,278	

予算額合計 330,000円

決算額合計 320,278円

2014年度 委員会事業報告書

まちづくり委員会

委員長	小山 欣宏
副委員長	白井 健太郎
副委員長	寺前 雄也
委員数	10名
予算額	5,026,500円
決算額	4,751,812円

■ 事業報告

本年度、まちづくり委員会では、例会や各種事業において委員会の枠を越え助け合える絆の「わ」を創造すると共に、この地域の発展・活性化のために活動している諸団体の方々と手を組み合い「わ」を創出し、この地域の未来に夢や希望を育む事業に取り組むため一年間活動してきました。

4月例会事業では、「紀南Future Kids Project 2014～未来を担う子どもたちのために～」を田辺東ロータリークラブ様との共同主催で実施するにあたり、メンバー一人ひとりが事業内容を十分理解し、その目的を共有したうえで全員が一丸となって事業に取り組むための事業説明会を行いました。最初に田辺東ロータリークラブ様をお招きし、会長並びに40周年事業委員長よりご挨拶をいただきました。そこで事業に対する熱い想いをLOMメンバーに伝えていただいたことで、共同事業の実施に対する皆の意識が高まったと感じました。そして高い目的意識を持った状態で、全体説明と各担当に分かれLOMメンバーの役割分担や事前準備について確認を行うことが出来ました。本例会事業により、この地域の活性化のために地域にあるさまざまな職業の魅力を自らの身体で体験することで、未来を担う子どもたちの豊かな心と夢や希望を育むことを目的としたまちづくり事業の内容を理解してもらい、全員で取り組む意識を高めることができたことを確信いたします。

まちづくり事業「紀南Future Kids Project 2014～未来を担う子どもたちのために～」では、同じこの地域のために活動している田辺東ロータリークラブ様と共に未来を担う子どもたちの豊かな心と夢や希望を育む事を目的に共同事業を行いました。

事業を振り返り、今回この事業を開催する事が出来たのも、田辺東ロータリークラブ様より資金面や人員面において多大なるご協力を得る事が出来たからであると深く感謝しております。

田辺東ロータリークラブ様は「40周年記念事業」として、私たち（公社）白浜・田辺青年会議所は「まちづくり事業」として、この地域の発展・活性化のために活動している団体同志が、「未来を担う子どもたちのために」という同じテーマを掲げ、今回この事業に取り組んだことは、まちづくりに必要な、人と人、地域と地域が大きな絆の「わ」を創造する事の第一歩となったと考えます。また、今回の事業では、地域の福祉団体様や各商工会青年部様にもご協力いただき開

催いたしました。1団体では困難な事も地域の皆様との協力により相乗効果生まれ事業内容も充実したものとなることを感じました。今後、まちづくり事業を検討していくうえでは、各種団体との協力体制が重要になると考えます。

事業内容においては、今年度は来場された子どもたちに出来るだけ多くの体験をしてもらいたいと考え、昨年の反省点を踏まえ、体験ブース数の充実と受付方法の改善を行いました。その結果、今回来場された子どもたちのほぼ全員が職業体験とフリー体験の両方を体験してもらうことが出来ました。子どもたちの笑顔で体験をしている姿や体験後のアンケート、そして体験者の生の声を聞く中で、体験を通して子どもたちの将来の夢や希望を育むきっかけ作りが出来たことを確信しております。

8月例会事業では、これまでに築いてきたメンバー間の絆の「わ」をより強固なものにするために、JC歴の違いや委員会の枠を越えたグループを作り、お互いに力を合わせてカレー作りを行いました。普段あまり作ることのない特殊な種類のカレーをレシピ無しで作るという条件のもと、各グループ内で話し合い協力し試行錯誤しながら作ったカレーは、どれもグループの個性が輝いたものでありました。また、和やかな雰囲気の中でコミュニケーションを図りながらカレーを作っていただいたことで、メンバー間の新たな親睦が深まったと同時にお互いの協力意識が高まり、今後の委員会や例会、各種事業への参加意識の向上につながる一助となったものと確信いたします。

まちづくり委員会事業「巨大絵馬奉納」では、まちづくり事業「紀南Future Kids Project 2014～未来を担う子どもたちのために～」において、来場者の子どもたちの将来の夢や希望等の願いが書き綴られた巨大絵馬を子どもたちの代わりに熊野本宮大社へ奉納しました。神殿にて御祈祷の儀があり、早稲田理事長が玉串を奉奠し参加者一同心よりお祈りさせていただきました。その後、九鬼宮司より絵馬奉納事業についてありがたいお言葉をいただき、改めて8年続いた巨大絵馬事業の重さを再確認しました。そして、絵馬設置場所に移動し、子どもたちの描いた願い事の前で記念撮影を行いました。本事業を通じて、未来を担う子どもたちの祈願成就の一助となったことと確信します。

最後になりますが、この一年間を振り返り委員長として至らぬ点が多々あったことと思います。玉置担当副理事長、白井副委員長、寺前副委員長、そして委員会メンバーの皆様への支えがあったからこそ委員会運営を行ってこれたことができたと感じております。一年間本当にありがとうございました。また各事業実施に当たりご支援下さったLOMメンバーの皆様、各諸団体の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

■ 委員会開催記録

(予定者)	第 01 回委員会	平成 25 年 9 月 4 日	例会担当月（案）の件 2014 年度委員会事業計画（案）の件
	第 02 回委員会	平成 25 年 9 月 9 日	2014 年度委員会事業計画（案）の件 2014 年度各委員会例会事業担当月の件
	第 03 回委員会	平成 25 年 10 月 2 日	2014 年度委員会事業計画（案）の件 2014 年度年間スケジュールについて まちづくり事業計画書（案）の件
	第 04 回委員会	平成 25 年 10 月 8 日	まちづくり事業計画書（案）の件
	第 05 回委員会	平成 25 年 10 月 15 日	まちづくり事業計画書（案）の件
	第 06 回委員会	平成 24 年 11 月 1 日	2014 年度委員会事業計画（案）の件 公益目的事業計画書（案）の件 まちづくり事業計画書（案）の件
	第 07 回委員会	平成 25 年 12 月 2 日	公益目的事業計画書（案）の件 まちづくり事業計画書（案）の件
	第 08 回委員会	平成 25 年 12 月 27 日	まちづくり事業計画書（案）の件
第 01 回委員会		平成 26 年 1 月 27 日	まちづくり事業計画書（案）の件 4 月例会事業計画書・予算（案）の件
第 02 回委員会		平成 26 年 2 月 27 日	まちづくり事業計画書・修正予算（案）の件 まちづくり委員会事業計画書・予算（案）の件 4 月例会事業計画書予算（案）の件
第 03 回委員会		平成 26 年 3 月 19 日	まちづくり委員会事業計画書・予算（案）の件 まちづくり事業計画書・修正予算（案）の件 4 月例会について 出席率向上について
第 04 回委員会		平成 26 年 3 月 27 日	まちづくり事業計画書・修正予算（案）の件 4 月例会について 出席率向上について
第 05 回委員会		平成 26 年 4 月 14 日	4 月例会について まちづくり事業について
第 06 回委員会		平成 26 年 4 月 21 日	まちづくり事業について 8 月例会事業計画書・予算（案）の件 出席率向上について
第 07 回委員会		平成 26 年 4 月 25 日	まちづくり事業について 8 月例会事業計画書・予算（案）の件 出席率向上について

第 08 回委員会	平成 26 年 5 月 22 日	8 月例会事業計画書・予算（案）の件 4 月例会事業報告書・決算（案）の件 まちづくり事業報告書・決算（案）の件 出席率向上について
第 09 回委員会	平成 26 年 6 月 4 日	4 月例会事業報告書・決算（案）の件 8 月例会事業計画書・予算（案）の件 まちづくり事業報告書・決算（案）の件 出席率向上について
第 10 回委員会	平成 26 年 6 月 26 日	8 月例会事業計画書・予算（案）の件 まちづくり事業計画書・補正予算（案）の件 まちづくり事業報告書・決算（案）の件 出席率向上について
第 11 回委員会	平成 26 年 7 月 22 日	8 月例会について まちづくり事業計画書・補正予算（案）の件 まちづくり事業報告書・決算（案）の件 近畿地区大会反省と成果について 出席率向上について
第 12 回委員会	平成 26 年 8 月 18 日	8 月例会について 出席率向上について
第 13 回委員会	平成 26 年 8 月 28 日	まちづくり事業報告書・決算（案）の件 8 月例会事業報告書・決算（案）の件 出席率向上について
第 14 回委員会	平成 26 年 9 月 25 日	8 月例会事業報告書・決算（案）の件 出席率向上について
第 15 回委員会	平成 26 年 10 月 30 日	まちづくり事業修正決算（案）の件 まちづくり委員会事業について 出席率向上について
第 16 回委員会	平成 26 年 11 月 27 日	まちづくり委員会事業報告書・決算（案）の件 2014 年度委員会事業報告書の件

■ 委員会事業

- ・事業名 まちづくり事業
- ・タイトル 「紀南Future Kids Project 2014
～未来を担う子どもたちのために～」
- ・実施日時 2014年4月27日（日） 10時00分～16時30分
- ・実施場所 ガーデンホテルハナヨ
ハナヨアリーナ及びアリーナ横広場、コンベンションホール木犀
和歌山県田辺市文里（海岸通り）2丁目36-40
- ・事業参加者 正会員 56名 仮会員 2名 出席率76.0%
田辺東ロータリークラブ 21名
ボランティア 12名
- ・事業来場者数 約4,000名（保護者も含む）
- | | |
|-------|---------|
| 職業体験 | 1,022名 |
| フリー体験 | 約3,500名 |
| 巨大絵馬 | 約400名 |
| 飲食ブース | 約2,500名 |

職業体験ブース 体験人数 1,022名

◆こども銀行

体験人数 50名

■概況および成果

本ブースでは、場内限定の仮想通貨「100ハーツ、50ハーツ」と現金を両替する銀行の窓口業務を体験していただきました。両替の希望金額を両替依頼書に記入してもらい両替するというお客様とのやりとりが存在し、普段扱う機会が少ない大切なお金を扱うという貴重な経験もできたと思います。このことにより、人とのふれあいを通じた仕事体験により接客の楽しさや難しさを感じていただけました。

■反省点

1. 事業開始時は非常に混雑するので、事前に両替用のハーツを10枚ずつに分けておく等、もっとスムーズに両替作業ができるように事前準備が必要だと感じました。
2. 5クールある中、忙しい時とお客様が来ない時の差が激しく、忙しい時はスタッフがお客様への対応と子どもへの対応でパニック状態になったので、目が行き届かないこともありました。またお客様が来ない時は体験している子どもが立っているだけの時間が度々ありました。今後は、主催者側が運営する銀行窓口と、子どもたちが体験するブースを分け、忙しい時は人数を制限し誘導する方法、暇な時には、スタッフが客になり対応する等の仕組み作りが必要かと思います。

◆ダンスパフォーマー

体験人数 44名

■概況および成果

ダンス講師から教わったダンス（振付）を来場者の前で披露するブースです。短時間での指導で、即本番という流れだったのですが、ものおじしない子どもたちは元気に舞台前で発表していました。エンターテイナーとして見ている人を喜ばすことができる職業選択肢として意義のあるブースだったと思います。重ねて、ダンスが一つのイベントとしての効果もありました。

■反省点

1. ダンスパフォーマーという職業体験のブース名が分かりにくく、ダンスパフォーマーを選択する子どもが少なくなっていました。体験自体はアンケートを見ても良かったのですが、名称の変更や体験内容を事前に分かりやすく伝えることが必要であると感じました。

◆こども商店

体験人数 46名

■概況および成果

紀南にある様々なお土産物や特産品などを販売し、体験した子どもだけではなく、来店した来場者にもそれらを改めて知ってもらいました。また売り子となって販売してもらう形を取り、最初はなかなか声を出せずにいた子どもたちも、一つ商品が売れることによって、その喜びを知り、次第に掛け声も大きくなり、小売業の楽しさを学んでもらえました。

■反省点

1. ブースの場所が分かりにくく、ブース内に入って買い物をしていただけるお客様が少ない状況になり、売り子がメインになってしまいました。売り子を出す時間帯や、呼び込みについて考えていけばさらに良いブースになると感じました。
2. 体験人数がそろわないこともありました。時間内に体験場所に来ない子どもたちを集める担当者を決め、アナウンスを流す等の対策をとる必要があると思います。

◆食品加工会社

体験人数 97名

■概況および成果

梅加工会社のメンバーの協力を得て、梅ジュースの原液であるシロップの作成体験を行いました。食品を扱う工場では特に衛生面に注意するということを知ってもらうため、ブース会場に入っすぐに、衛生コスチューム（衛生帽子、マスク、エプロン、ビニール手袋）を装着して体験してもらいました。メンバーには講師として、紀南の梅の豆知識から衛生面での厳しさ

について語ってもらい、子どもたちにはより本格的に体感していただくため容器内をアルコールスプレーで消毒することや、梅と砂糖を計測器できちんと分量を計ってもらうなどして作成してもらいました。最後に出来た梅シロップの容器に商品名、生産月日、作成者のラベルを書いて張り着けて完成させることで、加工工場の一連の流れを理解してもらうことが出来ました。

■反省点

1. 3～5才の小さい子どもには、計量器で計るなど机の上での作業に背が足りないことや、理解度など困難であると考えられ、年齢制限をあげるか考慮すべきでした。
2. 1クール毎のこぼれた砂糖の処理を円滑にするため、テーブルクロスの上にビニール製のものを敷いておくべきでした。
3. 梅シロップを自宅で管理する際の注意を詳しく説明するべきでした。(高温、日の当たる場所で保管をしないこと、解け出した液体で梅を浸すように時おり混ぜること等の助言)
4. 商品名、生産月日、作成者を製品に貼り付けるラベルは子供向けのイラストが描かれており、自由にマーカーを使って書いてもらうことができ、記念になると喜んでいただきました。
5. シミュレーション不足もあり、掃除道具が足りませんでした。しっかりと確認しておく必要がありました。

◆警備会社

体験人数 50名

■概況および成果

メンバーの警備会社の協力を得て、警備専用の服装や装備を準備しました。また、神出鬼没の泥棒役が突如現れる等の工夫を凝らし、非常に現実に近い仕事内容となりました。子どもたちには現金輸送車の見学や各職業体験ブースへのアタッシュケースによる現金輸送等をしていただき、この仕事だからこそ感じられる緊張感と責任感、また、お金の大切さや重みを体験していただくことが出来ました。

■反省点

1. 現金輸送車を動かす事は危険なため行いませんでしたが、子どもたちにトランシーバーを持たせ、本部に連絡を入れさせる等の工夫をすればより良いものになると感じました。

◆花屋

体験人数 100名

■概況および成果

花屋さんとして、事前に用意した花の花言葉を説明してからの花選び、色の組み合わせ、ラッピングといった花束を作る過程を苦労しながら作り上げ、花屋の難しさや楽しさを十分に体験してもらいました。作業行程をシンプルにまとめたので、小さい子どもでも時間内に完成まで導くことが出来ました。悩みながら苦労して作ることで、完成した時の感動と喜びを感じてもらうことが出来ました。

■反省点

1. メッセージカードを書いて花束に更なる思いを込めていただく等の工夫を凝らしてみても良かったと思いました。

◆おにぎり屋さん

体験人数 100名

■概況および成果

子どもたちにおにぎり屋の調理員になってもらい、おにぎりに混ぜる具材を自分達で選び、成型から包装までの作業を行ってもらいました。内容説明の時に、お客様に美味しく食べてもらえる様に作るように心構えを伝えました。こちらから様々な指示を出すのではなく、子どもたちが自分自身で具材や型抜きを選定等、それぞれの創意工夫や自主性に任せ調理をすることで、完成したおにぎりはどれもバラエティに富んだものが出来上がりました。多くの保護者の方々も同伴していましたが、子どもたちは保護者に頼ることなく楽しそうに調理していました。また、保護者の方々も我が子が自発的に調理する姿を見て大変満足そうな表情をされていました。

■反省点

1. 1クールの中で、後半になると調理も完成し時間が余る子どももいたので、有効な時間配分と内容を考えるべきでした。
2. 白米が大幅に余ったことや、逆に具材の中には直ぐになくなった物もあったので、材料の分量を綿密に計算するべきでした。
3. おにぎりを予定より多く作って、持ち帰る参加者も何組かいましたので、公平になるように1人1バックと明確に説明しておくべきでした。

◆パン屋さん

体験人数 100名

■概況および成果

本職のパン屋さんのご協力の下、子どもたちにウィンナーパンとフルーツサンドの2種類のパン作り及びパンの持ち帰り用ラッピングを体験していただきました。パンや具材は予めパン屋さんに準備していただき、子どもたちにはトッピングを自由に楽しんでいただきました。

事前の体験説明ではパン屋さんの一日の仕事の流れや楽しさ、難しさを話していただき、パンを作るその裏側には大変な苦労があるということを知っていただく良い機会になりました。

■反省点

- アレルギー表示を用意するのを忘れてしまい口頭で説明しましたが、ブース内に大きく表示しておくべきでした。
- パンのトッピングと持ち帰りの包装のみの作業だったので、小学校高学年の参加者には簡単な作業となり、時間が余ってしまう状態になってしまいました。もうひとつ工程があればより良い体験になったと思います。

◆放送局

体験人数 40名

■概況および成果

今年もFM TANABE様の協力を得て、本物の機材を使用したスタジオを開設しました。子どもたちにはラジオリポーターになってもらい、各ブースに取材に行ってもらいました。FM TANABE様のスタッフにも協力していただいたことにより、取材方法のレクチャーやサポートをしてもらうことが出来ました。仕事の中でしか感じることでできない緊張感を味わってもらうことで、仕事の大変さや楽しさを感じてもらうことが出来ました。

■反省点

- 第1クールでPCの調子が悪く録音できませんでした。事前に確認しておく必要がありました。
- 録音したCDを後で取りに来ていただくことになっていましたが、取りに来られなかった方もいましたので、PCを複数台用意しその場で渡すことが出来るようにするべきでした。
- 取材先のスタッフが忙しく、取材できないブースがありました、あらかじめ取材先と打ち合わせをしておくべきでした。
- インタビュー内容を、低学年用と高学年用に分けて用意しておくべきでした。

◆ネイルサロン

体験人数 98名

■概況および成果

今年もトータルビューティーサロンwith様の協力を得てネイルサロンを開きました。昨年同様、子どもたちに大人気で、特に女の子に人気がありました。講師先生の注意事項を聞いた後、夢中になって様々な飾り付けを疑似ネイルに装飾し、仕上げにジェルを塗って専用の器具で乾燥しました。通常のマニキュアとは違うプロの作業を体験することで仕事の面白さや大変さを感じてもらうことが出来ました。

■反省点

- 会場がホテル2Fになった為、体験時間に来なかった子どもがいました。時間内に体験場所に来ない子どもたちを集める担当者を決め、アナウンスを流す等の対策をとる必要があると思います。
- 昨年も参加していただいたネイルサロンのスタッフが参加してくれたため、運営は円滑に行うことが出来ました。

◆たたみ屋さん

体験人数 75名

■概況および成果

井戸豊店様にブースをお任せして運営していただきました。畳の知識や出来上がるまでの工程等をプロの方から説明を受けた上で、いぐさを使ったコースター作りを体験し、畳の質感や原材料とふれあってもらいました。

子どもたちには、普段の生活で味わうことの出来ない貴重な体験が出来たと思います。

■反省点

- 当日のやりとりを明確に出来ていなかったこと等、外部協力者に対する説明不足があったと思います。当日急をお願いした事項もあり、混乱させる原因となったので、綿密な打ち合わせが必要であると感じました。

◆こどもカフェ

体験人数 50名

■概況および成果

カフェブースは、子どもたちに商品作成を体験してもらうという目的だけでなく、来場者に飲料を提供する役目もあり、今回の事業に必要不可欠なものでした。仕事内容の接客・商品作成を二分したことで、仕事における役割分担の経験や、「いらっしやいませ」「ありがとうございます」などの定型的な挨拶の勉強する機会を提供出来ました。

昨年のドリンクのみの販売に加え、今年は新たにソフトクリームの販売を行いました、150ハーツという価格設定にもかかわらず、好調な売れ行きでした。全体的にその繁盛ぶりは昨年に続き、目を見張るものがありました。

■反省点

- ソフトクリームの販売で、一つを作るのに20秒から30秒程度かかり、大人でも難しい作業を子どもがすることで、多数の失敗を招きました。形が悪いものは、子どもの事業らしさもありますが、コーンから落ちるレベルのものは失敗として破棄しました。また、パックのソフトクリームが固く、ソフトクリーム機が動かなくなることも多々あり、パックの温度管理にも気をつけるべきでした。

◆美容室

体験人数 50名

■概況および成果

美容室を経営しているメンバーの協力を得て、パーマメントウェーブとヘアカラー体験をしました。人気のある職業でもあり、体験した子どもたちは、プロの話と技術を興味深く見ながら貴重な体験をすることが出来ました。

■反省点

- 水を自由に使えなかったので、ヘアカラー体験時には次のクールのウィッグの準備に時間がかかりました。
- 体験者の中に対象年齢より下のお子様もおられ、体験内容に苦慮しました。スムーズな運営を行うためには、対象年齢を守る必要があると思いました。

◆でんき屋さん

体験人数 47名

■概況および成果

電気業を行っているメンバーの協力を得て、配線工事を行ってもらいました。普段建物の壁の中などであまり目にすることのない電気配線を実際に行い、電気が送られる仕組みを知ってもらいました。また実際の工事と同様に、作業が終わって請求書を作成しお金がもらえるといった一連の流れを体験してもらう事が出来ました。

■反省点

- 最後にコンセントを使って何か動かす等の工夫があれば良かったと思います。
- 作ったものを持って帰れるようにすれば、より現実になるのではないかと思います。

◆建設会社

体験人数 75名

■概況および成果

子どもたちに建築会社の作業員になってもらい、重機の操縦や土嚢を作る作業を行ってもらいました。内容説明の時に、重機の特徴などを説明しました。その後、重機に乗って建設機械の動きを体験してもらいました。また、土嚢作りでは二人で協力して土嚢作り作業をしてもらいました。重機の操縦や土嚢作りを体験してもらう中で、仕事の大変さと楽しさを感じてもらうことが出来ました。保護者の方々にも子どもたちが働く姿を見てもらう事が出来、喜んでいただく事が出来ました。

■反省点

- 1クールの中で、後半になると時間が余る子どももいたので、有効な時間配分と内容を考えるべきでした。
- 土嚢作りの際、スコップが大人用の物でした。子どもが体験する事業なので、小さいスコップを用意しておくべきでした。

フリー体験ブース 体験人数 約3,500名

◆海上保安庁

体験人数 約1,000名

■概況および成果

田辺海上保安部に協力を得て、巡視船「こうや」の一般公開、制服やウェットスーツの試着、ロープワークや救命胴衣（ライフジャケット）の説明等を行いました。巡視船の一般公開では、船の中を一通り見て回る事が出来、操舵室では実際に舵を握らせてもらうなど、日常には無い見学や体験をしてもらう事が出来ました。また、ゆるキャラ「うみまる」との写真撮影などもありブースを盛り上げていただきました。

■反省点

- 海上保安庁の巡視船は、緊急事態発生時は当日キャンセルになり、巡視船の一般公開を除いたブースのみになることが前提となりますが、万一キャンセルになった場合はブースの設営場所を変更出来るように事前に考えておく必要があると感じました。

◆消防士

体験人数 約600名

■概況および成果

田辺市消防本部に協力を得て、火事の怖さや、はしご車についての説明を行いました。消防士の方から火事について話してもらうことで、火の扱いの大事さを考えてもらう良い機会になったと思います。そして普段なかなか接することの無いはしご車に乗る事で、日常には無い体験をしてもらうことが出来ました。

子どもたちや保護者の方々にも、防災への意識を高めていただくことが出来ました。

■反省点

1. 昨年と同様に起震車体験を考えていたのですが、早くから別イベントで予約が入っており手配できませんでした。田辺市消防本部と話し合い、別の内容も検討するべきでした。

◆自衛隊

体験人数 約600名

■概況および成果

陸上自衛隊員10名の協力を得てロープワーク、水陸両用車の展示、ミニ制服による写真撮影を行いました。そして必ずロープワークを実体験してもらうことを条件に、体験者には自衛隊グッズをプレゼントしていただきました。

多くの来場者があり、自衛隊の活動を知っていただく良い機会になりました。

■反省点

1. 自衛隊車両及びその他装備品は通常考えているより大きなものが多く、敷地の広さにより制限され、あまりいろいろなものを展示できませんでした。
2. 展示場所の取り方、広さ等工夫が必要であると考えます。

◆無線屋さん

体験人数 約400名

■概況および成果

アマチュア無線関係の機器展示、無線に関する説明を行いました。無許可で使えるハンディータイプの無線機を使用し体験してもらうことで、最近の子どもたちには馴染みの薄い無線について知ってもらうことが出来ました。

■反省点

1. 来場者数の見込み違いにより、貸し出し用の無線機が不足し、沢山の体験者にお待ちいただくこととなりご迷惑をおかけしました。

◆ロータリー国際交流

体験人数 約100名

■概況および成果

アジアの留学生を通して、言語の違い、習慣の違い、文化の違いを体験してもらうことで、幅広い考えを持ち国際的なことに興味を持ってもらえる場を提供しました。

運営は、留学生7名、ロータリースタッフ3名で行いました。最初は馴染みが薄いためか呼びかけても参加してもらえませんでした。徐々に呼びかけに応じ体験者が増えていきました。すぐに対応できない面もありましたが、体験者の方に喜んで帰ってもらうことが出来ました。

■反省点

1. 一度に対応できる人数に限りがあり、沢山の子どもが来ると対応できないので、今後はスタッフを増やすなどの対応が必要であると感じました。
2. 「国際交流」というタイトルに馴染みが薄いため、初めはなかなか参加してもらえませんでした。タイトルも含めて内容を理解してもらえるようなブース設営を行うべきでした。

◆キャラクターデザイン

体験人数 約600名

■概況および成果

簡単な一つのイラストに、何点かのシンプルなパーツを付け加えるだけで15種類の動物が描けるようになる体験教室を行いました。絵の楽しさや、発想を変えることで色々なものが生まれるということを目的に行いました。まずは楽しさと変化を知ってもらうことで絵に興味をもってもらい、今後の様々なイラスト、デザイン関係の分野のお仕事を選んでもらえるためのきっかけ作りとなりました。

■反省点

1. 体験用の用紙を500枚用意していましたが、予想以上に多くの体験者が訪れたため早々になくなってしまいました。担当者の機転で白紙に書いてもらうなどの対応をしていただきましたが、もう少し余裕をもって準備しておくべきでした。

◆こども工務店

体験人数 約300名

■概況および成果

子どもたちに大工さんになってもらい、くぎ打ち、角材をのこぎりで切る作業、木材のサンドペーパー掛けを行い、大工の仕事を通じて木材がどの様に使われているのかを体験してもらいました。基本的には、子どもだけで作業を行ってもらいましたが、保護者の方にもご協力いただき、年齢対象外の子どもにも体験してもらう事ができました。この体験を通じて物づくり

の楽しさや難しさを感じてもらうためのきっかけ作りとなりました。

■反省点

1. 大変人気で多くの子どもたちが体験しましたが、想定よりも体験者が多くスタッフの人数が足りませんでした。スタッフの人数をもう少し確保するべきでした。
2. 多くの子どもたちが体験したことにより、注意事項を全員にしっかりと伝えることが出来ませんでした。そのことにより一人の子どもが指に怪我をしました。体験人数を制限するなどして、しっかりと注意事項を伝えることが必要でした。

◆流木アート

体験人数 約 500 名

■概況および成果

流木に絵具で自由な発想で着色し作品を作ってもらいました。子供たちが真剣かつ楽しみながら取組んでいる姿がとても印象的でした。また、作品が一人ひとり違う物に仕上がりが、子どもたちの自由な創造性を育み伸ばすためのきっかけ作りとなりました。

■反省点

1. 予定時間より早く開始したことで、行き場の無い子どもたちが集中し混雑しました。予想以上の子どもたちを受け入れたことで絵具が足らなくなり、乾かしてもらう場所が無くなってしまいました。絵具については、もう少し余裕をもって用意しておくべきでした。乾かす場所については、ドライヤーで乾かし持って帰ってもらうような工夫をするべきでした。

◆ソフトクリーム体験

体験人数約 約 500 名

■概況および成果

受付方法には抽選するパターンもあったため、抽選ではずれた子どもにも楽しんで体験してもらえるように、フリー体験をスタンプラリー方式で3か所以上回るとソフトクリームを作る体験ができるブースを用意しました。子どもたちは楽しそうにソフトクリームを巻いて食べていたのが印象的でした。またフリー体験参加意義も合わせて持つことができ、意味のあるブースであったと考えます。

■反省点

1. 体験希望者を1500名と見込み、職業体験人数約1000から溢れた子どもたちのために約500個のソフトクリームを用意していましたが、職業体験人数通りの子どもたちの来場者に留まりました。
そのため、受付で抽選に外れた子どもに配布する予定だったスタンプカードをランダムに

配る形に対応しました。しかし入手方法が不明確で混乱を招きました。そのような場合の対処法を考えておくべきでした。

◆飲食ブース

体験人数約 約 2,500 名

■概況および成果

福祉団体や各市町の商工会青年部様の力をお借りし、6ブースの飲食ブースを出展していただきました。昨年からの引き継ぎで3ブースでは少なく、来場者を待たせてしまったなどの反省点があり、5ブースに増やしました。人気のある商品は行列ができて混雑しましたが、各団体が様々なメニューを出してくれたことにより来場者の列が分散し、全体的にはスムーズに運営出来たと思います。また、各団体ともに、ブース対価である250ハーツで買える品物を用意していただいたことにより、体験した子どもたちも幅広い選択肢の中で物品を購入していました。

■反省点

1. 各団体が駐車場所や搬入時間などのズレがあり、準備段階においてももっと綿密に打ち合わせをするべきでした。
2. 飲食ブースへ並んでいただいた来場者の中には、ハーツに両替が必要であることを知らないまま並べた方がおられ、購入する時点で現金での販売を要求される事がありました。ブース出展者の臨機応変な対応で現金でも販売していただいたため、大きな苦情に成らずに済みました。場内ルールの周知徹底について検討が必要であるとともに、こども銀行の反省点も踏まえ、限定通貨の使用についても必要性を再検討すべきであると考えます。

◆巨大絵馬寄せ書き

体験人数 約 400 名

■概況および成果

まちづくり事業の継続事業として、熊野本宮大社に奉納する巨大絵馬に将来の夢や希望を書いていただきました。なりたい職業や家族や友達を思いやる願いが、空白の無いくらい各所に書かれていました。具体的な目標や夢など、様々な言葉が書かれていましたが、自由に願いを書くことで新たな創造力の育成と人を思いやる大切さを学んでもらう事が出来ました。

■反省点

1. 昨年度の反省点としてあった絵馬が書かれる場所の養生をはがされて書かれていた点は、今年はその部分に板を置きテープで止め、キャラクターの絵を書き注意書きも同時に記載しました。最後まではがされるところはなく、スムーズに運営できました。
2. スタッフ予定者を2人にしていたのですが、当日1名のスタッフが来られなくなってしま

い、負担を掛けてしまいました。1人での対応は難しく、時間を区切るなどの対応が必要になってくると考えます。

3. 願い事を書いた上から他の子どもが上書きしている場所が何ヶ所もありました。電話でも問い合わせがあり、人数制限などの対応も必要だと感じました。

・事業全体を通して

今回のまちづくり事業「紀南Future Kids Project 2014～未来を担う子どもたちのために～」を振り返り、今回この事業を開催する事が出来たのも、田辺東ロータリークラブ様より資金面や人員面において多大なるご協力を得る事が出来たからであると深く感謝しております。

今回、田辺東ロータリークラブ様は「40周年記念事業」として、私たち（公社）白浜・田辺青年会議所は「まちづくり事業」として、この地域の発展・活性化のために活動している団体同志が、「未来を担う子どもたちのために」という同じテーマを掲げ、今回この事業に取り組んだことは、まちづくりに必要な、人と人、地域と地域が大きな絆の「わ」を創造する事の第一歩となったと考えます。また、今回の事業では、地域の福祉団体様や各商工会青年部様にもご協力いただき開催いたしました。1団体では困難な事も地域の皆様との協力により相乗効果が生まれ事業内容も充実したものとなることを感じました。今後、まちづくり事業を検討していくうえでは、各種団体との協力体制が重要になると考えます。

事業内容においては、今年度は来場された子どもたちに出来るだけ多くの体験をしてもらいたいと考え、昨年の反省点を踏まえ、体験ブース数の充実と受付方法の改善を行いました。その結果、今回来場された子どもたちのほぼ全員が職業体験とフリー体験の両方を体験してもらうことが出来ました。子どもたちの笑顔で体験をしている姿や体験後のアンケート、そして体験者の生の声を聞く中で、体験を通して子どもたちの将来の夢や希望を育むきっかけ作りが出来たことを確信しております。

・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 全体を通して

職業体験ブースのブース単位の説明会を複数回行い、そのうえで事業説明会を行ったことによりL O Mメンバーの皆様には担当ブースの事は理解していただいていたと思いますが、前日準備において各ブースの設営時間帯がバラバラだったため前日の現場におけるシミュレーションが不足していたブースもありました。前日の準備に関し、各ブースの設営についてもきっちり把握し綿密な計画が必要でした。また、今回は受付が重要なポイントであったため、入念なシミュレーションを行い、前日にはロールプレイをしっかりと行っていたため、当日は大きな問題もなくスムーズな運営が出来たと思います。

2. 予算・決算について

今年度は田辺東ロータリークラブ様との共同開催ということで、田辺東ロータリークラブ

様より寄付金330万円を、また昨年同様、田辺商工会議所様より寄付金30万円を受け事業を開催しました。またL O Mメンバー及び田辺東ロータリークラブのメンバーの皆様にご協賛という形で広告料をお願いし、広告料収入21万円を確保いたしました。今後においても、事業を組み立てていくうえで、他団体からの寄付金や行政の補助金等も検討していく必要があると考えます。

3. 保険について

今回は保険金が支払われる事故・破損は有りませんでした。

4. 開催時期について

今回、多くの来場者に来ていただき、体験者も保護者の方にも喜んでいただきました。開催時期については4月で妥当であったと考えています。しかし、今後の事業については内容に見合った開催時期を考える必要があると思います。

5. 会場選定について

今回は、ホテル2階コンベンションホールを使用した為、会場費が昨年度よりも多く掛かっていますが、コストについては事業内容に見合ったものであったと考えます。

場所についてですが、当日の駐車場の確保や、事業内容の一部である海上保安庁のブースと他のブースが一体となって開催できたことを考えると、妥当であったと考えます。

6. 会場との打ち合わせについて

日々入念なチェックを欠かさず、スムーズに打合せが出来ました。会場側も協力的に対応してくださり、要望通りの事前設営をしていただけました。今回会場にホテルのコンベンションホールを利用しましたが、コンベンションホールの使用には時間制限があるため、こちらの要望をしっかりと伝え、入念な打ち合わせが必要だと感じました。

7. 会場設営について

ホテル2階コンベンションホール前に灰皿が設置されていたため、一般の方々が喫煙されていました。子どもが中心の事業なので喫煙場所を2階コンベンションホール前に作らず外だけにすべきでした。

8. 駐車場について

今回は、スタッフ用駐車場を別に確保し、来場者用駐車場には臨時駐車場も確保し、シャトルバスを運行させ、また警備員を昨年より増員したことで道路の渋滞等は無くスムーズな運営ができました。ただ、駐車場案内看板の設置に関し、来場者に勘違いを招くような場所に設置した所が1カ所あり、一部周辺施設にご迷惑をおかけしてしまいました。案内看板設置場所については、来場者が見て分かりやすい場所を選定するため入念な事前調査が必要であると感じました。

9. 体験参加者受付について

今回の受付方法は午前と午後の2回に分けて行いました。その中で体験希望の来場者数と職業体験人数がほとんど同じくらいとなり、大きな混乱もなく、来場していただいた子どもたちには職業体験をしていただけたと考えています。2回に分けることによって、朝から並べない事情のあるご家庭、また午前の受付で希望のブースを体験で出来なかった子どもにはお昼からの受付は行った意義があったと考えます。

午前中の受付は並んだ方が800人程であったため、大きな混乱もなく受付が行えましたが、終盤の受付時は希望のブースがなく、迷われるお子様、家族が多く見受けられました。終盤の受付のスムーズさが必要になってくると思います。

10. 県と市に対しての補助金申請について

今回は、申込みをしておりません。

11. 広報について

職業体験ブースについては対象年齢が決まっている為、LOM地域の小学校・幼稚園、保育園へチラシを配布することによって対象者への広報はすべて行えました。そして一般来場者に対しては、こども商店やこどもカフェ、また各種団体様に出展していただいた飲食ブースもありますので、紀伊民報やラジオ媒体を通じて広報を行いました。

対象年齢が決まっている事業に関しては、今後も同様の広報でいけば良いと思われます。

12. 各体験スタッフ数について

今回のまちづくり事業では、体験ブースを外部協力者に運営を任せるブースを増やし、また田辺東ロータリークラブ様のメンバーや奥様に協力をお願いすることで、スタッフはある程度余裕をもった構成を考えていましたが、事業が始まってみると各ブースとも余裕はなく、昼食もとれずに頑張っていたくことになりました。これだけの事業規模になると現メンバーだけのスタッフでは実質運営は困難であり、今回のようにメンバー以外の協力者が必要になります。メンバーの事業への出席率を高めること、スタッフへの役割分担の徹底、事前のシミュレーションが非常に重要であり、今後の課題であると考えます。

13. 「紀南Future Kids Project」を継続していくために

今回の事業は、田辺東ロータリークラブ様との共同開催という形でお互い協力し合うことで実施する事ができました。事業を終えて田辺東ロータリークラブ様より、「過去にない新たな事業への取り組みとして本事業を共同開催できたことは本当に有意義であり、今後もこのような事業に協力していきたい」というご意向を頂戴しております。当委員会としても今回の事業を振り返る中で、事業規模からすると予算的にも、また実質運営するうえでスタッフ人員的にも当LOMだけで実施するのは限界があると感じており、今後この事業を継続させる為には、田辺東ロータリークラブ様をはじめ、他団体と協力し共同で実施する事を検討する必要があると考えます。

また今回の事業では昨年の反省を踏まえ改善したことにより大変多くの来場者を受け入れる事が出来、特に大きなトラブルもなく大盛況にて事業を終える事が出来ました。しかし

ながら、課題も多く見つかりました。開催場所、開催日数、受付の手法、事業規模、体験ブースの数や種別構成、人員配置と役割の徹底等、それらの課題については、「今後、事業を継続していく上での改善点等」及び「各ブース資料の概況及び成果や反省点」に記載しています。そして、それらを全て一から再構築して、新たな「紀南Future Kids Project」を実施した時、多くの子どもたちの笑顔が溢れる事業になることを確信します。

■ 委員会事業

- ・事業名 「まちづくり委員会事業」
- ・タイトル 「巨大絵馬奉納」
- ・実施日時 2014年11月23日（日） 11時00分～11時45分
- ・実施場所 熊野本宮大社 （田辺市本宮町本宮1100）
- ・事業参加者 正会員12名 会員家族11名 出席率16.0%

- ・結果報告 本事業は、まちづくり事業「紀南Future Kids Project 2014～未来を担う子どもたちのために～」において、子どもたちの将来の夢や希望等、願いが書き綴られた巨大絵馬を子どもたちの代わりに熊野本宮大社へ奉納しました。

神殿にて御祈祷の儀があり、早稲田理事長が玉串を奉奠し参加者一同心よりお祈りさせていただきました。その後、九鬼宮司より絵馬奉納事業についてありがたいお言葉をいただき、改めて8年続いた巨大絵馬事業の重さを再確認しました。そして、絵馬設置場所へ移動し、子どもたちの描いた願い事の前で記念撮影を行いました。本事業を通じて、未来を担う子どもたちの祈願成就の一助となったことと確信します。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 九鬼宮司より、本宮大社に参拝の方も巨大絵馬に願い事を書いているということをお聞きしました。事業ですべて書きつくすのではなく、参拝者用に少しスペースを空けておく配慮が必要かと思います。
2. 巨大絵馬の右下に公益社団法人 白浜・田辺青年会議所と名前を入れていましたが、まちづくり事業当日に子どもたちが名前の上に願い事を書いてしまいました。絵馬の絵の部分同様、紙を貼るなどして対応する必要がありました。
3. 今回の絵馬では、スタッフ不足により、一度子どもたちが書いた願い事の上から新たに他の子どもが願い事を書いており、落書きのような形になっていました。対策として、子どもたちの人数制限や時間制限を設けるなどして書いてもらえるようにすれば今回のような問題にはならなかったと思います。小さな子どもには親同伴で書いてもらうなどの対策も必要と感じました。

■ 例会事業

- ・事業名 「4月例会事業」
- ・タイトル 「紀南Future Kids Project 2014
～未来を担う子どもたちのために～」事業説明会
- ・実施日時 2014年4月17日（木） 19時55分～21時15分
- ・実施場所 田辺商工会議所3階 大会議室
- ・司会 山崎 匡紘 君
- ・事業参加者 正会員59名、仮会員2名 出席率80.8%

- ・結果報告 本例会事業では、「紀南Future Kids Project 2014～未来を担う子どもたちのために～」を田辺東ロータリークラブ様との共同主催で実施するにあたり、メンバー一人ひとりが事業内容を十分理解し、その目的を共有したうえで全員が一丸となって事業に取り組むための事業説明会を行いました。

最初に田辺東ロータリークラブ様をお招きし、会長並びに40周年事業委員長よりご挨拶をいただきました。そこで事業に対する熱い想いをLOMメンバーに伝えていただいたことで、共同事業の実施に対する皆の意識が高まったと感じました。そして高い目的意識を持った状態で、全体説明と各担当に分かれLOMメンバーの役割分担や事前準備について確認を行うことが出来ました。

今回の例会事業により、この地域の活性化のために地域にあるさまざまな職業の魅力を自らの身体で体験することで、未来を担う子どもたちの豊かな心と夢や希望を育むことを目的としたまちづくり事業の内容を理解してもらい、全員で取り組む意識を高めることができたと確信いたします。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 事業全体説明を一人だけで説明するのではなく、パートごとに分担し説明者を交代しながら説明することにより、もう少しめりはりのある説明会にするべきでした。
2. 委員長が前で説明している時に、照明の点灯、消灯のミスが生じました。委員長が説明している間に委員長の代わりに事業を統括する役割の人を決めて配置しておくべきでした。
3. 消費税の増税に伴い、A4コピー用紙の価格変更があり予算の差異が発生しました。消費税の増税は予想できたので、来年度の消費税増税時にも注意しておく必要があったと感じました。
4. 例会開催までに事前に事業説明会を各ブース単位で行っていたことにより、例会時の各ブースでの説明会をよりスムーズに行うことができ、多くの意見が出て内容を見直すことが出来ました。

5. 事前に配信した4月例会の案内メールや、まちづくり事業との相乗効果もあり高い出席率となりました。委員会の想いが伝わり、またメンバーのまちづくり事業に対する責任感の表れであると感じました。

■ 例会事業

- ・事業名 「8月例会事業」
- ・タイトル 絆スパイス注入！～みんなで作ろう！つれもて食べよう！「結」カレー～
- ・実施日時 2014年8月21日（木） 19時44分～21時54分
- ・実施場所 みなべ町生涯学習センター 2F 調理実習室
住 所：みなべ町谷口301-4
TEL：0739-74-2191
- ・司会 中 裕文 君
- ・事業参加者 正会員52名、仮会員1名 出席率72.2%

- ・結果報告 本例会事業では、これまでに築いてきたメンバー間の絆の「わ」をより強固なものにするために、JC歴の違いや委員会の枠を越えたグループを作り、お互いに力を合わせてカレー作りを行いました。

普段あまり作る事のない特殊な種類のカレーをレシピ無しで作るという条件のもと、各グループ内で話し合い協力し試行錯誤しながら作ったカレーは、どれもグループの個性が輝いたものでありました。また、和やかな雰囲気の中でコミュニケーションを図りながらカレーを作っていたことで、メンバー間の新たな親睦が深まったと同時にお互いの協力意識が高まり、今後の委員会や例会、各種事業への参加意識の向上につながる一助となったものと確信いたします。

- ・今後、事業を継続していく上での改善点等

1. 例会会場の場所が分かりづらいためPRメールで地図の配信をしましたが、もっと早い段階から場所の告知をするべきでした。
2. 調理時間を1時間15分とっていましたが、予定より早く調理が終わったため時間が余ってしまいました。料理の手際が良い人も中にはいる事を想定し、調理時間をもう少し短く設定するべきでした。
3. 今回、メンバーでカレー作りに取り組みながら委員会の垣根を越えた新たな交流を図ることができました。今後も、新たな交流を生み出す事業を行う際には、こういった一つの課題にメンバーが試行錯誤しながら取り組む手法を用いた事業を構築することにより、新たなコミュニケーションが生まれ、組織の活性化にもつながると感じました。

2014年度 委員会事業費決算書

まちづくり委員会

(単位：円)

摘 要	予算額 (円)	決算額 (円)	明 細
まちづくり事業	4,915,000	4,645,596	
まちづくり委員会事業	65,000	62,400	
4月例会事業	17,500	16,692	
8月例会事業	29,000	27,124	
合 計	5,026,500	4,751,812	

予算額合計 5,026,500円

決算額合計 4,751,812円

2014年度 出向者事業報告書

2014年度 (公社) 白浜・田辺青年会議所 地区大会実行委員会

委員長	山本 悌士
副委員長	池田 朗
	稲田 正一
	富士 利郎
委員数	28名
予算額	0 円
決算額	0 円

■地区大会実行委員会報告

人と地域が共鳴する近畿の実現 ～笑顔と活気が満ちあふれる未来へ～をテーマに、みんなでいこら！つれもて結ぼう！絆の「わ」をスローガンに掲げ、「白浜田辺の魅力を最大限に生かし、全ての参加者が白浜田辺地域によって形成されてきた癒しとおもてなしの心や、豊かな自然と歴史を肌で感じて頂くことで愛郷心を育み、活気があふれる近畿を創造します。そして、白浜田辺の地から全ての人に笑顔と活気に満ちあふれる未来を創造します。地区内から集う志高き、意気あふれる青年会議所メンバーが大会を通じ、「和」をもって互いに協力し、つながりの「輪」を拡げ、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させ、皆とつれもて絆の「わ」を結ぶことで、人と地域が共鳴する近畿を実現します。」という大会理念のもと、近畿地区内94LOMのメンバーが一堂に会する近畿地区大会を主管しました。

予定者の段階から、この近畿地区大会実行委員会メンバーを中心に、LOMメンバーが近畿各地でのPR活動を行ってきましたが、このPR活動を通じて、近畿地区大会白浜田辺大会に対する意気込みや想いを、近畿中の青年会議所メンバーに伝えることで、大会当日は、例年以上の登録者数になり、近畿各地から例年以上の青年会議所メンバーにご来場いただき、さらには、一般の来場者数も例年以上となり、人と地域が共鳴する大会につながりました。

最後になりましたが、本年が終わろうとしている今、互いに労をねぎらい、メンバー全員が揃って笑顔でこの時期を迎えられたことが大変嬉しく思います。池田副委員長、稲田副委員長、富士副委員長を筆頭にメンバーの皆様とはこの大会を通じて、かけがえのない友情を育むことができたと思っています。厳しいこともあったかと思いますが、最後の最後までご協力頂けたことで無事地区大会という大きな大会を終えられたことは私の青年会議所運動の思い出の1ページになりました。本当にありがとうございました。またこのような身に余る大役を仰せつかった事に感謝申しあげ、報告とさせていただきます。

■ 地区大会実行委員会 開催記録

		開催日	内容
(予定者)	第一回	2013年12月16日	決起集会
第一回		2014年 5月20日	近畿地区協議会 第5回正副会長会議 オブザーブ
第二回		2014年 5月21日	近畿地区協議会 第5回役員会議 オブザーブ
第三回		2014年 6月 9日	決起集会（地区大会運営委員会と合同）
第四回		2014年 6月24日	近畿地区大会 白浜田辺大会 事業説明会
第五回		2014年 7月 1日	近畿地区大会 白浜田辺大会 事業説明会

■ 近畿地区大会 PR活動記録

2013年	12月21日	近畿地区協議会 第3回会員会議所会議	京都市
2014年	1月25日	京都会議	京都市
	1月31日	大阪ブロック出陣式	大阪市
	3月23日	和歌山ブロック会員会議所会議	高野口町
	4月21日	大阪JC4月例会	大阪市
	5月25日	京都ブロック大会	綾部市
	6月 2日	大阪泉州ブロック会員会議所会議	泉佐野市
	6月14日	大阪北河内ブロック会員会議所会議	大阪市
	6月15日	奈良ブロック大会	天理市
	6月20日	宇治JC激励会	田辺市
	6月22日	白浜田辺地域でのPR活動	田辺市
	6月29日	白浜田辺地域でのPR活動	田辺市

2014年度 出向者事業報告書

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会

副会長 原田 覚

■ 事業報告

公益社団法人日本青年会議所近畿地区協議会の会務担当副会長として出向をさせていただき、近畿各地域から集う仲間と出会い共に運動発信を行ない、友情を深めることができ大変貴重な一年間となりました。最終年度にこのような体験をさせていただけたことは、早稲田理事長はじめ当LOMメンバーの皆様に関心から感謝申し上げます。

近畿地区協議会では、前田委員長率いる意気あふれる人財育成委員会を担当し「第4回近畿地区版人間力大賞」事業を行ないました。各地域で様々な活動をされている方々94名にエントリーをいただきました。自らの意志で地域活性化の取り組みや、確固たる使命感を持って取り組んでいるエントリー者すべての運動を冊子にまとめ、近畿地区各LOMとすべてのエントリー者にお配りすると共に近畿地区協議会HPにもアップすることで広く発信することができ、人と地域が共鳴する近畿の創造を実現に向けて運動発信することができました。また、全国大会松山大会では、近畿6地域の魅力を集めた「きんき飯」を提供しました。600食を完売することができ、近畿の魅力を全国の青年会議所メンバーに伝えることができました。LOM内だけでは得ることのできない素晴らしい体験をさせていただきました。

本年当LOMは近畿地区大会白浜田辺大会の主管LOMであり、私は近畿地区協議会の役員として出向しましたが、主管LOMの一人として近畿地区協議会の地区大会運営委員会の増尾会務担当副会長や水野委員長と当LOMの山本悌士実行委員長との連携に協力することができ、スムーズな運営に繋がると共にLOMメンバーに地区大会の重要性を伝えることができました。昨年も近畿地区協議会に出向をさせていただき、この2年間で得た学びを今後のLOMの発展のためにも、近畿地区出向を続けて輩出するように努めていきたいと思います。

結びに、ご理解をいただき近畿地区協議会にご協力いただきました多くの出向メンバーの皆様、そして早稲田理事長はじめ全てのメンバーの皆様に関心から御礼を申し上げ出向報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

■諸会議開催記録

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会 会議

会議名	開催日	場所
第1回正副会務予定者会議	9月 6日	滋賀県草津市
第1回正副会長予定者会議	9月26日	東大阪市
第1回役員予定者会議	9月26日	東大阪市
第2回正副会務予定者会議	10月 8日	滋賀県草津市
第2回正副会長予定者会議	10月17日	滋賀県草津市
第2回役員予定者会議	10月28日	滋賀県草津市
第3回正副会務予定者会議	10月31日	東大阪市
第3回正副会長予定者会議	11月13日	滋賀県草津市
第3回役員予定者会議	11月26日	滋賀県草津市
第4回正副会務予定者会議	12月 5日	滋賀県草津市
第4回正副会長予定者会議	12月17日	滋賀県草津市
第4回役員予定者会議	12月18日	滋賀県草津市
第1回正副会務会議	1月 7日	京都府宇治市
第1回正副会長会議	1月14日	奈良市
第1回役員会議	1月28日	奈良県橿原市
第2回正副会務会議	2月 4日	東大阪市
第2回正副会長会議	2月14日	大阪府泉佐野市
第2回役員会議	2月27日	滋賀県近江八幡市
第3回正副会務会議	3月 4日	大阪府枚方市
第1回臨時正副会長会議	3月10日	兵庫県伊丹市
第1回臨時役員会	3月10日	兵庫県伊丹市
第3回正副会長会議	3月10日	兵庫県伊丹市
第3回役員会議	3月27日	京都府亀岡市
第4回正副会長会議	4月 4日	大阪市
第4回正副会長会議	4月10日	大阪市
第4回役員会議	4月23日	神戸市
第5回正副会務会議	5月 1日	滋賀県草津市
第5回正副会長会議	5月20日	和歌山県白浜町
第5回役員会議	5月21日	和歌山県白浜町
第6回正副会務会議	6月 2日	東大阪市
第6回正副会長会議	6月11日	兵庫県西宮市
第6回役員会議	6月23日	京都府久御山町
第7回正副会務会議	7月 1日	東大阪市
第2回臨時正副会長会議	7月 5日	和歌山県田辺市
第2回臨時役員会議	7月 5日	和歌山県田辺市

第7回正副会長会議	7月15日	滋賀県高島市
第7回役員会議	7月31日	大阪府池田市
第8回正副会務会議	8月 7日	大阪市
第8回正副会長会議	8月27日	和歌山市
第8回役員会議	8月27日	和歌山市
第9回正副会務会議	9月 5日	滋賀県草津市
第9回正副会長会議	9月12日	京都市
第9回役員会議	9月30日	大阪府箕面市
第10回正副会務会議	10月 6日	大阪市
第10回正副会長会議	10月15日	京都府宮津市
第3回臨時役員会議	10月15日	京都府宮津市
第10回役員会議	10月27日	奈良県天理市
第11回正副会長会議	10月31日	滋賀県草津市
第11回正副会長会議	11月 7日	滋賀県彦根市
第11回役員会議	11月18日	兵庫県豊岡市
第12回正副会務会議	12月 3日	東大阪市
第12回正副会長会議	12月22日	滋賀県草津市
第12回役員会議	12月23日	滋賀県草津市

その他諸会議・事業

会議名	開催日	場所
公益社団法人日本青年会議所 2014年度近畿地区協議会 地区事業説明会	10月18日	大阪国際会議場 グランキューブ大阪
近畿地区協議会歴代会長会議	11月28日	京都市
公益社団法人日本青年会議所 2014年度京都会議	1月23日～26日	京都市 国立京都国際会館
第1回会員会議所会議	1月25日	国立京都国際会館
近畿地区協議会役員 橿原神宮公式参拝	1月28日	奈良県橿原市
公益社団法人日本青年会議所 復興創造フォーラム2014	3月 7日～9日	福島県いわき市
近畿地区協議会GTS事業 事前説明会	5月13日	神戸市
京都ブロック協議会 第42回京都ブロック大会	5月25日	綾部市

近畿地区協議会GTS事業 (グローバルトレーニング スクール)	5月28日～6月1日	ミャンマー
JCI ASPAC山形大会 ブース出展	6月 4日～8日 6月 6日	山形県山形市
奈良ブロック協議会 第42回奈良ブロック大会	6月15日	天理市
2014年度近畿地区大会 白浜田辺大会	7月5日～6日	田辺市、白浜町
第2回会員会議所会議	7月5日	田辺市 紀南文化会館
公益社団法人日本青年会議所 サマーコンファレンス 20 14	7月16日～20日	横浜市
大阪ブロック協議会 大阪ブロック大会	9月 6日	羽曳野市
滋賀ブロック協議会 第44回滋賀ブロック大会	9月 6日	守山市
兵庫ブロック協議会 第47回兵庫ブロック大会	9月14日	宝塚市
公益社団法人日本青年会議所 第63回全国大会松山大会 ブース出展	10月 9日～12日 10月11日	愛媛県松山市
近畿地区協議会歴代会長会議	11月11日	京都市
JCI世界会議 ライブチヒ 大会	11月24日～30日	ドイツ ライブチヒ
第3回会員会議所会議	12月23日	滋賀県草津市

2014年度 出向者事業報告書		
(公社) 日本青年会議所 近畿地区協議会 意気あふれる人財育成委員会		
副会長	原田 覚	
副委員長	浜本 龍太	
委員	中田 健	
委員	山崎 匡紘	

■ 事業報告

当委員会は、近畿地区版人間力大賞に関する事業をメインに、全国大会松山大会にもブースを出し、近畿の魅力伝えることを主においた活動を行いました。

近畿地区版人間力大賞では、近畿94LOMを中心とした広報を行いつつ、さらに今年は、新たに各地の社会福祉協議会の協力を得ることで、人財の発掘の裾野を広げようと挑戦してきました。その結果、近畿各地の皆さんのおかげをもち、一般エントリー者4名を含む計91名（団体）のご応募をいただき、予備選考、第一次選考を経て、7月5日に白浜田辺の地である紀南文化会館大ホールにて、最終選考会を行うことができました。京都から3名、和歌山から3名と偏りのあったファイナリストが選ばれた時は、本当に驚きました。しかし、これも該当地域の皆様の高い想いがあったからこそだと思います。残念ながら当日には、1名のやむを得ない欠席がありましたが、6名の素晴らしいプレゼンテーションを演出することができました。そして、紀南の誇る審査員5名と地区長を含む計6名による厳正な審査の元、引き続いての受賞式典においては、グランプリには、京都府亀岡市のNPO法人亀岡ネットワークの田中美賀子さんが選ばれました。また準グランプリには、京都府綾部市の子宝ネット代表の井上吉夫さんが、会長賞には、和歌山県印南町の中田稔さんが選ばれました。近畿各地で各々素晴らしい活動をされている方の中で賞を決めることはとても難しく緊張感のあることだと実感しました。

そして、新たな人と人との繋がりを構築する機会とするために、今年は新たに近畿地区版人間力大賞活動内容集約冊子を作成しました。冊子という形に残すことで、多くの方の手に取っていただく機会を創出することができ、近畿にあふれる人財を知ってもらい良い材料になったと感じました。しかし、文字数が多くなって見難いという意見もあり、次年度への課題も見つけることができました。しかしながら、この地域の人と人を結ぶという点においては可能性が充分感じ取れる手法であったと感じました。

また、会員拡大支援も担当し、2回にわたる会員拡大セミナーを近畿地区拡大担当者に向けて発信することができました。

そして、全国大会松山大会のブース担当では、近畿地区の魅力ある食材を使用し、全国各地のLOMメンバーに近畿の良さを知ってもらうために、きんきめし(600食)をふるまいました。近畿2府4県にある素晴らしいご当地食材を一つのどんぶりにすることが非常に難しい作業でしたが、皆さんのおかげで素晴らしい出来に仕上がりと、多くのメンバーに満足していただいたと感じています。

最後に、当委員会は、地区出向が初めてというメンバーが多い中、地区のイロハを色々と教えていただいた前田委員長をはじめ、小西副委員長、奥副委員長には、多大なご協力をしていただき、私自身の初めての地区出向も無事終えることができました。本当に感謝しております。また、当LOMから出向していただいた原田副会長をはじめ山崎君、中田健君には、地区大会当日はもちろんのこと沢山の協力に対し、本当に心強く感じ、文面では表せない感謝の一言に尽きます。皆様本当にありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第1回	2014年 1月31日	小委員会組織図に関する件、小委員会職務分掌に関する件	大阪府大阪市北区 堂島ビル6研修室
第2回	2014年 2月25日	近畿地区版人間力大賞について、エントリーについて、PR計画について	大阪府大阪市中央区 区オフィスポート 内本町3F会議室
第3回	2014年 3月19日	近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典について、会員拡大支援会議について	大阪府大阪市中央区 区大阪会館G会場
第4回	2014年 4月11日	近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典について、会員拡大支援会議について、PR計画について	京都府京都市南区 京都JA会館5F
第5回	2014年 5月7日	近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典について、近畿地区版人間力大賞活動内容集約冊子作成及び配布計画について、会員拡大支援会議について	京都府京田辺市商 工会館3F
第6回	2014年 6月13日	近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典について、近畿地区版人間力大賞活動内容集約冊子作成及び配布計画について、会員拡大支援会議について	兵庫県西宮市西宮 市民交流センター
第7回	2014年 7月2日	近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典について	京都府宇治市産業 会館大会議室
第8回	2014年 8月22日	全国大会松山大会ブース出展について、近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典決算報告について、近畿地区版人間力大賞活動内容集約冊子配布について	京都府長岡京市中 央学習センター

■ 委員会事業

- ・事業名 近畿地区版人間力大賞最終選考及び授賞式典
- ・タイトル 第四回近畿地区版人間力大賞最終選考会及び授賞式典
- ・実施日時 平成26年 7月5日（土）
- ・実施場所 紀南文化会館 大ホール
- ・事業参加者 一般市民、近畿地区内94LOMメンバー
- ・参加人数 約450名
- ・事業目的 人と地域が共鳴する近畿の実現のためには、地域を愛して自ら積極的に活動されている意気あふれる人財と我々が想いを共有し、力を合わせて活気に満ちあふれた地域を創造していくことが必要不可欠です。そして、その活動を地域に伝播させることで多くの人々から共感を得て、新たな人と人との繋がりを構築し、地

域の活性化を図っていかなければなりません。そのためにはまずは近畿各地で活動されている意気あふれる人財の発掘が必要です。

近畿各地で自らが積極的に行動し、地域の活性化に貢献されている意気あふれる人財を発掘することを目的とする。地域の意気あふれる人財を発掘することで新たな人と人との繋がりを構築し、今後の活動の可能性へと繋げることを目的とする。

- ・事業名 近畿地区版人間力大賞活動内容集約冊子作成及び配布計画
- ・タイトル 近畿地区版人間力大賞活動内容集約冊子作成及び配布計画
- ・実施日時 平成26年 7月5日（土）
- ・実施場所 近畿地区内94会員会議所事務局、91エントリー者所属団体、一般推薦者3名
- ・配布数 188冊
- ・事業目的 近畿各地の発掘した意気あふれる人財の活動をエントリー者や地域の人々に発信することで、新たな人と人との繋がりを構築する機会とすることを目的とする。

- ・事業名 全国大会松山大会ブース出展
- ・タイトル 全国大会松山大会ブース出展
- ・実施日時 平成26年 10月11日（土）
- ・実施場所 愛媛県松山市堀之内松山市城山公園 ふれあい広場
- ・事業参加者 一般市民、全国LOMメンバー
- ・参加人数 約6800名（内600食）
- ・事業目的 全国の会員会議所メンバーが一堂に会する全国大会の大懇親会では、全国各地の魅力が集結します。その大懇親会において、近畿各地にある魅力を発信することを通して、全国のメンバーと交流を図る機会とすべく本事業を企画しました。全国大会松山大会において近畿の魅力を全国に発信すると共に全国のメンバーと交流を図ることを目的とする。

2014年度 出向者事業報告書

(公社)日本青年会議所 近畿地区協議会 持続可能な近畿確立委員会

副会長 伊藤 文吾
委員長 青木 一郎
委員 中田 大介
委員 松田 悠
委員 萩本 亜衣美

■ 事業報告

持続可能な近畿確立委員会では、アジア太平洋地域の仲間との繋がりを深めるため、近畿の魅力を食文化を通じて発信する場が必要であると考えASPAC山形大会においてジャパンナイトブースを出展しました。ブース内に各府県の名産である大阪のビリケン像、奈良県の金魚、兵庫県のお豆を展示し、京都府の宇治茶と和歌山県の梅干を振る舞い、滋賀県の忍者の衣装で接客をしました。また

アジアの人々は和菓子、特に三笠の認知度が高くその三笠を近畿2府4県の見せる要素を含めて近畿三笠と名付け、その場で焼き上げ、出来立ての感動を与えることにより世界に近畿の魅力を発信できました。

持続可能な社会の実現へ～近畿エネルギー情報ネット ten!!～では、エネルギーについての未来を考えビジョンを描き、地域を自立的に活性化させるためにはそれぞれの地域に根差した、地産池消エネルギーの重要性について考える場が必要と考え、パネリストに岸 博幸氏、石田 靖氏、山本 吉大氏、コーディネーターに清水 健氏を招き本事業の実地に至りました。講師先生のユーモアのある話でエネルギーについての敷居を下げてもらい、かつ、きっちりとした情報を得られるような内容の講話をいただけたのでご参加いただいた方々により身近でそして普段の生活にも反映できる内容のフォーラムにすることができました。参加いただいた人々のアンケート結果では75パーセントの人がエネルギーに対しての考え方が変わった、83パーセントの人には今後持続可能な社会へ向けて自ら行動しようと思ったとの回答をいただくことができ、エネルギーに対して今まで以上に関心を持ち、自らができる行動を起こすことで、持続可能な社会の実現へつながると考えます。

最後になりますが、本年出向させていただいたことにより、県外LOMメンバーとの貴重な交流及び貴重な経験をさせていただきました。これらの経験を忘れることなく、公益社団法人白浜・田辺青年会議所のメンバーとして、今後のLOM活動に積極的に参加いたします。多大なるご協力に際しまして御礼を申し上げ、出向報告とさせていただきます。ありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	場所
第1回委員会	1月13日(月)	天平庵三輪本店2F会議室(奈良)
第2回委員会	1月24日(金)	ベーコンラボ京都駅4F(京都)
第3回委員会	2月21日(金)	伊丹商工プラザ3F会議室(兵庫)
第4回委員会	3月17日(月)	堺高石JC会館(大阪)
第5回委員会	4月12日(土)	青木松風庵会議室(大阪)
第6回委員会	5月6日(火)	株式会社洗陽電気(兵庫)
第7回委員会	5月20日(火)	エクシブ白浜アネックス(和歌山)
第8回委員会	6月21日(土)	和歌山県民文化会館408会議室(和歌山)
第9回委員会	7月3日(木)	エクシブ白浜アネックス(和歌山)
第10回委員会	7月23日(水)	天平庵三輪本店2F会議室(奈良)
第11回委員会	8月25日(月)	伊丹商工プラザ2F会議室(兵庫)
第12回委員会	9月12日(金)	ベーコンラボ京都駅4F(京都)

■ 委員会事業

・事業名 第64回JCI ASPAC山形大会ジャパンナイトブース出展

・実施日時 平成26年6月6日(金)

・実施場所 山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング 1階展示棟

・事業参加者 近畿地区協議会出向者含む全国内のJCメンバー並びにシニアメンバー

・参加人数 持続可能な近畿確立委員会メンバー12名

・事業目的 近畿の魅力を食文化を通じて発信し交流することにより絆を深め、近畿の魅力を広く外へ発信することを目的とします。近畿の魅力を食文化を通じて発信し交流することにより絆を深め、近畿の魅力を参加メンバーに体験していただくことを目的とします。

■ 委員会事業

・事業名 持続可能な社会の実現へ～近畿エネルギー情報ネット ten!!～

・実施日時 平成26年7月6日(日)

・実施場所 白浜町立白浜会館

・事業参加者 一般市民、近畿地区内94LOMメンバー及び近畿地区協議会歴代役員、公益社団法人日本青年会議所役員、社団法人白浜・田辺青年会議所特別会員

・参加人数 メンバー762名、一般参加者53名 合計815名

・事業目的 近畿地区内各地域の人々に対してパネリストの視点からエネルギーの現状と今後の展開を伝える事により、エネルギーに対して今まで以上に関心を持ち、自らができる行動を起こすことで、持続可能な社会の実現を目指すことを目的とします。エネルギーの現状と今後の展開について深く理解し、次世代へ地域資本を残していくために、自らが各地で率先して行動を起こすことで、持続可能な社旗の実現を目指すきっかけを創りだすことを目的とします。

2014年度 出向者事業報告書

(公社) 日本青年会議所 近畿地区協議会
地区大会運営委員会

委員 池田 朗
委員 浜口喬太郎

■ 事業報告

地区大会運営委員会では、「人と地域が共鳴する近畿の実現」に向けて、近畿地区内全ての青年会議所メンバーが「和」をもって互いに協力し、つながりの「輪」を拡げ、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させることが必要であるとともに、日々青年会議所活動にご協力いただいている地域の方々と、より一層強固な結びつきが必要であると考え、近畿地区大会白浜田辺大会を開催いたしました。また、本年は例年の地区大会とは違い2日間での開催となりました。

1日目においては、会員会議所を皮切りに、紀南文化会館を中心とした各種フォーラム等を順次開催し、その後、近畿フェスタ「たからいち」を開催しました。2日目においては、場所を白浜町に移しての大会式典、メインフォーラム、そしてグランドフィナーレを開催しました。

近畿フェスタ「たからいち」については、各種フォーラムが行われている紀南文化会館の目の前の田辺市扇ヶ浜交流広場を使用し、目の前に田辺湾が広がる南国白浜・田辺を象徴する絶好のロケーションの中開催しました。近畿各地より食を中心としたブースを数多く出展していただいたおかげもあって、一般の方にも多数ご来場いただき、会場内は熱気で溢れる様子となりました。そんな中、ハマカーン、やまもとまさみ、アンバランスの3組のお笑い芸人の方々にライブを行っていただいたことで、「たからいち」会場内を笑顔と活気に満ち溢れる雰囲気となりました。その後、アーティストDAPUMPによる特別ライブを開催し、会場内が一体となることができました。また、メインステージ以外でも、絆の「わ」キャンドルイルミネーションと題して、灯籠を1,000個並べ、ご来場していただいた方に火を灯していただき、城所ケイジさんによるチェンソーアートを披露していただくコーナー等を設け、多くの来場者に地域の魅力を感じていただき、改めて、自らの地域に誇りを持っていただくことができました。

大会式典については、2014年度の近畿地区協議会の運動や活動を西村会長挨拶から発信し、理解していただき、「人と地域が共鳴する近畿の実現」に向け、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させることができました。また、行政や市民の代表としての来賓の方々に対しても、2014年度の近畿地区協議会の運動や活動、方向性を理解してもらうことで、青年会議所との結びつきをより強固にし、さらなる協力体制を築くことができました。今回の大会式典では、世界遺産である「小雲取越（百間ぐら）」のパノラマ写真をステージバックに配置し、その雄大な自然と歴史を表すとともに、式典開始前には弁慶伝説保存会の皆様に白浜・田辺の地に伝わる熊野水軍出陣伝説の演劇を行っていただき、人と人との繋がりや友情を表すことで、より一層、白浜・田辺の魅力を伝えることができました。また、プラム食品株式会社様よりご提供頂いた梅ジュースを、ご来場いただいた来賓の方々やメンバーの皆様へ、ウエルカムドリンクとしてふるま

うことで、ご来場していただいた感謝の気持ちを伝えることができました。

本年は、近畿地区大会を主管するLOMとして、地区大会の運営に携わる委員会に出向させていただきましたが、やはり主管地域でしか解決できない問題等もあり、地区大会を成功させるためには、主管LOMからも該当委員会へ出向しておくことが必要不可欠だと感じました。出向させていただいた2名のメンバーがLOMと近畿地区協議会との橋渡し、潤滑油となって今回の近畿地区大会白浜田辺大会を間近で経験させていただいたことは、今後のJC活動・運動にも大きな意味を持つてくると考えます。

最後になりますが、貴重な経験をさせて頂いた公益社団法人白浜・田辺青年会議所全てのメンバーに感謝の気持ちと多大なるご協力に際して御礼を申し上げ、出向報告とさせていただきます。ありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第一回	平成 26 年 1 月 24 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会全体タイムスケジュール実施計画（案）について	京都市
第二回	平成 26 年 2 月 25 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会 「大会式典」開催計画並びに予算（案）について	和歌山市
第三回	平成 26 年 3 月 24 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会 「たからいち」開催計画並びに予算（案）について	奈良市
第四回	平成 26 年 4 月 24 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会 「たからいち」開催計画並びに予算（案）について	茨木市
第五回	平成 26 年 5 月 8 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会 「たからいち」開催計画並びに予算（案）について	草津市
第六回	平成 26 年 6 月 9 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会 「たからいち」開催計画並びに予算（案）について	岸和田市
第七回	平成 26 年 7 月 4 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会 「たからいち」開催計画並びに予算（案）について	白浜町
第八回	平成 26 年 8 月 4 日	・近畿地区大会 白浜田辺大会全体タイムスケジュール実施報告並びに決算（案）について	大阪市
第九回	平成 26 年 9 月 28 日	・近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」実施計画並びに補正予算（案）承認の件 ・近畿地区大会 白浜田辺大会 「大会式典」実施報告並びに決算（案）について ・近畿地区大会 白浜田辺大会 「たからいち」実施報告並びに決算（案）について	和歌山市
第十回	平成 26 年 11 月 23 日	次世代の地区大会について	和歌山市
第十一回	平成 26 年 12 月 23 日	次世代の地区大会について	草津市

■ 委員会事業

- ・事業名 2014年度近畿地区大会白浜田辺大会
 - ・近畿地区大会白浜田辺大会「大会式典」
 - ・近畿地区大会白浜田辺大会 近畿フェスタ「たからいち」
- ・タイトル 「人と地域が共鳴する近畿の実現 ～笑顔と活気が満ちあふれる未来へ～」
みんなでいこら！つれもて結ぼう！絆の「わ」

- ・実施日時 平成26年7月5日（土）、6日（日）
- ・実施場所 「大会式典」 白浜町立白浜会館
「近畿フェスタ」 田辺市扇ヶ浜交流広場
- ・事業参加者 一般市民、近畿地区内94LOMメンバー及び近畿地区協議会歴代役員、公益社団法人日本青年会議所役員、社団法人白浜・田辺青年会議所特別会員
- ・参加人数 「大会式典」メンバー802名、来賓76名 合計886名
「近畿フェスタ」メンバー4,846名、一般1,575名 合計6,421名
- ・事業目的 「大会式典」

「人と地域が共鳴する近畿の実現」に向けて、近畿地区内全ての青年会議所メンバーが「和」をもって互いに協力し、つながりの「輪」を拡げ、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させることが必要です。また、日々青年会議所活動にご協力いただいている地域の方々と、より一層強固な結びつきが必要であると考え、本事業の実施に至りました。

青年会議所の活動に対して、ご協力いただいている行政や各種団体の方々を来賓として招待し、我々の運動に対する理解を深めていただき、より一層青年会議所との結びつきを強固にし、さらなる協力体制を築くことを目的とします。

人と地域が共鳴する近畿の実現に向けて、白浜田辺のもつ地域の魅力を最大限に活かしながら、近畿地区協議会の運動を全メンバーで共有し、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させることを目的とします。

「近畿フェスタ」

「人と地域が共鳴する近畿の実現」に向けて、近畿地区内全ての青年会議所メンバーが「和」をもって互いに協力し、つながりの「輪」を拡げ、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させることが必要です。また、日々青年会議所活動にご協力いただいている地域の方々と、より一層強固な結びつきが必要であると考え、本事業の実施に至りました。

青年会議所の活動に対して、ご協力いただいている行政や各種団体の方々を来賓として招待し、我々の運動に対する理解を深めていただき、より一層青年会議所との結びつきを強固にし、さらなる協力体制を築くことを目的とします。

人と地域が共鳴する近畿の実現に向けて、白浜田辺のもつ地域の魅力を最大限に活かしながら、近畿地区協議会の運動を全メンバーで共有し、未来に向かって羽ばたく力を近畿全域に伝播させることを目的とします。

2014年度 出向者事業報告書

公益社団法人 日本青年会議所
近畿地区 和歌山ブロック協議会 総務褒賞委員会

委員 廣本 行宣

■ 事業報告

本年度、総務褒賞委員会では、会頭と県内各LOMの理事長が議論し、相互の理解をより深めるために懇談会の場を設営することからはじまり、和歌山ブロック協議会の方針や運動を各LOMのメンバーに幅広く伝えるための基本資料を作成し配布、各LOMの褒賞取りまとめ、全国大会ブース出店などを行い、和歌山ブロックの運営をサポートしてきました。

全国大会のブース出店では出品した「紀州梅バーガー」がグランプリを獲得し、和歌山の名産品である梅を使用したご当地グルメとして全国に宣伝する絶好の機会となりました。

今回の出向で基本資料の作成や褒賞審査の事業に携われた事により、和歌山ブロックの運営や総務としての仕事の重要性が理解できた事やLOMの垣根を越えて各LOMの出向者と共に、会場の設営やブース出店を行うことでお互いの連帯意識が構築され多くのメンバーと知り合える機会をいただいた事に感謝いたします。ありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第1回	2014年 1月6日	会頭訪問開催計画について	海南青年会議所事務局
第2回	2014年 2月5日	会頭訪問開催計画について	有田青年会議所事務局
第3回	2014年 3月5日	褒賞事業開催計画について	那賀青年会議所事務局
第4回	2014年 4月2日	褒賞事業開催計画について	有田青年会議所事務局
第5回	2014年 5月7日	褒賞事業開催計画について	和歌山青年会議所事務局
第6回	2014年 7月8日	全国大会ブース出展について	(株)世界一統
第7回	2014年 8月6日	全国大会ブース出展について	(株)世界一統
第8回	2014年 9月8日	全国大会ブース出展について	那賀青年会議所事務局
第9回	2014年 10月7日	全国大会ブース出展について	和歌山青年会議所事務局

■ 委員会事業

- ・事業名 会頭訪問開催計画
- ・タイトル 会頭訪問開催計画
- ・実施日時 平成26年2月12日（水）
- ・実施場所 ホテルアバローム紀の国
- ・事業参加者 各青年会議所メンバー
- ・参加人数 121名
- ・事業目的 名刺交換会にて青年会議所メンバーが会頭と直接接することで、日本青年会議所の運動や方針を深く理解し、より良い青年会議所運動を行うことを目的とします。

- ・事業名 褒賞事業開催計画
- ・タイトル 褒賞事業開催計画
- ・実施日時 審査 平成26年4月6日（日）
発表 平成26年5月12日（日）
- ・実施場所 審査 有田青年会議所事務局
発表 かつらぎ町総合文化会館（ブロック大会）
- ・事業参加者 各青年会議所メンバー審査員 一般審査員
- ・参加人数 32名
- ・事業目的 和歌山県内8LOMの素晴らしい事業を称え表彰することで、メンバー同士が意識や情報を共有でき、今後の各LOMの青年会議所運動の発展へとつなげることを目的といたします。また、一般の方々にも褒賞審査に協力していただくことで、各LOMの青年会議所運動、地域の魅力を認知し理解していただくことを目的とします。

- ・事業名 第63回全国大会松山大会地域活性化からいちブロックブース出展計画
- ・タイトル 第63回全国大会松山大会地域活性化からいちブロックブース出展計画
- ・実施日時 平成26年10月12日（日）
- ・実施場所 城山公園ふれあい広場
- ・事業参加者 青年会議所メンバー
- ・事業目的 和歌山の名産である梅を、日常でもよく食すことのあるバーガーとコラボすることでより身近なものに感じ、全国の方に知っていただけたら、という想いから「紀州梅バーガー」を選定いたしました。従来のバーガー以上に、より健康志向に作りそれを本来の大きさの半分にし、1個300円で販売することでより手軽に食べていただくことで、和歌山の名産を知っていただくことを目的とします。

2014年度 出向者事業報告書

(公社) 日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会
会員交流委員会

副会長 谷地 秀和
委員 重石 和宏
委員 佐藤 生空
委員 芝田 利文

■ 事業報告

本年度、会員交流委員会を担当する副会長として、和歌山ブロック協議会のスローガンでもある「意気あふれる人財による紀州の創造」をもとに活動してまいりました。まずは和歌山ブロック協議会副会長として導いていただきました関係者の皆様ありがとうございます。また、副会長として至らぬ点多々あったとは思いますが、大城ブロック会長をはじめとする和歌山ブロック協議会全メンバーの皆様には多大なるご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

私たち会員交流委員会は、ブロック大会地域活性化たからいち、JC University 和歌山卒業式、各種事業ブロックナイトを担当させていただきました。ブロック大会地域活性化たからいちでは、全国各地域に散らばるそれぞれのたからをブロック大会開催地である伊都の地に結集し、来場者にその魅力に触れていただくことができました。多数の来場者に参加いただき効果的に魅力と絆を伝えることができ、地域活性化への関心と気概を高めることができました。JC University 和歌山は残念ながら中止になりましたが、各種事業ブロックナイトでは、各々が活動している情報を共有し、意見交換を活発に行い、各LOMの枠を越えたメンバー同士の友情や絆を育み、和歌山ブロック全体が大きな一つの「輪」になることができたと確信します。

最後に（公社）白浜田辺青年会議所の皆様にはお忙しい中、様々なブロック事業に参加していただき本当にありがとうございました。私自身も卒業最終年度に副会長として出向させていただき、共に出向してくれた佐藤君、芝田君をはじめ、各LOMから出向して来られた多くのすばらしいメンバーと出逢えたことは、今後自分の活動の幅を拡げるきっかけになったと感じています。次年度以降も当LOMから和歌山ブロック協議会へ大勢の方が出向し活躍されることを祈念いたしまして、2014年度の出向報告とさせていただきます。

1年間本当にありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第1回	2014年 2月3日	ブロック大会地域活性化たからいちについて	和歌山商工会議所
第2回	2014年 3月10日	ブロック大会地域活性化たからいちについて	岩出市商工会議所
第3回	2014年 3月25日	ブロック大会地域活性化たからいちについて	田辺商工会議所
第4回	2014年 4月2日	ブロック大会地域活性化たからいちについて	かつらぎ町あじさいホール
第5回	2014年 4月30日	ブロック大会地域活性化たからいちについて	岩出市（さかぐら）
第6回	2014年 5月7日	ブロック大会地域活性化たからいちについて	和歌山商工会議所
第7回	2014年6月23日	白浜田辺大会ブース出展について	和歌山市（信濃路）
第8回	2014年7月5日	白浜田辺大会ブース出展について	田辺市扇ヶ浜
第9回	2014年7月24日	JC University 和歌山について	海南市ロイヤルパインズホテル
第10回	2014年9月16日	JC University 和歌山について	田辺市民総合センター
第11回	2014年10月2日	JC University 和歌山について	田辺商工会議所

■ 委員会事業

- ・事業名 第45回和歌山ブロック大会地域活性化たからいち
- ・タイトル 和歌山ブロックアカデミー事業
- ・実施日時 平成26年5月11日（日）
- ・実施場所 かつらぎ町総合文化会館イベント広場
- ・事業参加者 一般市民・和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 一般市民 1100名
和歌山ブロック協議会内青年会議所メンバー 200名
- ・事業目的 全国各地 にはそれぞれの素晴らしい地域特性があり、市民に各地域を活性化させているたからを理解していただき、地域の絆の大切さを感じていただくことで、地域活性化への関心と気概を高めることを目的とします。

・事業名 JC University 和歌山 卒業式

- ・タイトル JC University 和歌山 卒業式
- ・実施日時 平成26年10月19日（日）＊諸般の事情により中止
- ・実施場所 和歌山マリーナシティロイヤルパインズホテル ＊諸般の事情により中止
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー ＊諸般の事情により中止
- ・事業目的 これまでのJC運動を通じて育んだ友情を確固たるものとし、卒業生にとって自身の歩んできたJC活動の集大成とするために、JC University 和歌山において卒業式を開催します。卒業生同士でテーブルを囲んでいただき、親睦を深めていただきます。「同年代の絆」を持つことでJCを卒業してからも、永遠の友となる関係をつくり上げるために、思い出を共有していただくことを目的とします。また、残るメンバーには一年間のJC活動を振り返る場となり、LOMの垣根を超えたつながりを持つ機会をつくるとともに、卒業生への感謝の意を表す場として卒業式を開催いたします。和歌山ブロック協議会で行われた事業を総括することにより、8LOMが情報を共有し合うことで意気あふれる人財による紀州の創造の一助とします。

2014年度 出向者事業報告書

（公社）日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会
リーダー育成委員会

委員長 小山 朋孝
副委員長 上村 到
幹事 稲田 正一
委員 大谷 晃一

■ 事業報告

本年度、リーダー育成委員会では、輝かしい未来に向けて弛まなく行動できるリーダーを育成するためのアカデミー事業を2回を担当させていただき、そして和歌山ブロック協議会の1年間を締めくくる、JC University 和歌山の開催・式典を担当させていただきました。

JC University 和歌山は中止となりましたが、2回のアカデミー事業を通して、和歌山ブロック協議会内8LOMメンバーが、相互の意識向上や活気に満ちあふれた安心して暮らせる明るい未来を目指す人財へと成長することができたと実感しています。

今年1年、これらの事業やその準備を通じて、たくさんの交流の機会があり、貴重な体験を得ることが出来ました。そして当委員会に和歌山県内各LOMから出向いただいた委員会メンバーにも恵まれ、素晴らしい1年を過ごすことができました。これらの経験を今後のLOM活動に活かしていきたいと思います。ご指導・ご協力頂きました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第1回	2014年 1月30日	アカデミー事業について	田辺商工会議所
第2回	2014年 3月05日	アカデミー事業について	和歌山商工会議所
第3回	2014年 4月02日	アカデミー事業について	有田商工会議所
第4回	2014年 6月04日	アカデミー事業2について	海南商工会議所
第5回	2014年 8月05日	アカデミー事業2について	田辺商工会議所
第6回	2014年 9月16日	JC University 和歌山について	田辺商工会議所
第7回	2014年10月07日	JC University 和歌山について	和歌山マリーナシティホテル

■ 委員会事業

- ・事業名 和歌山ブロックアカデミー事業
- ・タイトル 和歌山ブロックアカデミー事業
- ・実施日時 平成26年4月5日（土）・4月6日（日）
- ・実施場所 熊野古道・大塔総合文化会館・大塔青少年旅行村
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー 54名
- ・事業目的 JAYCEEは、地域のリーダーとしてのこの地域に対して何事にも率先して行動することが求められると考えます。そこで、アカデミー事業では1泊2日にすることで、他LOMのメンバーとの交流時間を多くし、所属LOMだけでは得られない経験をすることが刺激となり、将来のリーダーに成長する事を目的とします。

- ・事業名 和歌山ブロックアカデミー事業2
- ・タイトル 和歌山ブロックアカデミー事業2
- ・実施日時 平成26年8月31日（日）
- ・実施場所 田辺商工会議所 大会議室・特別会議室
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー 33名
- ・事業目的 JAYCEEは、地域のリーダーとしてのこの地域に対して何事にも率先して行動することが求められると考えます。そこで、日本JC推奨コースを活用し個々のスキルアップにつなげます。そのことによって、リーダーとして明確なビジョンを持ち地域を牽引していく意気あふれる人財となることを目的とします。

- ・事業名 JC University和歌山
- ・タイトル JC University和歌山の開催
- ・実施日時 平成26年10月19日（日）＊諸般の事情により中止
- ・実施場所 和歌山マリーナシティホテル ＊諸般の事情により中止
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー ＊諸般の事情により中止
- ・事業目的 JC University和歌山を通じて各地青年会議所メンバー一人ひとりが、地域の人々が安心して暮らすことができ、未来に向かって各地域が自立的に発展し、そして笑顔と活気に満ちあふれた社会を実現するためのリーダーとしての責任と使命を持つことを目的とします。

- ・事業名 JC University和歌山 式典
- ・タイトル JC University和歌山 式典
- ・実施日時 平成26年10月19日（日）＊諸般の事情により中止
- ・実施場所 和歌山マリーナシティホテル ＊諸般の事情により中止
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー ＊諸般の事情により中止
- ・事業目的 和歌山ブロック協議会で行われた事業を総括することにより、8LOMが情報を共有し合うことで意気あふれる人財による紀州の創造の一助とします。

2014年度 出向者事業報告書

（公社）日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会
まちづくり委員会

副委員長 生田 嘉寿起
委員 尾崎 次郎

■ 事業報告

本年度、まちづくり委員会では、国民参加型による憲法に関する事業とJC University和歌山 災害事業セミナー分科会と和歌山県知事選挙立候補予定者個人演説のe-みらせん運用事業を担当しました。

国民参加型による憲法に関する事業では、参加者が少なかったものの、アンケート記入欄には高校生バネリストの考えや発言に対しての好意的な見解をいただけ、改めて憲法を学ぶ良い機会となった。また自主憲法制定に向けた憲法論議の必要性を感じた等のご意見を多数いただき、事業目的である主権者意識の向上につなげることができた。

JC University和歌山 災害事業セミナー分科会は、諸般の事情により中止となっていました。

和歌山県知事選挙立候補予定者個人演説のe-みらせん運用事業では、和歌山県知事選挙及び総選挙を迎えるにあたり、立候補予定者の人柄が分かるよう自己紹介並びに政治理念、立候補に至った理由、また課題や解決策・政策、未来ビジョンを語っていただいた動画をe-みらせんに掲載し、地域住民が常に検証できるように実施しました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第1回	2014年 2月 7日	国民参加型による憲法に関する事業について	和歌山青年会議所事務局
第2回	2014年 3月 14日	国民参加型による憲法に関する事業について	和歌山青年会議所事務局
第3回	2014年 4月 18日	国民参加型による憲法に関する事業について	海南青年会議所事務局
第4回	2014年 5月 30日	国民参加型による憲法に関する事業について	和歌山青年会議所事務局
第5回	2014年 6月 20日	J C University和歌山 災害事業 セミナー分科会について	海南青年会議所事務局
第6回	2014年 7月 25日	J C University和歌山 災害事業 セミナー分科会について	和歌山青年会議所事務局
第7回	2014年 8月 29日	J C University和歌山 災害事業 セミナー分科会について	海南青年会議所事務局
第8回	2014年 9月 19日	J C University和歌山 災害事業 セミナー分科会について	海南青年会議所事務局
第9回	2014年10月 3日	J C University和歌山 災害事業 セミナー分科会について	海南青年会議所事務局

■ 委員会事業

- ・事業名 国民参加型による憲法に関する事業
- ・タイトル 全国一斉！国民による未来創造プロジェクト～この国のあるべき姿を描こう～
- ・実施日時 平成26年 5月 2日（金） 18：30～21：00
- ・実施場所 和歌山県民文化会館 小ホール 和歌山市小松原通り1丁目1番地
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー、一般参加者
- ・参加人数 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー110人、一般参加者11人
- ・事業目的 国民参加型事業に参加した国民が、憲法議論を通じて国家の未来像を描き、自主憲法制定に向けた主権者意識の向上を促すことを目的とします。

- ・事業名 J C University和歌山 災害事業セミナー分科会
- ・タイトル J C University和歌山 災害事業セミナー分科会
- ・実施日時 平成26年10月19日（日） 13：30～15：00
- ・実施場所 和歌山県立わかやま館 301・302号室 和歌山市毛見1520番地
- ・事業参加者 和歌山ブロック協議会 青年会議所メンバー
- ・参加人数 諸般の事情により中止
- ・事業目的 各青年会議所において大規模災害等発生後に和歌山ブロック協議会との連携や各地の行政・他団体との人的相互支援・物資的相互支援を円滑に行い、青年会議所という組織を有効活用し実働的に機能させ「自助・共助・公助」の精神のもと大切な生命（家族・会社）等を守るための「災害時救援相互運営規程」の作成・備え付けを推進し、次年度以降の災害ネットワーク構築へ向けた一助となることを目的とする。

2014年度 出向者事業報告書

（公社）日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会 ひとつづくり委員会

副会長 川村 正治
委員長 大西 淳太
副委員長 小林 雅人
重根 淳登
幹事 田端 廣正
委員 井上 周磨
萩本 亜衣美

■ 事業報告

我々青年会議所が、和歌山県下8LOMから400名あまりの青年が集い運動を行っているということを実来の方々に知っていただくことにより、各行政並びに他団体の方々に我々の団体が明るい豊かな社会の実現に向かって運動していることを効果的にPRすることを目的として、第45回和歌山ブロック大会記念式典を実施し、同時に、和歌山が世界に誇れる歴史を、そして誇りある日本人という考えを地域住民と共に学び、思いを共有することで意気あふれる人材の創造につなげ、地域住民と共に地域の未来を描くことを目的とし、また、青年会議所運動を、地域住民の方々に知っていただくことを目的として第45回和歌山ブロック大会記念事業を実施しました。

第45回和歌山ブロック大会記念式典では、和歌山ブロック協議会内で行われたさまざまな運動を褒賞発表を通じて、また肅々とした式典を見ていただくことで県内の行政並びに、他団体の多くの来賓者に我々の考える明るい豊かな社会の実現への取組みを発信することができ、また、近畿地区協議会においても、本記念式典を通して、他のブロック協議会に対しても和歌山ブロック内各LOMで行われている素晴らしい活動を発信することができました。

第45回和歌山ブロック大会記念事業では、講演・パネルディスカッションを通し、世界に誇れる歴史と日本の誇りについて考えることで地域住民と共に明るい豊かな和歌山を描くことができました。

J Cユニバーシティについては、諸般の事情により中止となり実施することができませんでした。

今年で45回目となる和歌山ブロック大会の開催にあたり、その運営に携わることで、微力ながら明るく豊かな社会の実現に少しは貢献できたのではないかと感じました。J Cユニバーシティが開催されなかったことについては、非常に残念でありました。

今年度の事業で学んだ経験や反省点を次年度に役立てていきたいと思っています。ありがとうございました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
第1回委員会	2014年2月3日	ブロック大会について	和歌山市
第2回委員会	2014年4月2日	ブロック大会について	橋本市
第3回委員会	2014年4月21日	ブロック大会について	和歌山市
第4回委員会	2014年6月5日	J Cユニバーシティについて	海南市
第5回委員会	2014年7月3日	J Cユニバーシティについて	岩出市
第6回委員会	2014年9月25日	J Cユニバーシティについて	和歌山市
第7回委員会	2014年10月6日	J Cユニバーシティについて	和歌山市

■ 委員会事業

- ・事業名 第45回和歌山ブロック大会記念式典
- ・実施日時 平成26年5月11日（日） 10時00分～11時40分
- ・実施場所 かつらぎ総合文化会館 あじさいホール
- ・事業参加者 来賓・和歌山ブロック協議会メンバー
- ・参加人数 来賓27名・和歌山ブロック協議会メンバー236名
- ・事業目的 （対外）我々青年会議所が、和歌山県下8LOMから400名あまりの青年が集い運動を行っているということを来賓の方々に知っていただくことにより、各行政並びに他団体の方々に我々の団体が明るい豊かな社会の実現に向かって運動していることを効果的にPRすることを目的とします。
- （対内）ブロック協議会内すべてのメンバーが一堂に会する場であり、互いに運動意欲を高める場であるため、厳粛かつ盛大に式典を開催し、JAYCEEとしての覚悟と豊かな社会創造に向けた気概を育みます。和歌山ブロック協議会メンバーが集い、会員のベクトルを同じくすることで県下8LOM青年会議所の運動とそこにあふれるエネルギーを共有し、JAYCEEであることへの誇りをもち更なる飛躍に向けて意識を高めることを目的とします。

- ・事業名 第45回和歌山ブロック大会記念事業
- ・実施日時 平成26年5月11日（日） 14時00分～16時00分
- ・実施場所 かつらぎ総合文化会館 あじさいホール
- ・事業参加者 一般参加者・和歌山ブロック協議会メンバー
- ・参加人数 一般参加者38名・和歌山ブロック協議会メンバー171名
- ・事業目的 （対外）和歌山が世界に誇れる歴史を、そして誇りある日本人という考えを地域住民と共に学び、思いを共有することで意気あふれる人財の創造につなげ、地域住民と共に地域の未来を描くことを目的とします。また、青年会議所運動を、地域住民の方々に知っていただくことを目的とします。
- （対内）和歌山が世界に誇れる歴史を、そして誇りある日本人という考えを地域住民と共に学び、思いを共有することで意気あふれる人財の創造につなげ、地域住民と共に地域の未来を描くことを目的とします。そして、メンバー一人ひとりが誇りと気概を持ち、青年会議所運動を広げていくことを目的とします。

2014年度 出向者事業報告書

（公社）日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会
会員拡大委員会

委員 大木原正恭
井内千影

■ 事業報告

本委員会では、各LOMの会員拡大担当者をはじめとする参加メンバーに、青年会議所の運動を邁進していくために会員拡大がいかに真摯に受け止める課題であり、現在のメンバー数の推移から会員拡大の重要性を再確認してもらった上で、会員拡大の手法を学んでいただきました。また委員会事業では、各LOMの理事長、拡大担当委員長から今年度のLOMとしての拡大目標を発表してもらうことで、参加者ひいてはメンバー全員が責任をもって会員拡大運動に臨んでいく覚悟ができ、各メンバーがLOMに持ち帰り、LOMのメンバーにも本委員会を通じての学び、想いを伝えていくことでリーダーシップ力を養う行動へと結びつくこととなりました。この一年を通じてメンバーがリーダーシップを持った行動を起こし、その結果多くの会員の拡大に成功することが、意気あふれる人財の育成となり、『たくましい国』日本の創造につながる事業となりました。

■ 委員会開催記録

	開催日	内容	場所
	2月5日	会頭訪問拡大セミナーの件	有田青年会議所 事務局
	3月27日	会頭訪問拡大セミナー報告の件 ブロック大会拡大セミナーの件	白浜・田辺青年会議所 事務所
	4月28日	ブロック大会拡大セミナーの件	和歌山青年会議所 事務局
	5月22日	ブロック大会拡大セミナー報告の件 JC University 和歌山分科会拡大セミナーの件	信濃路 和歌山
	6月6日	J C University 和歌山分科会拡大セミナーの件	海南青年会議所 事務局

	8月28日	J C U n i v e r s i t y和歌山分科会拡大セミナーの件	有田青年会議所 事務局
	9月19日	J C U n i v e r s i t y和歌山分科会拡大セミナーの件	信濃路 和歌山
	10月7日	U n i v e r s i t y和歌山分科会拡大セミナーのリハーサル	有田青年会議所 事務局

■ 委員会事業

- ・事業名 会頭訪問 拡大セミナー
- ・実施日時 平成26年2月12日（水）
- ・実施場所 ホテルアバローム紀の国2F 鳳凰の間
- ・参加人数 88名

・事業目的 和歌山ブロック協議会内の各LOMが新体制でスタートをした早い段階で、会員拡大の効果を最大限に高めるためには、会員拡大の意義・重要性、問題点を再認識し、新しい拡大の手法を学んでいただき、各LOMに持ち帰って行動に移していただくことが、さらなる会員拡大につながります。

さらに各LOMの理事長、拡大担当責任者様に会員拡大目標を発表してもらうことでより責任感をもって効果的な会員拡大の実現を目的とします。

■ 委員会事業

- ・事業名 ブロック大会 拡大セミナー
- ・実施日時 平成26年5月11日（日）
- ・実施場所 かつらぎ総合文化会館 あじさいホール3F 研究室
- ・参加人数 31名
- ・事業目的 和歌山ブロック協議会内の各LOMの中でも、入会規定、入会資格は様々です。

和歌山青年会議所では年1回の4月に仮入会を行います。年初から3月末までの短い期間でいかに効率よく、そして効果的に会員拡大を行っているのか2013年度の和歌山青年会議所の拡大委員長西川純司君より情報を共有していただきます。その後私の方から全国各地で行われている拡大運動の成功事例の情報を共有する事で新たな手法を学べる事ができます。

2014年度 出向者事業報告書

（公社）日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会 財務運営会議

委員 宮本 康平

■ 事業報告

●第1回財政審査会議 2014年1月11日和歌山青年会議所事務局
2014年度和歌山ブロック協議会第1次修正予算（案）承認の件
会頭訪問の企画と運営計画並びに予算（案）承認の件
会頭訪問拡大セミナーの開催計画並びに予算（案）承認の件

●第2回財政審査会議 2014年2月7日 和歌山青年会議所事務局
委員長基本方針・事業計画修正（案）について
和歌山ブロック協議会褒賞事業開催計画並びに予算（案）について
会頭訪問事業計画並びに予算（案）について
ブロック大会拡大セミナーの開催計画並びに予算（案）について
第45回和歌山ブロック大会記念式典計画並びに予算（案）について
第45回和歌山ブロック大会記念事業計画並びに予算（案）について
国民参加型による憲法に関する事業への参加推進及び発信計画並びに予算（案）について
第45回和歌山ブロック大会地域活性化からいち事業計画並びに予算（案）について
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算（案）について

●第3回財政審査会議 2014年3月15日和歌山青年会議所事務局
2014年度和歌山ブロック協議会第2次修正予算（案）承認の件
和歌山ブロック協議会褒賞事業開催計画並びに予算（案）承認の件
ブロック大会拡大セミナーの開催計画並びに予算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念式典計画並びに予算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念事業計画並びに予算（案）承認の件
国民参加型による憲法に関する事業計画並びに予算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会 地域活性化からいち事業計画並びに予算（案）承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算（案）承認の件

●第4回財政審査会議 2014年5月8日和歌山青年会議所事務局
会頭訪問事業計画並びに予算（案）承認の件
会頭訪問 拡大セミナー事業計画並びに予算（案）承認の件

JC University 分科会並びに予算（案）承認の件
JC University の開催事業計画並びに予算（案）承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算（案）承認の件

●第5回財政審査会議 2014年6月11日和歌山青年会議所事務局
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算（案）承認の件
JC University の開催並びに予算（案）承認の件
JC University 拡大セミナー分科会開催並びに予算（案）承認の件
地区大会ブース出展並びに予算（案）承認の件

●第6回財政審査会議 2014年7月16日那賀青年会議所事務局
和歌山ブロック協議会褒賞事業開催報告並びに決算（案）承認の件
国民参加型による憲法に関する事業開催報告並びに決算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念式典 補正予算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会 記念式典 報告並びに決算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念事業 補正予算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念事業 報告並びに決算（案）承認の件
第45回和歌山ブロック大会 地域活性化からいち事業報告並びに決算（案）承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業開催報告並びに決算（案）承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算（案）承認の件
JC University 和歌山開催計画並びに予算（案）承認の件
和歌山ブロック大会 拡大セミナーの開催報告並びに決算（案）承認の件
JC University 和歌山拡大セミナー分科会の開催計画並びに予算（案）承認の件

●第7回財政審査会議 2014年8月18日和歌山青年会議所事務局
JC University 和歌山災害事業セミナー分科会並びに予算（案）承認の件
JC University 和歌山式典並びに予算（案）承認の件
JC University 和歌山メインフォーラム並びに予算（案）承認の件

●第8回財政審査会議 2014年9月19日和歌山青年会議所事務局
2014年度和歌山ブロック協議会第4次修正予算（案）承認の件
JC University 和歌山災害事業セミナー分科会開催計画並びに予算（案）承認の件
JC University 和歌山メインフォーラム開催計画並びに予算（案）承認の件
JC University 和歌山式典開催計画並びに予算（案）承認の件

●第9回財政審査会議 2014年10月25日和歌山青年会議所事務局
和歌山ブロックアカデミー事業2報告並びに決算（案）承認の件
JC University 和歌山開催中止修正計画並びに補正予算（案）承認の件
JC University 和歌山開催中止報告並びに決算（案）承認の件
JC University 和歌山式典開催中止報告並びに決算（案）承認の件

JC University 和歌山メインフォーラム開催中止修正計画並びに補正予算（案）承認の件
JC University 和歌山メインフォーラム開催中止報告並びに決算（案）承認の件
JC University 和歌山災害事業セミナー分科会開催中止修正計画並びに補正予算（案）承認の件
JC University 和歌山災害事業セミナー分科会開催中止報告並びに決算（案）承認の件
JC University 和歌山拡大セミナー分科会の開催中止修正計画並びに補正予算（案）承認の件
JC University 和歌山拡大セミナー分科会の開催中止報告並びに決算（案）承認の件

所感

和歌山ブロック協議会内各LOMより集められた負担金が適正な手続きのもとブロック協議会各事業に対して支出されているか確認するのが財政審査会議に求められている職務と考え、1年間財政審査会議へ出向させて頂きました。
本年度の出向で学んだ事を会計理事として白浜・田辺青年会議所のLOM運営や各事業へ貢献する事が出来たかと考えると反省することが多々ありますが、今後はこの反省を基に自分に与えられた職務を全うしていきます。

2014 年度 出向者事業報告書

(公社) 日本青年会議所 近畿地区 和歌山ブロック協議会
事務局

セクレタリー 森 浩晃

■ 事業報告

●第1回会員会議所 2013年11月24日田辺商工会議所 3F 特別会議室
2014年度和歌山ブロック協議会役員(案)承認の件
2014年度和歌山ブロック協議会当初予算(案)承認の件

●第2回会員会議所 2013年12月16日 WEB会議
副会長基本方針(案)について
委員長基本方針(案)事業計画(案)について
会頭訪問の企画と運営計画並びに予算(案)について
会頭訪問拡大セミナーの開催計画並びに予算(案)について

●第3回会員会議所 2014年3月8日 WEB会議
和歌山ブロック協議会褒賞事業計画並びに予算(案)について
公式訪問開催計画(案)について
ブロック大会拡大セミナーの開催計画並びに予算(案)について
第45回和歌山ブロック大会記念式典計画並びに予算(案)について
第45回和歌山ブロック大会記念事業計画並びに予算(案)承認の件
国民参加型による憲法に関する事業計画並びに予算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック大会 地域活性化からいち事業計画並びに予算(案)について
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算(案)について

●第4回会員会議所 2014年3月8日伊都JC事務局 2階
2014年度和歌山ブロック協議会役員修正(案)承認の件
委員長基本方針・事業計画修正(案)承認の件
2014年度選挙管理委員会委員指名(案)承認の件
2014年度和歌山ブロック協議会第2次修正予算(案)承認の件
和歌山ブロック協議会褒賞事業開催計画並びに予算(案)承認の件
公式訪問開催計画(案)承認の件
ブロック大会拡大セミナーの開催計画並びに予算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念式典計画並びに予算(案)承認の件

第45回和歌山ブロック協議大会記念事業計画並びに予算(案)承認の件
国民参加型による憲法に関する事業への参加推進及び発信計画並びに予算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック協議大会 地域活性化からいち事業計画並びに予算(案)承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算(案)承認の件

●第5回会員会議所 2014年4月25日 WEB会議
その他

●第6回会員会議所 2014年5月18日 田辺商工会議所
和歌山ブロック協議会第3次修正予算(案)承認の件
会頭訪問開催報告並びに決算(案)承認の件
会頭訪問 拡大セミナーの開催報告並びに決算(案)承認の件

●第7回会員会議所 2014年6月27日 WEB会議
和歌山ブロックアカデミー事業計画並びに予算(案)について
JC University 和歌山開催計画並びに予算(案)について
JC University 和歌山拡大セミナー分科会の開催計画並びに予算(案)について

●第8回会員会議所 2014年7月27日 きびドーム
和歌山ブロック協議会褒賞事業開催報告並びに決算(案)承認の件
国民参加型による憲法に関する事業開催及びに決算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念式典修正予算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念式典報告並びに決算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念事業修正予算(案)承認の件
第45回和歌山ブロック大会記念事業報告並びに決算(案)承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業開催計画報告並びに決算(案)承認の件
和歌山ブロックアカデミー事業2計画並びに決算(案)承認の件
JC University 和歌山開催計画並びに予算(案)承認の件
ブロック大会 拡大セミナーの開催計画並びに決算(案)承認の件
JC University 和歌山拡大セミナー分科会の開催計画並びに予算(案)承認の件
和歌山ブロック協議会2015年度会長候補者(案)承認の件

●第10回会員会議所 2014年9月28日 海南市海南保険福祉センター 2階 研修室
和歌山ブロック協議会運営規定改正(案)承認の件
2014年度和歌山ブロック協議会第4次修正予算(案)承認の件
JC University 和歌山災害事業セミナー分科会開催計画並びに予算(案)承認の件
JC University 和歌山メインフォーラム開催計画並びに予算(案)承認の件
JC University 和歌山式典開催計画並びに予算(案)承認の件

●第12回会員会議所 2014年10月30日 WEB会議

その他

●第13回会員会議所 2014年11月9日 紀三井寺ガーデンホテルはやし

和歌山ブロック協議会2015年度会長候補者取り下げ（案）承認の件

和歌山ブロックアカデミー事業2報告並びに決算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山開催中止修正計画並びに補正予算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山開催中止報告並びに決算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山式典開催中止報告並びに決算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山メインフォーラム開催中止修正計画並びに予算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山メインフォーラム開催中止報告並びに決算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山災害事業セミナー分科会開催中止修正計画並びに補正予算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山災害事業セミナー分科会開催中止報告並びに決算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山拡大セミナー分科会の開催中止修正計画並びに予算（案）承認の件

J C U n i v e r s i t y和歌山拡大セミナー分科会の開催中止報告並びに決算（案）承認の件

所感

今回和歌山ブロック協議会のセクレタリーとして、普段LOMメンバー以外の方と交流する機会がなく今回のセクレタリーを通じて、県内のLOMメンバーと交流を深める事が出来ました。そして役員会や会員会議所の風景を近くで見えて感じ、貴重な経験ができ、今後の自分へのJC生活のためになったように思います。

記載要領： 下表の水色欄(部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

【別表F(1)各事業に関連する費用額の配賦計算表(役員等の報酬・給料手当)】

(役員等の報酬及び給料手当について、配賦基準を明記の上、記載してください。)

事業 年度	自	2014	年	1	月	1	日	法人コード	
	至	2014	年	12	月	31	日	法人名	公益社団法人白浜・田辺青年会議所

○役員等の報酬

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

番号	役職	役員等の氏名	報酬の額	配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計
					公1 (まちづくり)	公1 (絆の「わ」式 典・事業)	公2 (青少年)	公3 (アカデ ミー)		共通	小計	収1				共通	小計	
1	特にありません																	
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
	ページ 合 計																	

記載要領： 下表の水色欄(部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自	2014	年	1	月	1	日	法人コード	
	至	2014	年	12	月	31	日	法人名	公益社団法人白浜・田辺青年会議所

○役員等の報酬

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

番号	役職	役員等の氏名	報酬の額	配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計			
					公1 (まちづくり)	公1 (絆の「わ」式 典・事業)	公2 (青少年)	公3 (アカデ ミー)				共通	小計	収1						共通	小計
11	特にありません																				
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
	ページ 合 計																				
	役員等の報酬 計																				

記載要領： 下表の水色欄(部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自	2014	年	1	月	1	日	法人コード	
	至	2014	年	12	月	31	日	法人名	公益社団法人白浜・田辺青年会議所

○使用人を兼務する理事の給料手当

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

番号	役職	各事業に関連する費用		配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計
		役員等の氏名	給料手当の額		公1 (まちづくり)	公1 (絆の「わ」式 典・事業)	公2 (青少年)	公3 (アカデ ミー)	共通	小計	収1				共通	小計		
1	特にありません																	
2																		
3																		
	合 計																	

○使用人を兼務する理事以外の給料手当

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

給料手当の額	配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計
		公1 (まちづくり)	公1 (絆の「わ」式 典・事業)	公2 (青少年)	公3 (アカデ ミー)		共通	小計	収1				共通	小計	
895,875	従事割合にて算出	323,254	81,275	64,651	64,651			533,831	281,584					281,584	80,460
		36.1%	9.1%	7.2%	7.2%	0.0%	0.0%	59.6%	31.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.4%	9.0%
		323,254	81,275	64,651	64,651	0	0	533,831	281,584	0	0	0	0	281,584	80,460

○給料手当計

給料手当計	895,875	323,254	81,275	64,651	64,651	0	0	533,831	281,584	0	0	0	0	281,584	80,460
-------	---------	---------	--------	--------	--------	---	---	---------	---------	---	---	---	---	---------	--------

記載要領： 下表の水色欄(部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

【別表F(2)各事業に関連する費用額の配賦計算表(役員等の報酬・給料手当以外の経費)】

(各費用額に共通して発生する関連費用等について、配賦基準を明記の上、記載してください。)

事業年度	自	2014	年	1	1	日	法人コード	
	至	2014	年	12	月	31	日	法人名
								公益社団法人白浜・田辺青年会議所

管理費のみ

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

番号	科目名	各事業に関連する費用		配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計
		費用の名称	費用の額		公1 (まちづくり)	公1(群の「わ」式典・事業)	公2(青少年)	公3(カデミー)		共通	小計	収1				共通	小計	
1	退職給付費用	退職給付費用	40,000	従事割合にて算出							0						0	40,000
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40,000
2	福利厚生費	福利厚生費	8,890	従事割合にて算出							0	0					0	8,890
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,890
3	会議費	会議費	35,200	使用割合にて算出							0						0	35,200
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35,200
4	旅費交通費	旅費交通費	317,880	使用割合にて算出							0	0					0	317,880
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	317,880	317,880
5	通信運搬費	通信運搬費	460,145	使用割合にて算出	168,720	41,413	32,977	32,977			276,087	160,489					160,489	23,569
					36.7%	9.0%	7.2%	7.2%	0.0%	0.0%	60.0%	34.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	34.9%	5.1%
					168,720	41,413	32,977	32,977	0	0	276,087	160,489	0	0	0	0	160,489	23,569
6	リース料	リース料	0	直接対応にて算出														
7	消耗品費	消耗品費	188,932	使用割合にて算出	68,016	18,893	13,225	13,225			113,359	5,668					5,668	69,905
					36.0%	10.0%	7.0%	7.0%	0.0%	0.0%	60.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	37.0%
					68,016	18,893	13,225	13,225	0	0	113,359	5,668	0	0	0	0	56,680	69,905
8	修繕費	修繕費	0	使用割合にて算出														
9	印刷製本費	印刷製本費	387,060	使用割合にて算出	142,611	34,471	27,577	27,577			232,236	116,118					116,118	38,706
					36.8%	8.9%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.0%	10.0%
					142,611	34,471	27,577	27,577	0	0	230,819	116,118	0	0	0	0	116,118	38,706
10	委託費	委託費	110,000	直接対応にて算出	41,704	10,077	6,490	6,490			64,761	32,505					32,505	12,734
					37.9%	9.2%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	58.9%	29.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	29.6%	11.6%
					41,704	10,077	6,490	6,490	0	0	63,077	32,505	0	0	0	0	32,505	12,734
	ページ 合 計		1,548,107		421,051	104,854	80,269	80,269			683,343	314,780					683,672	546,884

記載要領： 下表の水色欄(部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

管理費のみ

事業 年度	自	2014	年	1	月	1	日	法人コード	
	至	2014	年	12	月	31	日	法人名	公益社団法人白浜・田辺青年会議所

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

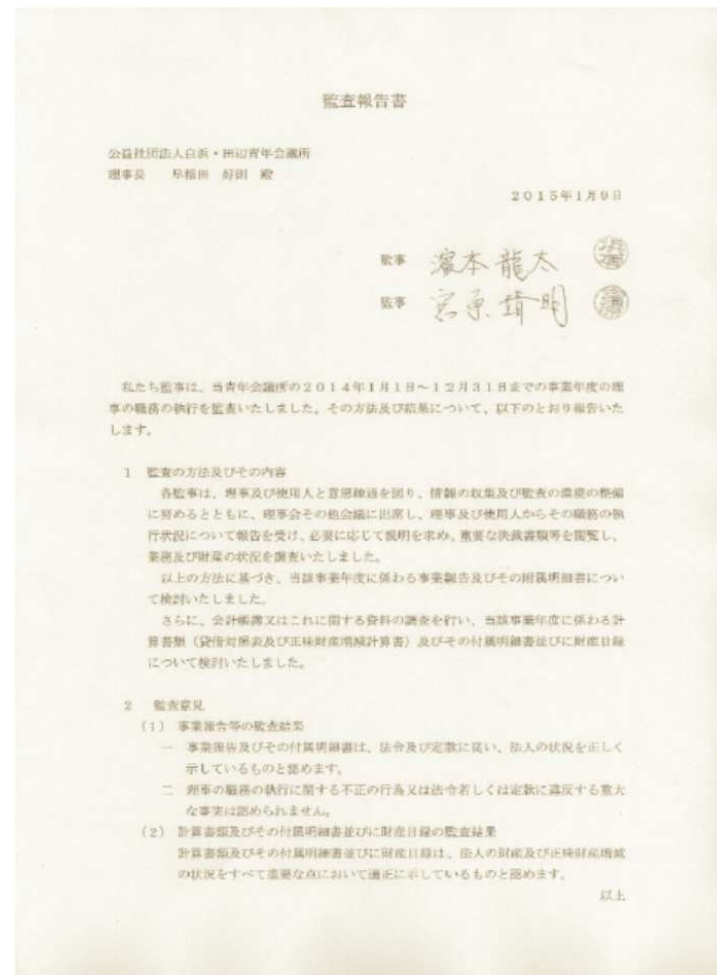
番号	科目名	各事業に関連する費用		配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計
		費用の名称	費用の額		公1 (まちづくり)	公1 (絆の「わ」式)	公2 (青少年)	公3 (アカデ)		共通	小計	収1				共通	小計	
11	光熱水料費	光熱水料費	44,186	使用割合にて算出	8,837	7,070	5,302	5,302			26,511	8,837					8,837	8,838
					20.0%	16.0%	12.0%	12.0%	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
					8,837	7,070	5,302	5,302	0	0	26,511	8,837	0	0	0	0	8,837	8,838
12	賃借料	賃借料	540,000	使用割合にて算出	194,400	52,000	38,800	38,800			324,000	140,000					140,000	76,000
					36.0%	9.6%	7.2%	7.2%	0.0%	0.0%	60.0%	25.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.9%	14.1%
					194,400	52,000	38,800	38,800	0	0	324,000	140,000	0	0	0	0	140,000	76,000
13	保険料	保険料	0	使用割合にて算出														
14	諸謝金	諸謝金	0	使用割合にて算出														
15	渉外費	渉外費	313,000	使用割合にて算出							0						0	313,000
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	313,000
16	会員支給費	会員支給費	18,900	使用割合にて算出							0						0	18,900
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,900
17	雑費	雑費	304,217	使用割合にて算出	108,353	24,467	20,972	20,972			174,764	64,727					64,727	64,726
					35.6%	8.0%	6.9%	6.9%	0.0%	0.0%	57.4%	21.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.3%	21.3%
					108,353	24,467	20,972	20,972	0	0	174,763	64,727	0	0	0	0	64,727	64,726
18	負担金	負担金	1,602,543	直接対応にて算出	0						0						0	1,602,543
					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,602,543
19																		
20																		
	ページ 合 計		2,822,846		311,590	83,537	65,074	65,074			525,274	213,564					213,564	2,084,007

記載要領： 下表の水色欄(■部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自 2014年 1月 1日	法人ナ		公1	55.27%	71.70%
	至 2014年 12月 31日	法人名	公益社団法人白浜・田辺青年会議所	公2	7.04%	
				公3	9.93%	

【別表6】収支予算の事業別区分経理の内訳表

科 目	2014年1月1日から2014年12月31日まで										(単位:円)		合計
	公益目的事業会計					収益事業等会計					法人会計	内部取引消却	
	公1	公1	公2	公3	共通	小計	他1	共通	小計				
1. 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中科目別記載													0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中科目別記載													0
受取人権金	0	0	0	0	47,500	47,500	0	0	0	0	47,500		95,000
中科目別記載													95,000
受取金等	0	0	0	0	4,572,000	4,572,000	0	0	0	1,371,600	1,371,600	3,200,400	9,144,000
中科目別記載													9,144,000
事業収益	210,000	660,000	0	0	0	870,000	0	0	0	1,371,600	1,371,600	3,200,400	870,000
中科目別記載													870,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中科目別記載													0
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中科目別記載													0
受取寄付金	3,660,000	0	0	0	0	3,660,000	0	0	0	0	0	0	3,660,000
中科目別記載													3,660,000
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87		87
中科目別記載													87
経常収益計	3,870,000	660,000	0	0	4,619,500	9,149,500	0	0	0	1,371,600	1,371,600	3,248,717	13,732,108
(2) 経常費用													
事業費	5,763,891	2,280,504	1,024,744	1,307,137	0	10,436,276	1,408,379	0	1,408,379			0	11,844,655
給料手当	383,254	81,275	64,659	64,659		533,653	281,584		281,584				815,415
福利厚生費						0			0				0
退職給付費用						0			0				0
福利厚生費						0			0				0
旅費交通費	64,800		216,000	105,720		386,520	104,960		104,960				491,480
通信運搬費	172,082	93,190	40,425	33,733		338,900	196,377		196,377				535,277
減価償却費						0			0				0
消耗什器備品費						0			0				0
消耗品費	2,217,538	1,689,153	291,035	13,562		4,211,288	149,829		149,829				4,361,117
修繕費						0			0				0
印刷製本費	142,611	34,471	27,577	27,577		232,236	116,118		116,118				348,354
燃料費						0			0				0
光熱水料費	8,837	7,070	5,302	5,302		26,511	8,837		8,837				35,348
賃借料	1,077,300	52,000	199,700	69,970		1,338,970	388,820		388,820				1,727,790
保険料	49,940		34,464			84,404	2,117		2,117				86,521
雑費	21,600	11,137		866,300		899,037	30,000		30,000				929,037
租税公課						0			0				0
支払負担金						0			0				0
支払寄付金						0			0				0
委託費	1,562,712	256,151	124,618	158,730		2,082,211	65,010		65,010				2,147,221
有価証券運用損						0			0				0
雑費	143,217	56,087	20,972	22,052		242,328	64,727		64,727				307,055
総費													
役員報酬									1,108,800				1,108,800
給料手当									80,460				80,460
退職給付費用									40,000				40,000
福利厚生費									8,890				8,890
旅費交通費									35,700				35,700
通信運搬費									317,880				317,880
減価償却費									23,569				23,569
リース料									0				0
消耗品費									69,905				69,905
修繕費									0				0
印刷製本費									38,706				38,706
委託費									12,734				12,734
光熱水料費									8,838				8,838
賃借料									76,000				76,000
保険料									0				0
雑費									0				0
租税公課									0				0
渉外慶弔費									313,000				313,000
支払寄付金									0				0
会員支給品費									18,000				18,000
雑費									64,715				64,715
食料金									1,602,543				1,602,543
経常費用計	5,763,891	2,280,504	1,024,744	1,307,137	0	10,436,276	1,408,379	0	1,408,379	2,711,351			14,556,000
経常増減差額	-1,813,811	-1,120,104	-1,024,744	-1,311,137	4,619,500	-1,286,776	-1,408,379	0	-30,779	537,366	0		-32,888
基本財産評価増減等						0			0				0
特定資産評価増減等						0			0				0
投資有価証券評価増減等						0			0				0
経常増減合計	-1,813,811	-1,120,104	-1,024,744	-1,311,137	4,619,500	-1,286,776	-1,408,379	0	-30,779	537,366	0		-32,888
当期経常増減額	-1,813,811	-1,120,104	-1,024,744	-1,311,137	4,619,500	-1,286,776	-1,408,379	0	-30,779	537,366	0		-32,888
2. 経常外増減の部													
(1) 経常外収益													
中科目別記載													0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用													
中科目別記載													0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計増減額	-1,813,811	-1,120,104	-1,024,744	-1,311,137	4,619,500	-1,286,776	-1,408,379	0	-30,779	537,366	0		-32,888



収支決算書

2014年1月1日から2014年12月31日まで

(単位: 円)

會計：一般會計

科目	予算額	決算	増減	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
(2) 入会金収入	165,000	95,000	70,000	
入会金収入	165,000	95,000	70,000	(注1)
(3) 会費収入	9,904,000	9,144,000	360,000	
会員会費収入	9,904,000	9,144,000	360,000	(注2)
年会費収入	8,820,000	8,520,000	0	正会員年会費¥120,000×7名
その他会費収入	774,000	414,000	360,000	新入会員会費¥330,000+仮会員会費¥34,000
特別会員会費収入	210,000	210,000	0	特別会員会費¥36,000×7名
(4) 事業費収入	200,000	870,000	△ 670,000	
広告料収入	200,000	870,000	△ 670,000	
(5) 補助金等収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
(6) 寄付金収入	3,350,000	3,663,291	△ 313,291	
寄付金収入	3,350,000	3,663,291	△ 313,291	(注3) 平成27年度に77,000円、平成28年度に8,000円、平成29年度に41,000円、平成30年度に12,000円、令和元年度に77,291円
(7) 雑収入	1,000	817	183	
雑収入	1,000	817	183	受取利息等817
(8) 他会計からの繰入金収入	0	0	0	
基金会計からの繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入計	13,220,000	13,773,108	△ 553,108	
2. 事業活動支出				
(1) 事業費支出	8,200,000	9,289,178	△ 1,089,178	公益目的事業¥6,690,727 非公益目的事業¥698,451
公益事業費支出	7,400,000	8,690,727	△ 1,290,727	
その他事業費支出	800,000	598,451	201,549	
(2) 管理費支出	4,269,700	3,624,285	645,415	
給与手当支出	970,000	895,875	74,125	
福利厚生費支出	12,500	8,890	3,610	労災保険、雇用保険
会議費支出	30,000	35,200	△ 5,200	臨時理事会等会場費
旅費交通費支出	611,500	317,880	19,620	(注4) 京都会議ホテル、地区出張負担金
通信運搬費支出	600,000	460,145	139,855	(注4)
リース料支出	0	0	0	
消耗品費支出	300,000	188,932	111,068	事務用品ほか
修繕費支出	0	0	0	
印刷製本費支出	39,000	387,060	5,940	LOM対置代JCOMエス325,500 その他
委託費支出	113,000	110,000	3,000	(注5) ロイヤリティ年間保守費用、グループウェア年間保守管理費用
光熱水料費支出	50,000	44,186	5,814	
貸借料支出	540,000	540,000	0	事務局家賃
保険料支出				
渉外費支出	252,700	313,000	△ 60,300	(注6)
会員支給品費支出	50,000	18,900	31,100	(注7)
雑支出	460,000	604,217	145,783	会費徴収費 記念品含む
(3) 負担金支出	1,657,256	1,602,343	64,913	(注8)
ICI負担金支出	95,256	87,318	7,938	(注9)
日本にICI負担金支出	455,000	437,500	17,500	(注9) 日本に基本金+日本に付加金
地区協議会負担金支出	135,200	135,200	0	(注10)
ブロック協議会負担金支出	897,500	581,750	15,750	(注11) ブロック負担金+ブロック大会費
地区ICL協賛金支出	153,300	140,825	12,775	(注12)
日本ICL出向者負担金支出	0	0	0	
WeBelieve購読料支出	231,000	220,250	10,750	
(4) 他会計への繰入金支出	40,000	40,000	0	
基金会計への繰入金支出	40,000	40,000	0	事務局員退職積立金
事業活動支出計	14,176,956	14,556,006	△ 379,050	
事業活動収支差額	△ 956,956	△ 782,898	△ 174,058	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
(2) 固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	△ 490,238		△ 490,238	
当期収支差額	△ 956,956	△ 782,898	△ 174,058	
前期繰越収支差額	1,447,194	1,447,194	0	
次期繰越収支差額	0	664,296	△ 664,296	

(※3) 施設交通費支出	317,880	京阪臨海線(宇布) 地区出席負担金
(※4) 通信運搬費支出	460,145	ICカード・通話料等 年会利用料、税金使用後のガレージ、その他送料
(※5) 委託費支出	110,000	ウェブサイト年間更新費用 150,000 グループウェア年間更新管理費用 10,000
(※6) 渉外費支出(下記合計額)	313,000	
	43,000	◆各団体費会費(南方面連組合) 10,000 海連自動車連合会延滞金 10,000 青少年育成協会 15,000 北方青年士和歌山県民会連 15,000 暴力団排除協会 15,000 京阪臨海 18,000
	270,000	◆2014年度各団体返金(海南)IC150,000 郡部IC150,000 新宮IC100,000 平池IC30,000 田辺ロータリーV20,000 本署大社外大株 10,000 本署大社外長12号貸借庫 10,000
(※7) 会員支給品費支出	18,900	新入会費カード(14)・(15) 21ヵ月分(11) 他(9)
(※8) JCI会費	87,318	¥130(410.5)×77名 1ヵ月=108円
(※9) 日本JIC負担金支出(下記合計額)	437,500	
日本JIC基本額	60,000	会費(500名)4070,000 1ヵ月から12ヵ月増す 順に15,000を加算
日本JIC付加金	377,500	基本額×2×6(6月基本会費)377,000+基本額×3(6月以降入会)+7,500=377,500
(※10) 地区負担金	135,200	基本額×2,000×4(4月基本会費)130,000+基本額×5(6月以降入会)=135,200
(※11) プログラム負担金(下記合計額)	581,750	
プログラム負担金	359,750	基本額×2,000×4(4月基本会費)359,000+基本額×3(6月以降入会)6,750=359,750
プログラム大会費	222,000	¥3,000×74名(4月入会)×222,000
(※12) 国際協力資金	140,525	¥1,828×77名 国際関係事業(世界会議、JCI・AIPAC、G.T.S等の財源)

明細下記参照

(※1)入会金収入	95,000	¥10,000×(0名+3名+1名+2名)÷60,000円 特別会費入金金55,000円×7÷35,000
(※2)年会費収入(下記合計額)	9,144,000	
正会費	8,820,000	¥120,000×名×7名
新入会費	390,000	¥120,000×1名+¥40,000×3名+270,000円÷60,000円×1名+60,000円×30,000×2名÷60,000
仮会費	24,000	¥30,000×3名×1名+2名×2名+24,000
特別会費	390,000	30,000×3名×2名+210,000

収支予算書

2014年1月1日から2014年12月31日まで

(単位: 円)

会計:周年事業積立金

科目	予算額	決算	備考
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(7) 雑収入	990	990	
受取利息収入	990	990	周年積立金利息(年0.025%)
その他収入		0	
(8) 他会計からの繰入金収入	0	0	
一般会計からの繰入金収入		0	
事業活動収入計	990	990	
2. 事業活動支出			
(4) 他会計への繰入金支出		0	
一般会計への繰入金支出		0	
事業活動支出計	0	0	
事業活動収支差額	990	990	
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入		0	
投資活動収入計		0	
2. 投資活動支出		0	
投資活動支出計		0	
投資活動収支差額		0	
III 財務活動収支の部		0	
1. 財務活動収入			
財務活動収入計		0	
2. 財務活動支出			
財務活動支出計		0	
財務活動収支差額		0	
IV 予備費支出		0	
当期収支差額	990	990	
前期繰越収支差額	3,960,969	3,960,969	
次期繰越収支差額	3,961,959	3,961,959	

会計:事務局員退職積立金

科目	予算額	決算	備考
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(7) 雑収入	119	119	
受取利息収入	119	119	
(8) 他会計からの繰入金収入	40,000	40,000	
一般会計からの繰入金収入	40,000	40,000	
事業活動収入計	40,119	40,119	
2. 事業活動支出			
事業活動支出計		0	
事業活動収支差額	40,119	40,119	
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入		0	
投資活動収入計		0	
2. 投資活動支出		0	
投資活動支出計		0	
投資活動収支差額		0	

III 財務活動収支の部		0	
1. 財務活動収入			
財務活動収入計		0	
2. 財務活動支出			
財務活動支出計		0	
財務活動収支差額		0	
IV 予備費支出			
当期収支差額	40,119	40,119	
前期繰越収支差額	476,165	476,165	
次期繰越収支差額	516,284	516,284	

会計:保証金預かり積立金

科目	予算額	決算	備考
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(7) 雑収入	325,000	150,000	
受取利息収入		0	
新規預り金(新入会員数)	325,000	150,000	25,000×0名+25,000×3名+25,000×1名+25,000×2名+25,000
(8) 他会計からの繰入金収入	0	0	
一般会計からの繰入金収入		0	
事業活動収入計	325,000	150,000	
2. 事業活動支出			
事業活動支出計	250,000	375,000	
卒業・退会者返還金(卒業・退会者数)	250,000	375,000	卒業予定者10名×¥25,000+退会者5名
事業活動収支差額	75,000	-225,000	
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入		0	
投資活動収入計		0	
2. 投資活動支出		0	
投資活動支出計		0	
投資活動収支差額		0	
III 財務活動収支の部		0	
1. 財務活動収入			
財務活動収入計		0	
2. 財務活動支出			
財務活動支出計		0	
財務活動収支差額		0	
IV 予備費支出			
当期収支差額	75,000	-225,000	
前期繰越収支差額	1,775,000	1,775,000	正会員 71名×¥25,000
次期繰越収支差額	1,850,000	1,550,000	正会員 62名×¥25,000

保証金預金明細

2014年1月1日から2014年12月31日まで

(単位: 円)

保証金預金

科目	人数	金額	備考
前年度繰越(当初会員数)	71	1,775,000	正会員 71名 × ¥25,000
新規預り金(新入会員数)	6	150,000	0名 + 3名 + 1名 + 2名 × 25,000 = ¥150,000
退会者返還金(退会者数)	15	375,000	卒業予定者10名 × ¥25,000 + 退会者5名
保証金預金		1,550,000	

2014年正味財産増減計算書

2014年1月1日から2014年12月31日まで

科目	合計
I. 一般正味財産の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
受取入会金	95,000
受取会費	9,144,000
受取補助金等	0
受取寄付金	3,663,291
雑収益	1,926
登録料収入	870,000
その他収入	
他会計からの繰入金	40,000
保証金預金	150,000
経常収益計	13,964,217
(2) 経常費用	
事業費	9,289,178
公益事業費支出	8,690,727
その他事業費支出	598,451
管理費支出	3,624,285
会議費支出	35,200
給与手当支出	895,875
福利厚生費支出	8,890
旅費交通費支出	317,880
通信運搬費支出	460,145
消耗品費支出	188,932
会員支給品費支出	18,900
リース料支出	0
修繕費支出	0
印刷製本費支出	387,060
光熱水料費支出	44,186
貸借料支出	540,000
委託費	110,000
渉外費支出	313,000
雑支出	304,217
負担金支出	1,602,543
JCI負担金支出	87,318
日本JC負担金支出	437,500
地区協議会負担金支出	135,200
ブロック協議会負担金支出	581,750
国際協力資金支出	140,525
日本JC出向者負担金支出	0
WeBelieve購読料支出	220,250
他会計への繰入金支出	40,000
固定資産取得支出	0
什器備品取得支出	0
保証金返還支出	375,000
経常費用計	14,931,006
当期経常増減額	△ 966,789
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	
(2) 経常外費用	
経常外費用計	
当期経常外増減額	
当期一般正味財産増減額	△ 806,099

一般正味財産期首残高	1,447,194
一般正味財産期末残高	664,296
Ⅱ. 指定正味財産の部	
当期指定正味財産増減額	183,891
指定正味財産期首残高	6,212,134
指定正味財産期末残高	6,028,243
Ⅲ. 正味財産残高	6,692,539

財産目録

一般会計 (2014年12月31日現在) (単位：円)

科目	預入先番号	金額	摘要
普通預金	きのくに信用金庫 田辺支店 No. 638705	664,296	次年度繰越金
合計		664,296	

基金会計 (2014年12月31日現在) (単位：円)

科目	預入先番号	金額	摘要
定期預金	きのくに信用金庫 田辺支店 No. 3190880	3,961,959	周年事業積立金
定期預金	きのくに信用金庫 田辺支店 No. 3190880	516,284	事務局員退職金積立金
合計		4,478,243	

保証金預金 (2014年12月31日現在) (単位：円)

科目	預入先番号	金額	摘要
前年度繰越	きのくに信用金庫 田辺支店 No. 8232756	1,775,000	正会員 71名× ¥25,000
新規預り金	きのくに信用金庫 田辺支店 No. 8232756	150,000	0名+3名+1名+2名×25,000=¥150,000
返還金	きのくに信用金庫 田辺支店 No. 8232756	375,000	卒業予定者10名×¥25,000+退会者5名
合計		1,550,000	

2014年貸借対照表

2014年12月31日現在

科目	合計
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
普通預金	
きのくに信用金庫田辺支店No.638705	664,296
きのくに信用金庫田辺支店No.8232756	1,550,000
流動資産合計	2,214,296
2. 固定資産	
(1) 特定財産	
退職給付引当資産	516,284
定期預金	
周年事業積立金	3,961,959
特定財産合計	4,478,243
(2) その他の固定資産	
什器備品	0
固定資産合計	4,478,243
資産合計	6,692,539
II. 負債の部	
1. 流動負債	
流動負債合計	
2. 固定負債	
退職給付金引当金	516,284
保証金預金	1,550,000
固定負債合計	2,066,284
負債合計	2,066,284
III. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
次年度繰越金 周年事業積立金	3,961,959
指定正味財産合計	3,961,959
2. 一般正味財産	
次年度繰越額 一般会計	664,296
一般正味財産合計	664,296
正味財産合計	4,626,255
負債及び正味財産合計	6,692,539

備品明細

(2014/12/31 現在)

品名	数量	品名	数量
国旗	1	プロジェクター一式	1
JC旗	1	押切カッター	1
JCソング旗	1	ファクシミリ	1
5つの問いかけ旗	1	エアコン一式	2
若い我ら旗	1	換気扇	1
綱領旗	1	延長コードリール	2
JC旗ボールセット	1	台車	1
JC幟	100	I C レコーダー	1
JCゴング	1	ハードディスク	1
JCマーク	1	デジタル一眼レフカメラ	1
チャイムゴング	1	テント	2
スチール保管庫大	4	デジタルビデオカメラ	2
スチール保管庫小	7	移動式アンプ一式	1
スチール製整理棚	4	電池式柱時計	2
各自スチールトレイ	3	パソコンセット	1
スチールトレイ	1	プリンター	3
スチールデスク	1	スキャナー	1
応接セット 椅子	1	パソコン用デスク	2
応接テーブル	1	パソコンデスク用棚	1
折タミ椅子	24	留守番電話機	1
JCハッピー	50	コードレス電話機	2
掃除機	1		
テレビ	1		
冷蔵庫	1		
回転椅子	2		
ミーティングテーブル	6		
ホワイトボード	1		
行事用白板	1		